

# 中間市地域福祉計画 中間市地域福祉活動計画

平成 25 年度～平成 29 年度



平成 25 年 3 月

中 間 市 ・ 中間市社会福祉協議会

中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画

平成25年3月

【地域福祉計画】

発行 中間市 保健福祉部 福祉支援課

〒809-8501 福岡県中間市中間一丁目1番1号

TEL 093-246-6270 FAX 093-244-0579

【地域福祉活動計画】

発行 社会福祉法人 中間市社会福祉協議会

〒809-0018 福岡県中間市通谷一丁目36番10号

TEL 093-244-1230 FAX 093-244-1232

## はじめに

---



以前は、「向こう三軒両隣」という言葉で表現されるような、近所付き合いは当然としてお互いが何かと助け合ってきた良き習慣があり、そこには、信頼と安心によって結ばれたコミュニティが存在していたように記憶しています。

しかしながら、少子高齢社会や核家族化の進展、都市化によるライフスタイルの変化など多様な理由から、地域における人間関係が希薄化してきました。

こうした中、高齢者の孤立や若年層の子育ての不安の増大など福祉課題も多様化し、各個人、各家庭で対処できない問題が山積する中で、地域の役割は非常に重要になりつつあります。

また、2年前に発生した東日本大震災の教訓として、地域ぐるみの防災活動や支え合い活動を充実させることも求められております。

このような中、これらの福祉課題を解決し、地域における福祉の増進を図ることを目的として、地域福祉の推進の中核的な担い手である、中間市社会福祉協議会と合同で「中間市地域福祉計画」と「中間市地域福祉活動計画」を一体的に策定いたしました。

中間市としては、初めて策定する計画でしたが、市民のみなさんに計画策定への参画をしていただくために、市民意識調査、事業所調査、関係団体調査（いずれもアンケート調査）やワークショップを多くの自治会単位で開催し、たくさんのご意見をいただきました。

本計画では、これまでの公的サービスに加えて、地域住民や関係機関、ボランティア、事業者など地域の社会資源により、「自助・互助、共助・公助」の理念の下で、これらの活動を効率的・効果的に連携させることによって福祉課題を解決していくための施策の方向性を掲げております。

今後は、本計画の基本理念であります、「笑顔あふれる地域（まち）づくり」を実現するべく関係機関との協働により計画を推進していく所存です。

終わりに、本計画の作成にあたり、熱心にご議論いただきました本計画策定委員会委員長を始め委員の皆様と、各アンケート調査やワークショップにご協力いただきました、多くの皆様のご理解とご協力にあらためて感謝申し上げます。

平成25年3月

中間市長 松下 俊男

## はじめに

---



私たちを取り巻く環境は、少子高齢化の進行とともに、過疎化が急激に進んでおり、核家族世帯や一人暮らし世帯が増加し、福祉意識の多様化、量的拡大、質的向上に加えて福祉サービスの個別化が求められる時代へと変容しています。それは、かえって人々の孤立を招き、さまざまな絆や福祉コミュニティへの関心は低下してきている状況となっております。

こうした中、子どもから高齢者まで、障がいの有無に関わらず、人にとって一番つらいことは、社会的孤立とそれに伴う孤独と考えられ、人生の最期まで孤独感を持たずに、生きていける社会の構築は、社会的課題となりつつあり、新しい地域福祉の取組みが急務となっております。

また、ここ十数年の間に私たちは阪神淡路大震災と東日本大震災および九州北部豪雨災害等の教訓で、見返りを期待しての行動でなく、絆や他者への信頼、自治会等の活動といった住民主体の地域力が重要であることを改めて感じました。

このような社会情勢の中、中間市と一体となって、「中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画」を合同で策定することは、願ってもない機会であり、中間市地域福祉活動計画は社会福祉協議会が担うものとして、行政と共に一体的に推進してまいり所存でございます。

今後は、本計画の基本理念であります「笑顔あふれる地域（まち）づくり」の実現に向け、市民の皆様方と共に知恵を出しあい、汗を流しながらより充実した福祉の実現を目指して参ります。

その実現には、社会福祉協議会に求められるところの地域福祉は住民主体である故に、構成している各福祉団体の協力のもと各団体の特色と力量（資源）を結集して運営を行い、その結果を顕著にすべきであると考えます。

今後とも、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、計画策定にあたり、熱心にご議論いただきました本計画策定委員会委員長を始め委員の皆様とともに、車の両輪のように奔走していただきました市行政、そして、各アンケート調査やワークショップで貴重なご意見、ご提言をいただきました市民の皆様にご心から感謝申し上げます。

平成25年3月

社会福祉法人中間市社会福祉協議会

会 長 山 口 隆 人



# 目 次

---

## 第1章 計画の策定にあたって

1. 計画策定の背景と目的.....	1
2. 計画の位置づけ .....	3
3. 計画の期間.....	6
4. 計画の策定体制 .....	7

## 第2章 中間市の現状と課題

1. 統計からみた中間市全体の現状 .....	9
(1) 人口・世帯 .....	9
(2) 自然動態・社会動態.....	12
(3) 女性の就労の状況 .....	13
(4) 介護を要する方について .....	13
(5) 主要死因・死亡者数.....	14
(6) 障がいのある方について .....	14
(7) 中間市の課題 .....	15
2. 市民意識調査及びワークショップから見た地区別の現状 .....	16
(1) 市民意識調査の概要.....	16
(2) ワークショップの概要 .....	16
(3) 小学校区別にみた現状 .....	17
3. 事業所・関連団体調査結果からみた共助の現状と課題 .....	64
(1) 事業所調査 .....	64
(2) 関係団体調査 .....	66
(3) 事業所及び関連団体による「共助」の可能性.....	68
4. 中間市における自助・互助、共助、公助の可能性について.....	69

## 第3章 中間市の取り組み（地域福祉計画）

1. 基本理念 .....	71
2. 施策の体系.....	72
3. 基本目標ごとの取り組み .....	73
(1) みんながつながる「なかま」 .....	73
(2) みんなが安心して暮らせる「なかま」 .....	74
(3) みんなが心豊かになれる「なかま」 .....	75
4. 災害時要援護者の支援方策について .....	76

#### 第4章 社会福祉協議会の取り組み（地域福祉活動計画）

1. 福祉理念 .....	79
2. 社会福祉協議会の基本方針 .....	79
3. 施策の体系 .....	81
4. 基本目標ごとの取り組み .....	83
(1) みんながつながる「なかま」 .....	83
(2) みんなが安心して暮らせる「なかま」 .....	85
(3) みんなが心豊かになれる「なかま」 .....	87

#### 第5章 計画の進行管理

1. 計画の進行管理 .....	89
(1) 協働による計画の推進 .....	89
(2) 計画推進の方策 .....	91

#### 参考資料

1. 中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画策定委員会委員名簿 .....	93
2. 中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱 .....	94
3. 策定経過 .....	95
4. 関係団体の状況について .....	97
5. ワークショップの結果 .....	100

# 第1章 計画の策定にあたって



## 1

## 計画策定の背景と目的

都市部への人口集中や、少子高齢化、核家族化が進む中で、伝統的な地域の相互扶助機能は弱体化し、孤独死や虐待などの社会問題が顕在化しています。

その一方で、平成23年3月11日に起こった東日本大震災では、地域の絆の重要性が再認識され、地域ぐるみのまちづくりや支え合いの機運が高まっています。

社会福祉法<sup>※(1)</sup>「第4条 地域福祉の推進」においては、地域福祉を推進していく上では、特定の限定された人たちだけでなく、すべての人が幸せに暮らしていけるような地域社会を目指していく必要があるとされています。

#### 社会福祉法第4条 地域福祉の推進より

地域住民、社会福祉を目的とする事業を営む者及び社会福祉に関する活動を行う者は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努めなければならない。

そのため、地域福祉が目指すのは、「誰もが住み慣れた地域で、安心して、地域社会の一員としていきいきと暮らし続けることができる」地域社会です。そのためには、

- ① 年をとっても、障がいがあっても、個人として尊重され、地域で生活できるようにするために、誰でも必要なときに、質のよい福祉サービスを気軽に利用できる。
  - ② 保健・医療・福祉サービスや生活環境サービスとの連携を図り、生活支援の包括的サービスを実現する。
  - ③ あらゆる施策、サービス、機器や建物、道路交通環境等にユニバーサルデザイン<sup>※(2)</sup>の視点を取り入れる。
  - ④ 社会的孤立、孤独、社会的排除などの課題に取り組み、地域社会における「絆」づくりを再構築し、共存・共生の福祉文化をもつ地域づくり、福祉のまちづくりをすすめる。
- ことが必要だとされています。

※(1)社会福祉法

わが国における福祉サービスの基礎をなす法律。社会福祉事業の範囲や社会福祉の基礎構造に関する規定とともに、市町村地域福祉計画などの作成、その他の地域福祉の推進を図るための規定が定められている。

※(2)ユニバーサルデザイン

障がいのある方を特別に対象とするのではなく、すべての人にとって使いやすいような製品、環境、情報などをデザインする考え方。

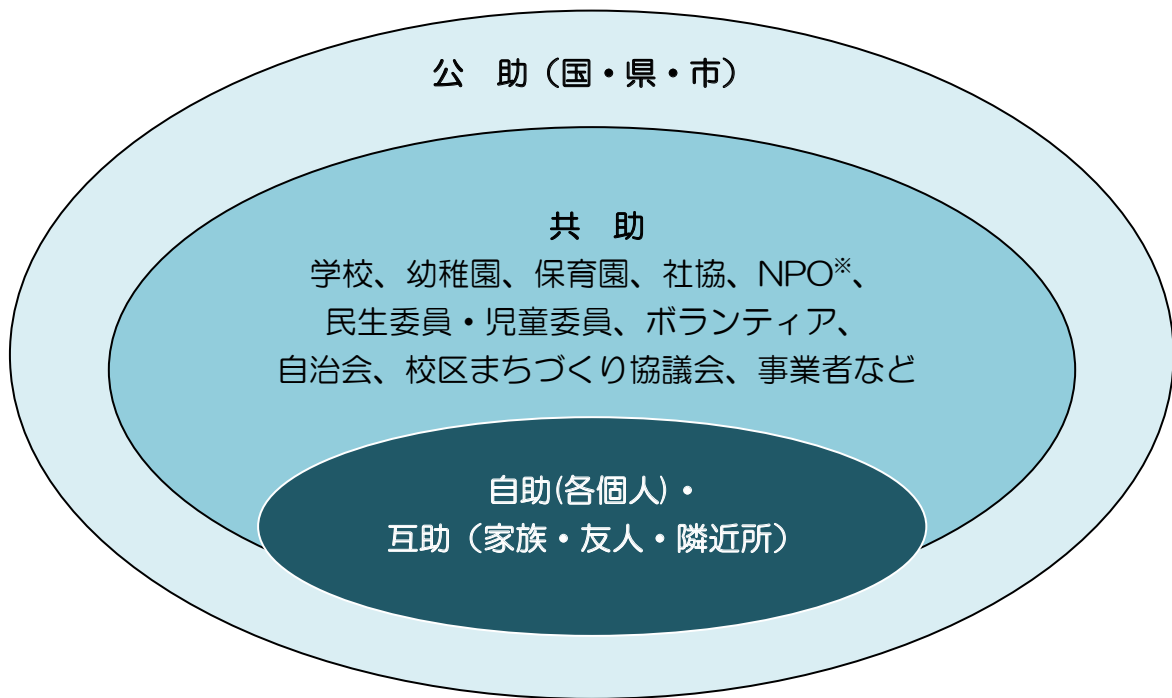


このような社会を実現するためには、まずは住民の主体的な参加が大前提となります。これまで社会福祉は、行政から地域住民への給付という形をとることが多い傾向がみられました。しかしながら、豊かな地域社会をつくるためには、住民自身が自分の住む地域に対する関心や愛着を高め、その地域を良くしたいと思うことで、地域住民全てによって支える福祉に代わっていく必要があります。（自助・互助）

また、地域における様々な団体や事業所も、地域福祉を構成する重要な要素です。これらの団体と地域住民の絆づくりを進めることによって、相互の協力体制を構築し、災害時等有事の際などにも対応できる地域体制づくりが可能になると考えます。（共助）

また、自治体は、住民や関係団体、事業所が相互に交流する機会の提供を積極的に進めるとともに、地域福祉に関連する情報提供や相談窓口の充実、自治会活動や関連団体等への援助を行っていくことで、地域福祉の活性化に尽力していくことが必要です。（公助）

本市においては、このような考え方のもと、「地域福祉計画」及び「地域福祉活動計画」を策定することとしました。



※NPO

社会的な活動を行う民間組織で、利潤目的ではなく社会的な目的を持つ組織のこと。

## 2

## 計画の位置づけ

## (1) 法的根拠等

「中間市地域福祉計画」は、社会福祉法に基づく法定計画です。

## 社会福祉法第107条（昭和26年法律第45号）

市町村は、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という）を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民、社会福祉を目的とする事業を営業者その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるよう努めるとともに、その内容を公表するよう努めるものとする。

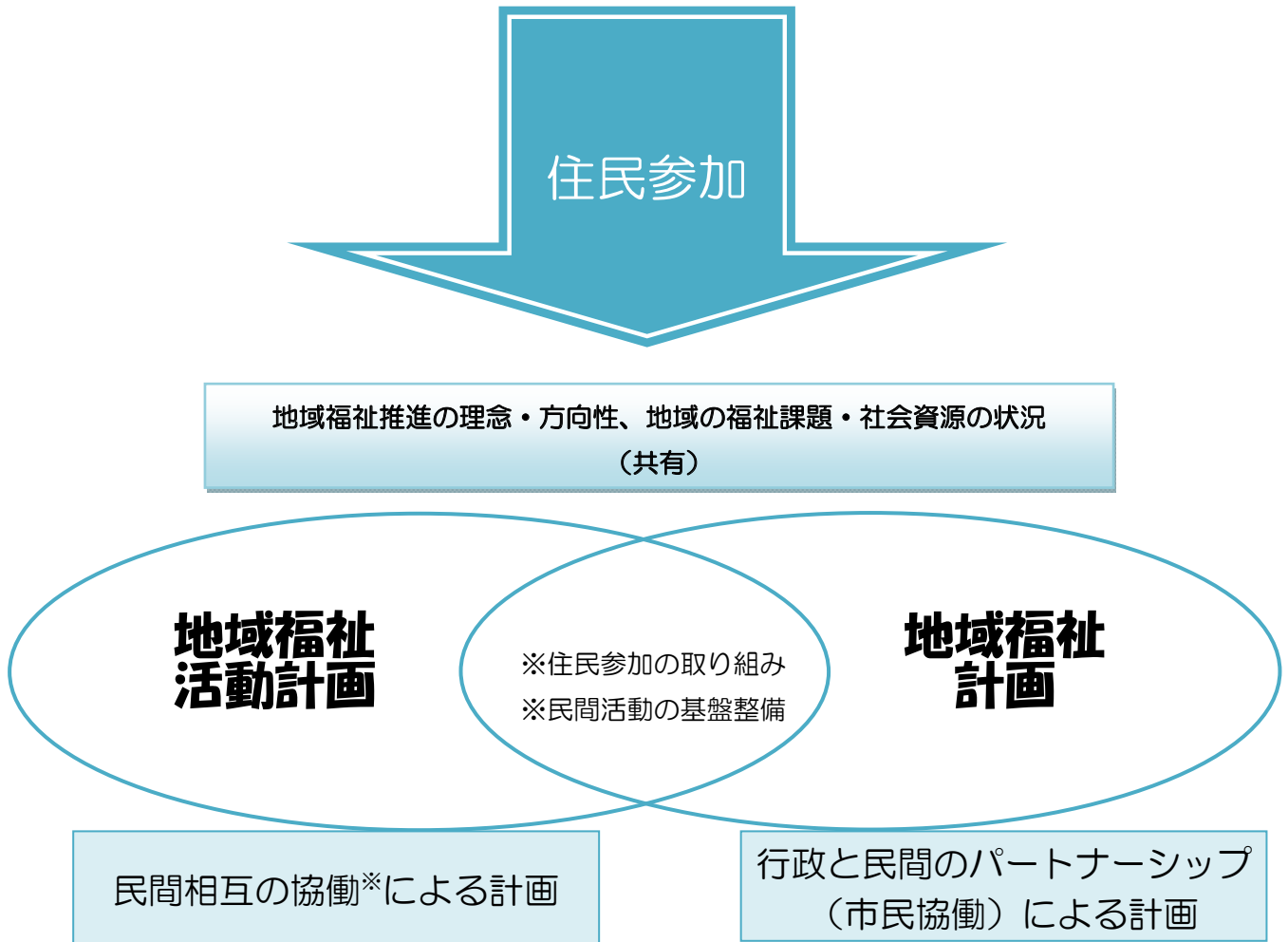
1. 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
2. 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
3. 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

一方で、「中間市地域福祉活動計画」は、社会福祉法第109条に基づく、社会福祉協議会が中心となって策定する計画です。社会保障審議会福祉部会（平成14年1月）において、下記の（6）に指針としてまとめられています。

## 社会保障審議会福祉部会（6）市町村社会福祉協議会の役割

- 地域福祉を推進する様々な団体により構成された市区町村社会福祉協議会は、社会福祉法において地域福祉を推進する中心的な団体として明確に位置づけられている。また、社会福祉協議会は、元来、地域住民主体を旨とした地域住民の参加の推進やボランティア、福祉教育、まちづくり等の実績を有することを踏まえ、地域福祉計画策定に当たっては市町村の計画策定に積極的に協力することが期待される。
- なお、社会福祉協議会が中心となって策定している地域福祉活動計画は、住民等の福祉活動計画として地域福祉の推進を目指すものであることから、地域福祉計画とその内容を一部共有したり、地域福祉計画の実現を支援するための施策を盛り込んだりする等、相互に連携を図ることは当然である。

【地域福祉計画と地域福祉活動計画との関係】



※協働

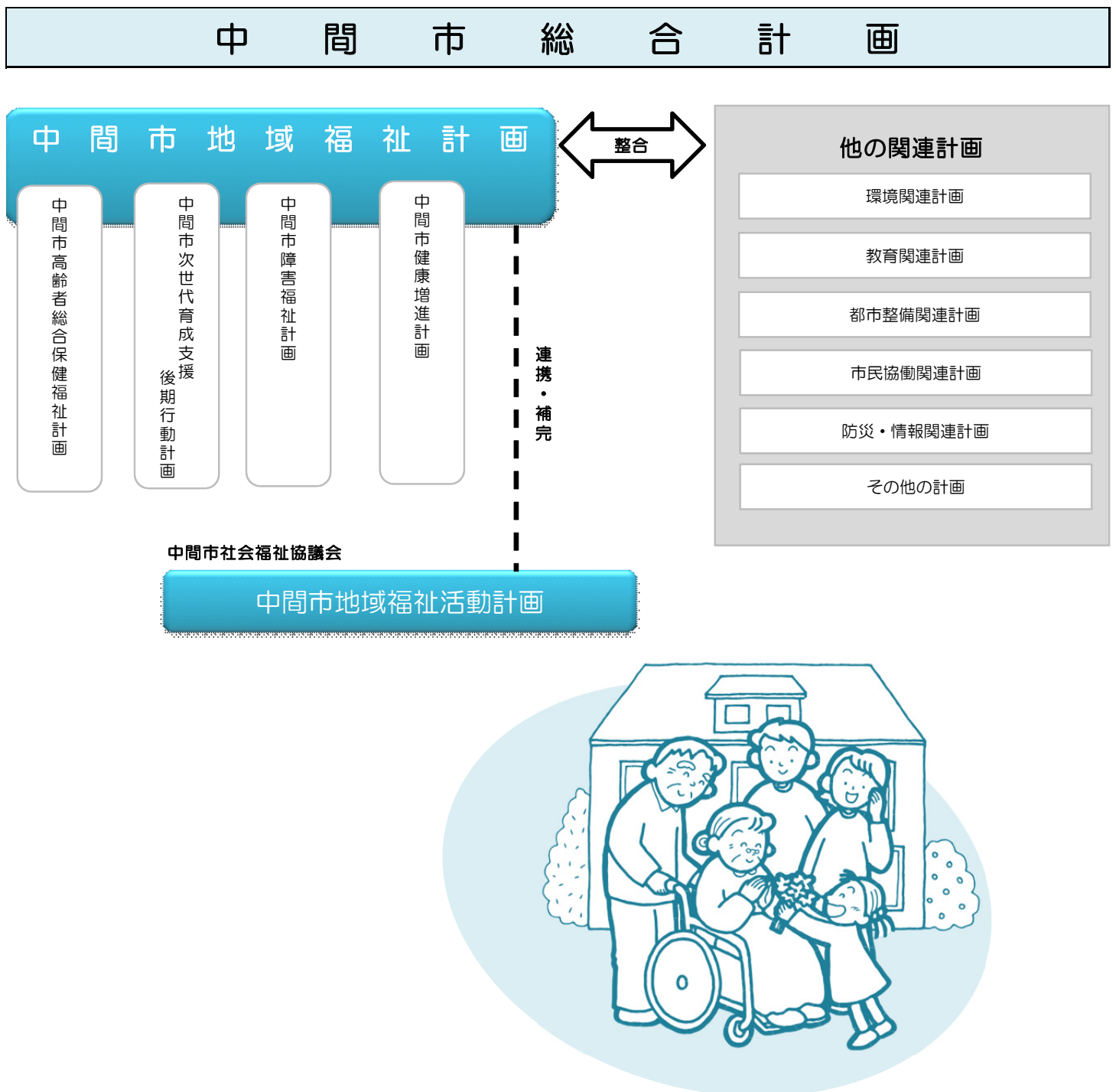
住民・行政・企業など複数の主体が、それぞれの特性を認識し尊重し合い、資源を出し合いながら、対等な立場で、地域の課題解決など共通の目的に向け、連携・協力すること。

## (2) 関連計画との関係

本市では、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉・子育て支援、健康増進などの個別計画を策定し、施策を推進してきました。

しかし、これまでのように個々の分野それぞれで行う福祉サービスでは、多様化する家族形態や市民のニーズに対応できなくなっています。

そこで、様々な福祉分野の計画を横断的に結び、地域を中心に様々な施策が有効に実施され、市民活動の活発化が推進されるよう、本計画を策定いたします。



3

計画の期間

本計画の期間は、平成25年度から平成29年度までの5年間とします。

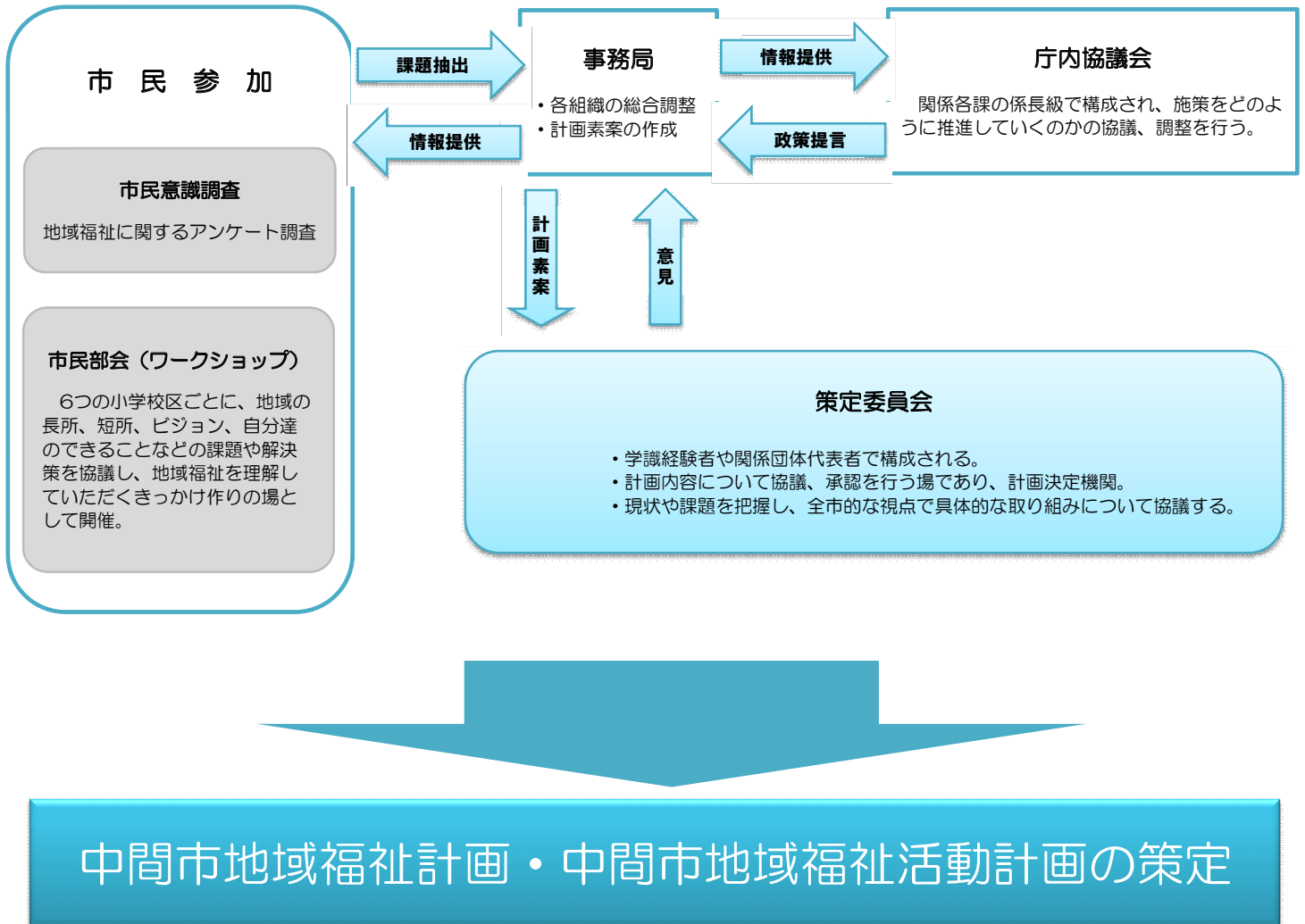




4

計画の策定体制

本計画は次の体制で策定しました。



中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画の策定





## 第2章 中間市の現状と課題



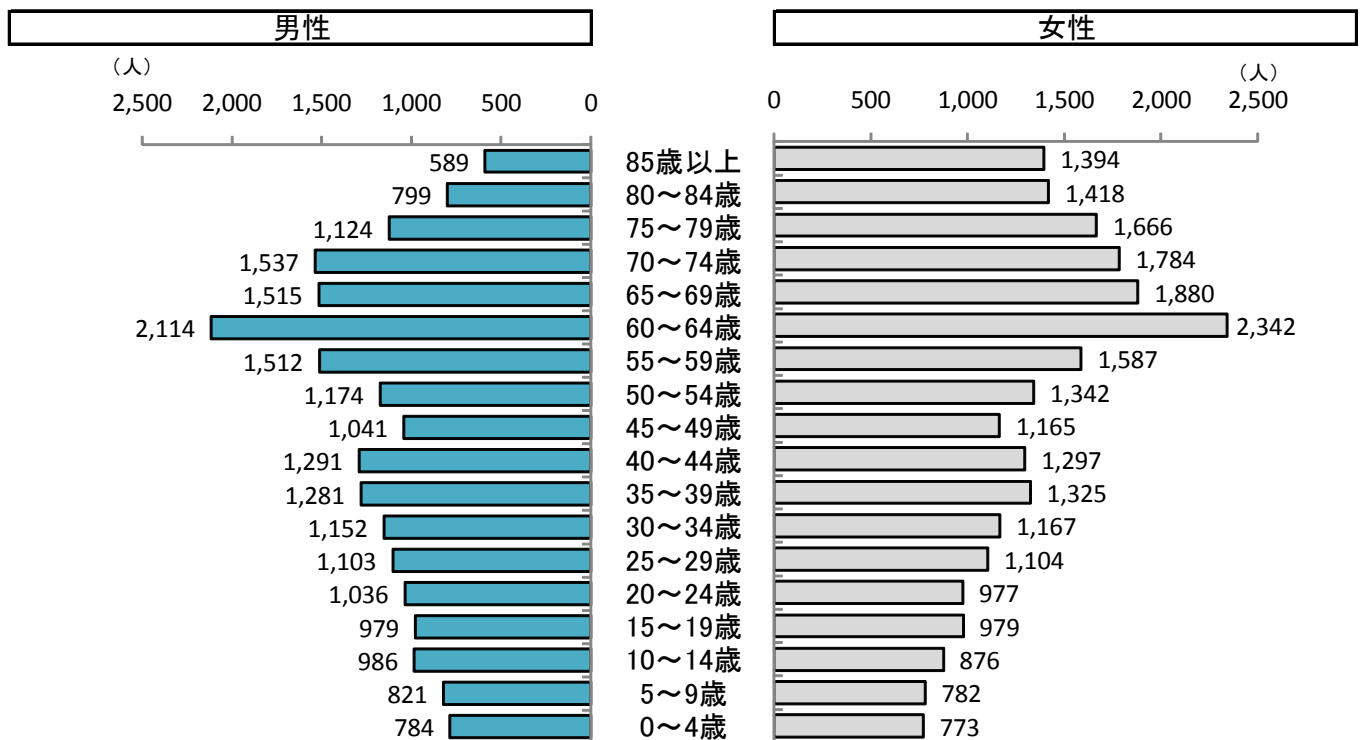
## 1

## 統計からみた中間市全体の現状

## (1) 人口・世帯

## ①人口ピラミッド

平成24年10月1日現在の本市の人口は44,696人（男性20,838人、女性23,858人）となり、男女とも60～64歳の人口が最も多くなっています。

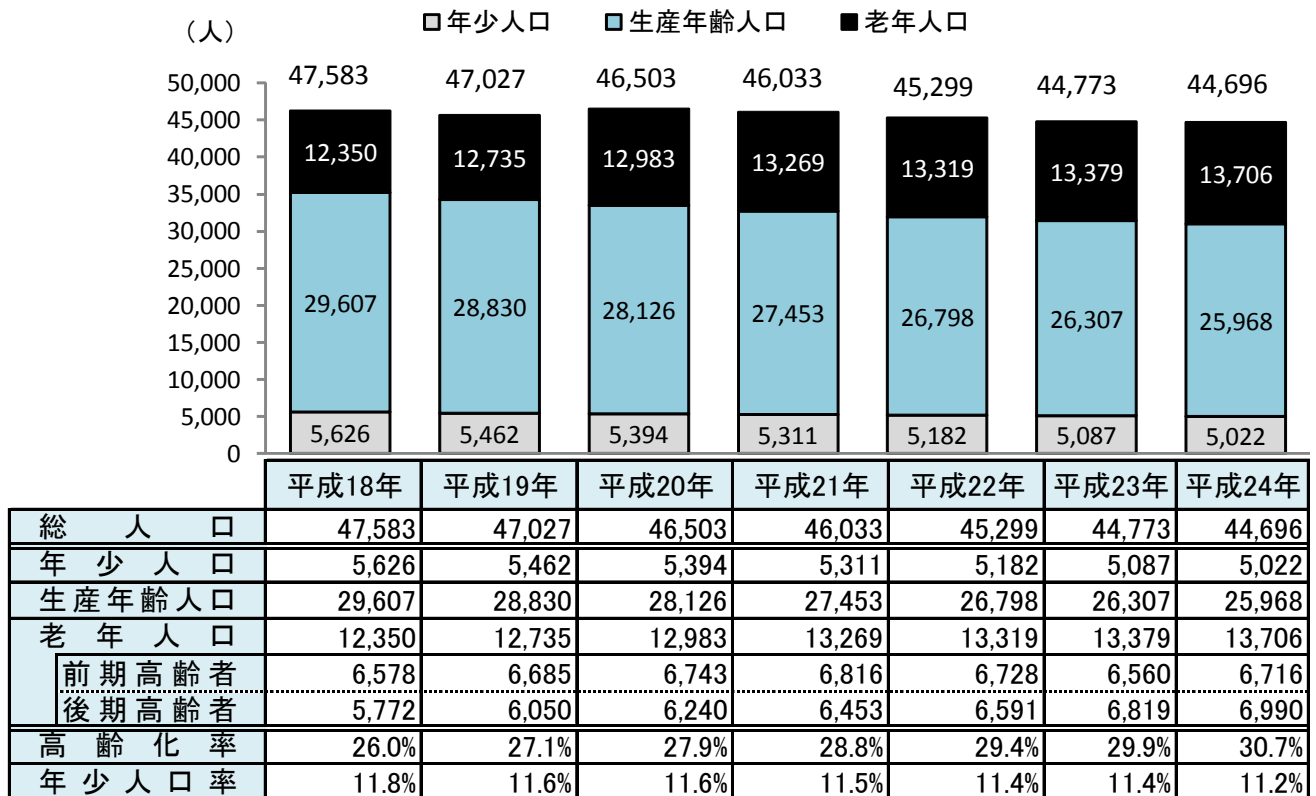


資料：住民基本台帳人口（平成24年10月1日）



②年齢3区分別人口の推移

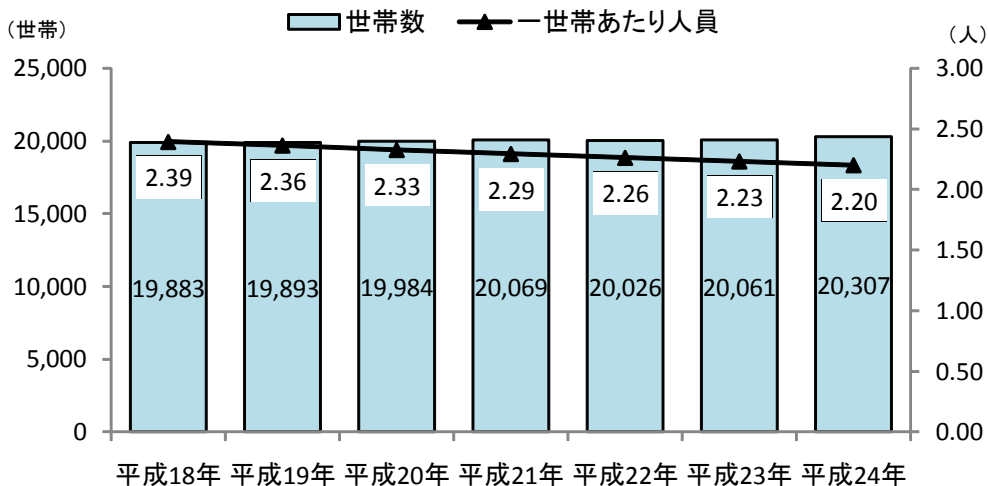
総人口は平成18年以降、年々減少傾向となっていますが、65歳以上の老年人口は増加しており、高齢化率は平成24年10月1日現在で30.7%と約3人に1人が高齢者となっています。一方で15歳未満の年少人口は減少しており、本市において少子高齢化が進んでいることがわかります。



資料：住民基本台帳人口（各年10月1日現在）

③世帯の状況

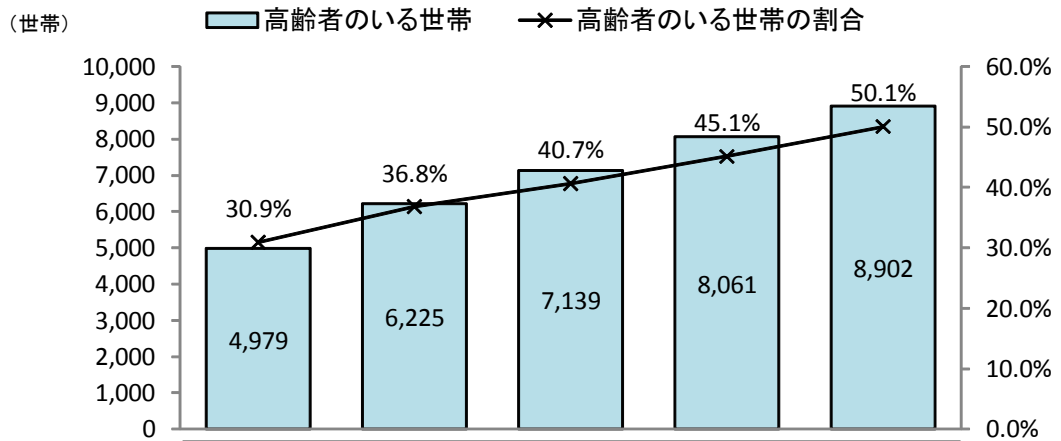
一般世帯の状況を見ると、若干の増減はあるものの、20,000世帯前後で推移しています。また、一世帯あたりの平均人員をみると、年々減少傾向となっており、核家族化が進んでいることがわかります。



資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

④高齢者のいる世帯

高齢者のいる世帯は年々増加傾向となっており、平成22年には一般世帯の約半数を占めています。また、高齢単身世帯や夫婦のみの世帯も年々増加しています。



	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
一般世帯数	16,104	16,913	17,560	17,864	17,778
高齢者のいる世帯数	4,974	6,225	7,139	8,061	8,902
高齢単身世帯	886	1,219	1,666	2,086	2,552
夫婦のみ世帯	1,241	1,823	2,251	2,492	2,743
高齢者のいる世帯の割合	30.9%	36.8%	40.7%	45.1%	50.1%

資料：各年国勢調査

注1) 一般世帯とは、住居と生計を共にしている人々の集まりで持ち家や借家等の住宅に住む世帯、下宿や会社の独身寮に住む単身者や住宅以外に住む世帯を指す。

注2) 高齢者のいる世帯とは、65歳以上親族人員のいる世帯を指す。

注3) 夫婦のみ世帯とは、夫65歳以上、妻60歳以上の世帯を指す。

⑤ 小学校区別人口と世帯の状況

小学校区別の人口は、以下のとおりとなっており、最も高齢化率が高いのは南校区（34.6%）、次いで中間校区（32.5%）となっています。

小学校区	世帯数 (世帯)	人口 (人)	65歳以上人口 (人)	高齢化率
底井野校区	1,450	3,488	979	28.1%
中間東校区	5,158	11,339	3,438	30.3%
中間西校区	2,475	5,746	1,669	29.0%
中間校区	3,460	6,997	2,277	32.5%
中間北校区	2,916	6,355	1,619	25.5%
中間南校区	4,848	10,771	3,724	34.6%

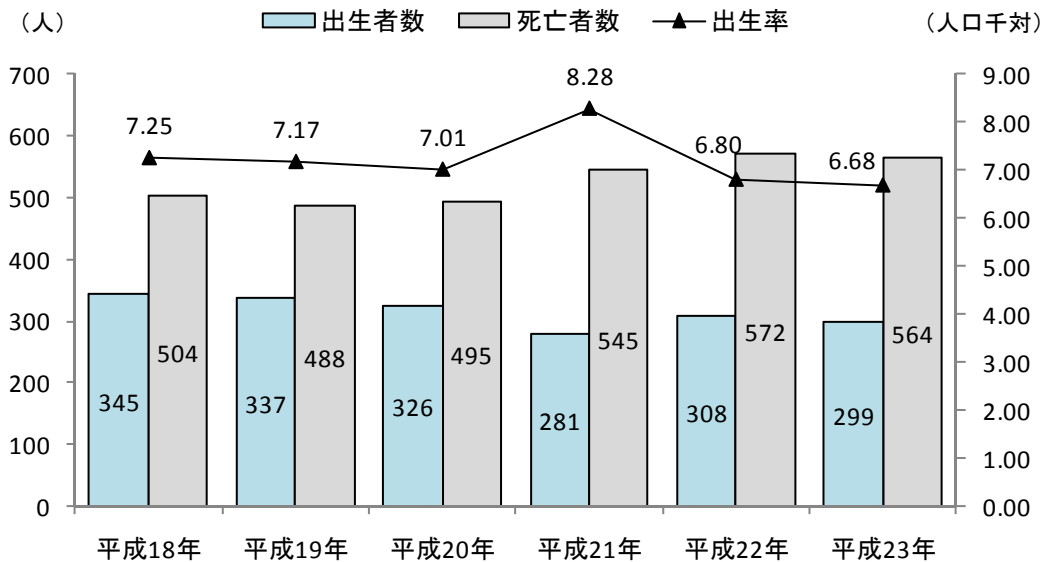
資料：住民基本台帳人口(平成24年10月1日現在)

(2) 自然動態・社会動態

①出生と死亡の状況

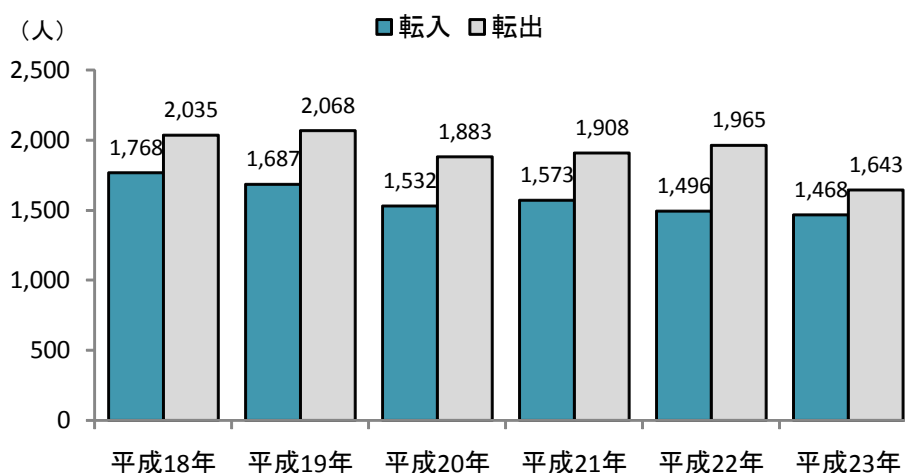
出生者数は平成21年以降、概ね300人前後で推移しています。

一方で死亡者数は平成21年と平成22年に増加しましたが、平成23年には再び減少しています。



②転入・転出

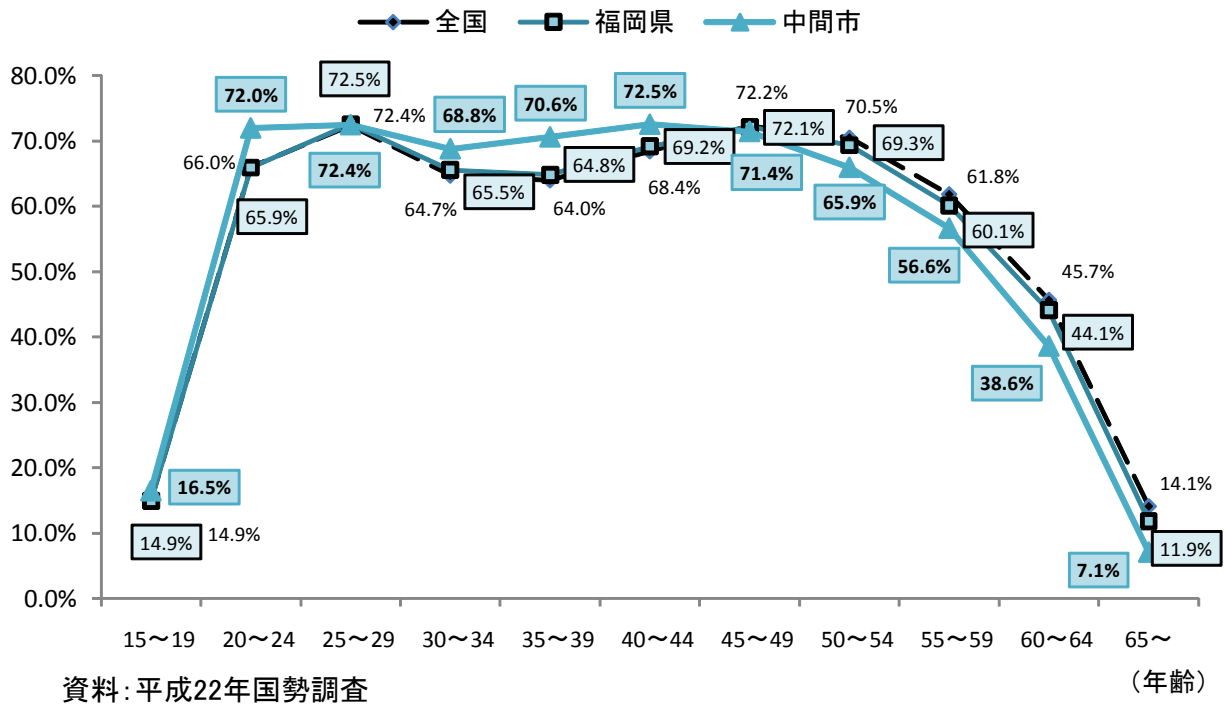
転入・転出の状況を見ると、転入者は平成21年以降減少傾向となっています。一方で転出者は、平成22年までは1,900人から2,000人程度で推移していましたが、平成23年には大きく減少し、1,643人となっています。



資料: 市民課

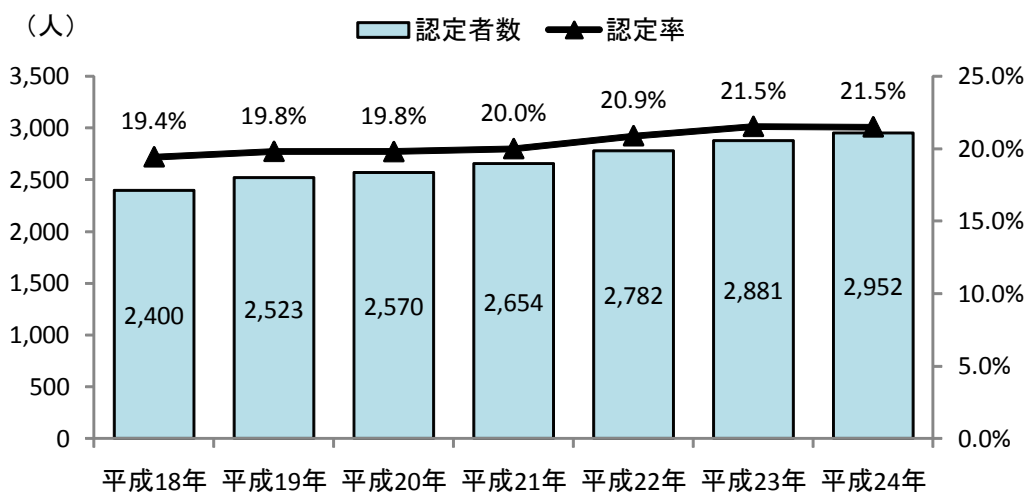
### (3) 女性の就労の状況

女性の労働力率をみると、30代前半で労働力率が低下する「M字型カーブ」を描いていますが、全国や県と比べるとそのカーブは緩やかであり、子育て世代の働いている女性が多い傾向がみられます。



### (4) 介護を要する方について

介護を要する方についてみると、認定者数及び認定率はゆるやかな増加傾向となっています。



(5) 主要死因・死亡者数

主な死因についてみると、悪性新生物が最も多く、次いで心疾患、肺炎と続いています。

疾病名	死亡者数
悪性新生物	194
心疾患（高血圧性を除く）	78
肺炎	66
脳血管疾患	41
大動脈瘤及び解離	17
不慮の事故	15
腎不全	10
自殺	10
糖尿病	9
肝疾患	6
老衰	6
総数	546

資料：平成21年度福岡県保健統計年報

(6) 障がいのある方について

身体障害者手帳<sup>※(1)</sup>所有者は、平成19年度以降、概ね2,400人程度で推移しています。

療育手帳<sup>※(2)</sup>所有者と精神障害者保健福祉手帳<sup>※(3)</sup>所有者は、緩やかな増加傾向となっており、平成23年度には療育手帳所有者は320人、精神障害者保健福祉手帳所有者は260人を超えています。

身体障害者手帳

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
合 計		2,480	2,449	2,434	2,444	2,418
障害程度別	1級	670	638	603	614	600
	2級	436	427	423	426	412
	3級	441	443	458	453	463
	4級	571	592	606	610	616
	5級	158	151	147	145	133
	6級	204	198	197	196	194
障害種別	視覚障害	—	187	186	182	181
	聴覚・平衡機能障害	—	252	258	258	246
	音声・言語・そしゃく機能障害	—	31	29	26	26
	肢体不自由	—	1,274	1,277	1,286	1,275
	内部障害	—	705	684	692	690

資料：介護保険課資料（各年度末）

療育手帳

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
合 計		288	286	304	312	323
障害程度別	A(重度)	151	148	165	165	164
	B(中・軽度)	137	138	139	147	159

資料：介護保険課資料（各年度末）

精神障害者保健福祉手帳

		平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
合 計		220	254	256	257	262
障害程度別	1級	29	29	29	26	21
	2級	130	169	175	167	174
	3級	61	56	52	64	67

資料：介護保険課資料（各年度末）

## (7) 中間市の課題

団塊の世代の人口構成が大きく、出生数に大きな変化はみられていないことなどから、今後さらに少子高齢化が進むことが予測されます。また、平均世帯人員も減少しており、核家族化の進展や、単身高齢世帯や夫婦のみの世帯が増加することも考えられます。高齢化の状況は、地域によって大きく異なる傾向がみられることから、高齢化が進んでいる地域においては、孤独死の防止や閉じこもりの予防などの対策が必要といえます。一方で、子育て世代が多い地域においては、子どもの見守り体制や青少年の健全育成に関する取り組みが必要です。女性の労働力率をみると、福岡県や全国と比べると緩やかなM字型カーブを描いており、子育て世代においても働いている女性は多い傾向がみられ、ひとり親世帯や夫婦共働き世帯に対して、地域で見守る体制づくりにも、取り組んでいく必要があります。

合わせて、市民一人ひとりが自分自身の健康に気をつけ、元気に地域で住み続けられるような自助努力も地域福祉の推進においては重要なことです。要介護認定者数及び要介護認定率は年々増加傾向となっています。介護を必要としない身体づくりのため、介護予防等を推進するとともに、高齢期に入る前からの健康づくりについても関心をもつことが大切です。

また、中間市の主な死因は、悪性新生物や心疾患など生活習慣病が上位を占めており、これらの病気は食生活や適度な運動などの生活習慣の改善によってある程度は予防できる病気です。市民に対して健康診断などの受診勧奨を進めるとともに、運動や栄養教室など、住民が参加しやすい地域での取り組みを推進するとともに、そのような機会を利用した住民同士のコミュニケーションの機会を増やし、閉じこもりの予防などに努めることで、心の健康づくりにも留意していく必要があります。

### P14 用語説明

#### ※(1) 身体障害者手帳

身体障がいのある人が身体障害者福祉法に定める障害に該当すると認められた人に対して交付される手帳。

#### ※(2) 療育手帳

児童相談所または知的障害者更生相談所において、知的障がいと判定された人に対して交付される手帳。

#### ※(3) 精神障害者保健福祉手帳

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に定める一定の精神障がいの状態にある人に対して交付される手帳。

2

市民意識調査及びワークショップから見た地区別の現状

本計画の策定にあたって、市民の地域福祉に関する意識や自助・互助、共助への参加意向、公助への期待の内容を知るため、平成23年度に市民意識調査を、平成24年度にワークショップを行いました。

(1) 市民意識調査の概要

①調査の目的

「中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画」策定にあたり、住民及び地域の現状や課題などを把握し、その結果を計画の中に反映するために行いました。

②調査の方法

- 配布・回収方法 : 郵送調査
- 調査方法 : 質問紙による自記入式
- 調査期間 : 平成24年2月8日～平成24年2月24日
- 配布・回収状況

配布数	回収数	回収率
2,498	1,103	44.1%

(2) ワークショップの概要

市民の自助・互助、共助の意識醸成と、より具体的で実現可能な意見を得るため、平成24年8月～9月にかけて、校区ごとにワークショップを2回開催しました。また、その中で自治会ごとに下記のテーマについてそれぞれ話し合いをしていただきました。

ワークショップの2回目では、1回目に話し合った「誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために必要なことは」と「中間市で災害・水害が発生した時、必要なことは何だと思うか」について、それぞれより具体的な意見を、「自助・互助」、「共助」、「公助」の視点から分類していただきました。

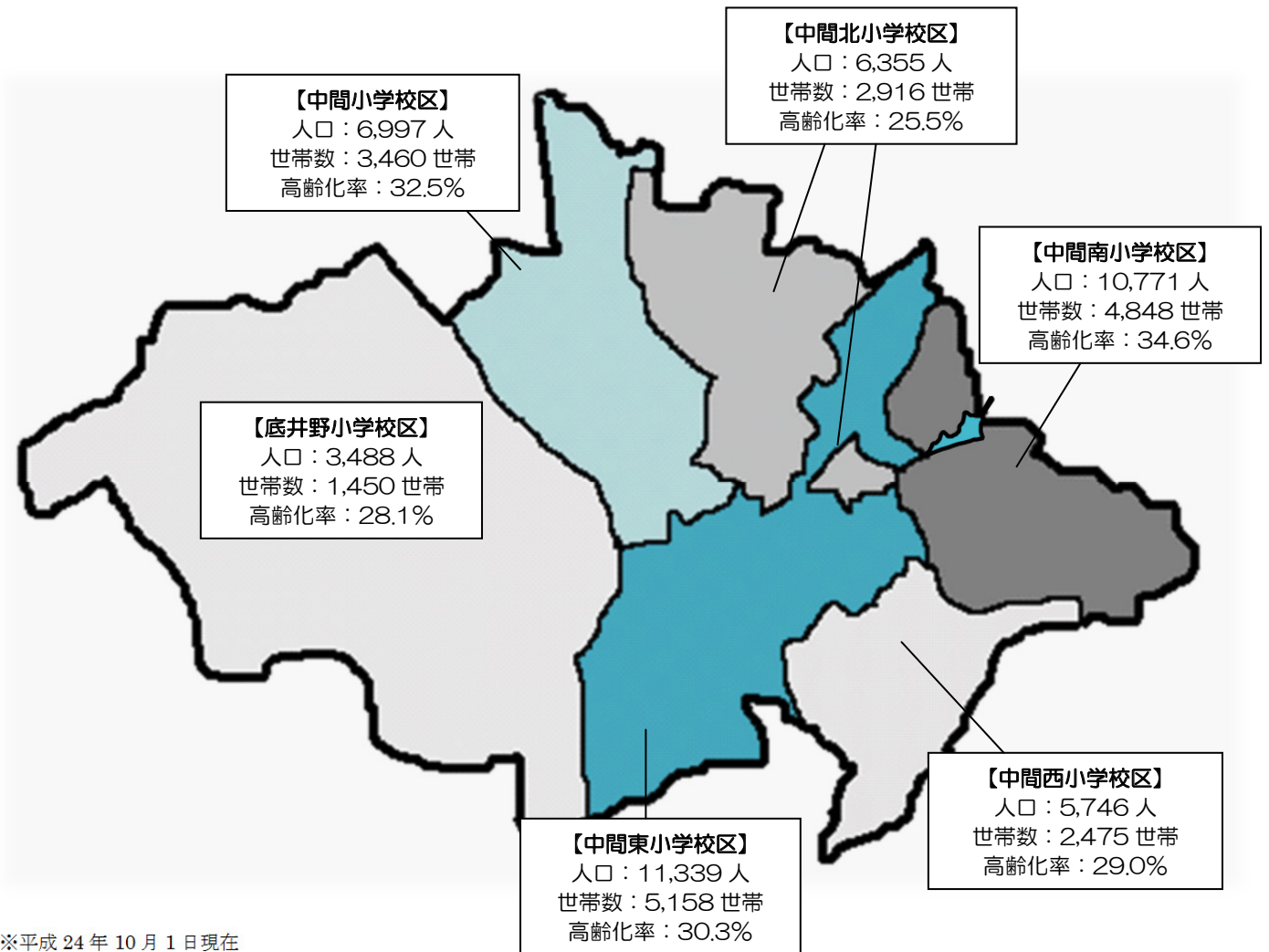
◆ワークショップ 1回目（7月開催）	
テーマ1	あなたの自治会の良いところ、悪いところは何ですか？
テーマ2	どのような自治会であれば良いと思いますか？ どのような中間市であれば良いと思いますか？
テーマ3	誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために必要なことは何だと思いますか？
テーマ4	中間市で災害・水害が発生した時、必要なことは何だと思いますか？
◆ワークショップ 2回目（8月開催）	
テーマ1	「誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために必要なこと」を実現するためには、どうすれば良いと思いますか？【自助・互助、共助、公助】
テーマ2	「中間市で災害・水害が発生した時、必要なこと」を実現するためには、どうすれば良いと思いますか？【自助・互助、共助、公助】



### (3) 小学校区別に見た現状

地域福祉計画においては、市民それぞれが意識的に地域福祉の増進に取り組む必要があるため、市民意識調査及びワークショップについては、小学校区別の分析を行いました。

小学校区の内訳及びは以下のとおりとなっています。

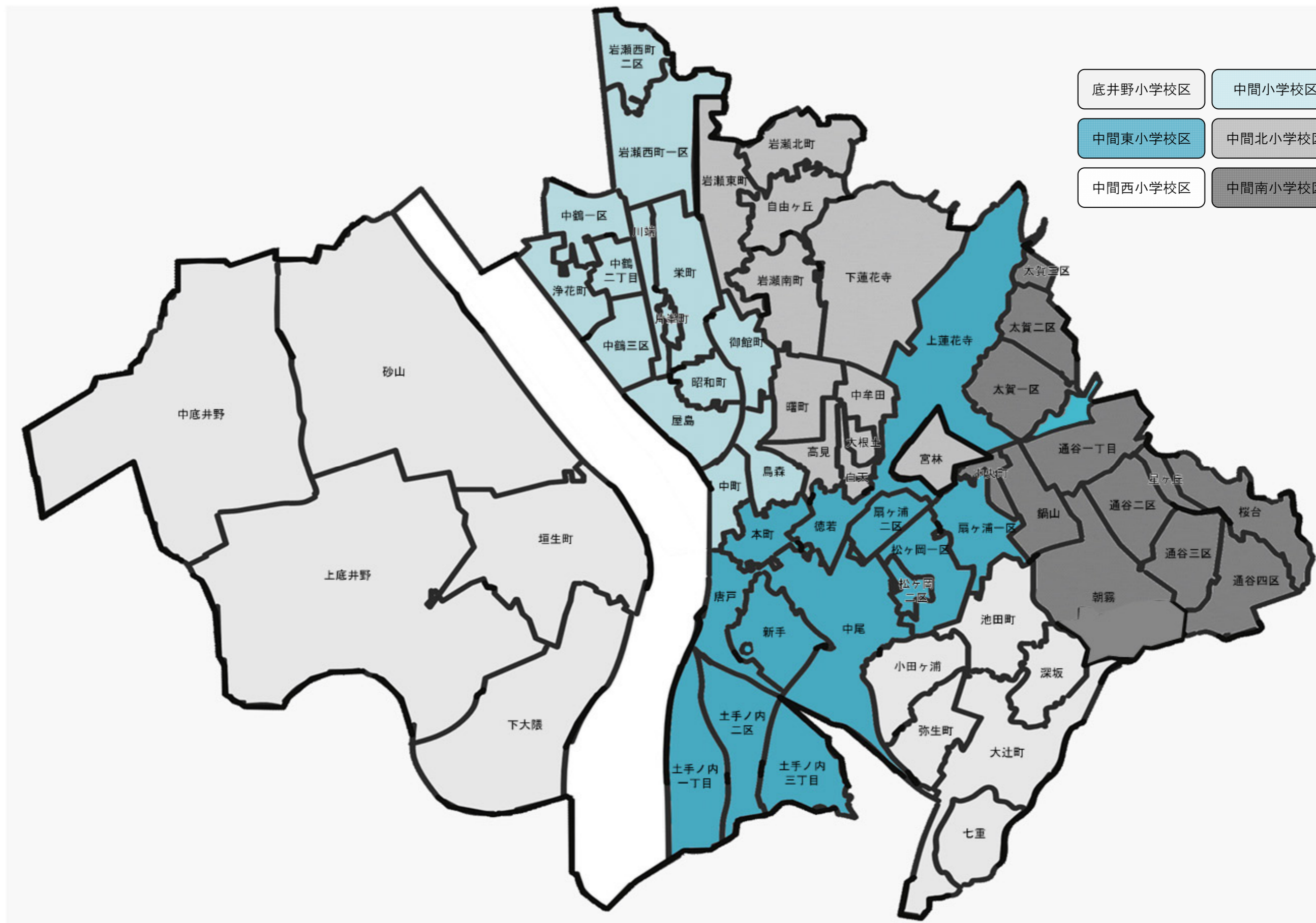


※平成24年10月1日現在





[自治会区分]



## [自治会加入率]

校区	自治会名	24年度(24.3末)			校区	自治会名	24年度(24.3末)		
		加入世帯数(a)	総世帯数(b)	加入率(a)/(b)			加入世帯数(a)	総世帯数(b)	加入率(a)/(b)
底井野	垣生町	359	553	64.9%	中間	中鶴二丁目	612	683	89.6%
	砂山	117	188	62.2%		中鶴三区	276	328	84.1%
	中底井野	58	83	69.9%		浄花町	200	340	58.8%
	上底井野	283	424	66.7%		岩瀬西町一区	196	328	59.8%
	下大隈	145	195	74.4%		岩瀬西町二区	113	252	44.8%
中間東	土手ノ内一丁目	350	459	76.3%		御館町	95	182	52.2%
	土手ノ内二区	316	435	72.6%		鳥森	90	197	45.7%
	土手ノ内三丁目	340	471	72.2%	中間北	岩瀬東町	119	224	53.1%
	新手	250	419	59.7%		岩瀬北町	98	129	76.0%
	唐戸	61	128	47.7%		自由ヶ丘	103	141	73.0%
	本町	90	227	39.6%		下蓮花寺	101	281	35.9%
	上蓮花寺	60	169	35.5%		岩瀬南町	240	374	64.2%
	徳若	96	163	58.9%		高見	138	204	67.6%
	扇ヶ浦一区	384	674	57.0%		中牟田	201	345	58.3%
	扇ヶ浦二区	187	246	76.0%		白天	107	224	47.8%
	松ヶ岡一区	196	434	45.2%		大根土	221	246	89.8%
	松ヶ岡二区	258	326	79.1%		宮林	173	224	77.2%
	中尾	559	995	56.2%	曙町	279	480	58.1%	
中間西	大辻町	169	295	57.3%	中間南	太賀一区	448	580	77.2%
	深坂	265	397	66.8%		太賀二区	335	419	80.0%
	池田町	457	593	77.1%		太賀三区	90	115	78.3%
	弥生町	280	385	72.7%		鍋山	293	459	63.8%
	七重	225	322	69.9%		朝霧	343	493	69.6%
	小田ヶ浦	397	479	82.9%		通谷一丁目	251	559	44.9%
中間	中町	42	78	53.8%		通谷二区	324	467	69.4%
	昭和町	122	188	64.9%		通谷三区	283	365	77.5%
	屋島	81	148	54.7%		通谷四区	337	469	71.9%
	川端	58	88	65.9%		桜台	351	510	68.8%
	栄町	105	284	37.0%		中央町	68	113	60.2%
	片峯町	54	82	65.9%		星ヶ丘	240	291	82.5%
	中鶴一区	154	299	51.5%		<b>中間市全体</b>	<b>13,243</b>	<b>20,249</b>	<b>65.4%</b>

資料: 安全安心まちづくり課市民協働係

注1) 総世帯数(b)は、同一建物内での二世帯住居(生計が別などの理由で世帯分離)などを含むため、各自治会で把握している世帯数よりも多い場合がある。そのため、実際の加入率よりも低めに算出されている可能性がある。

底井野小学校区

①統計からみた現状

平成24年10月1日現在の底井野小学校区の人口は3,488人（男性：1,697人、女性：1,791人）で、中間市全体の7.8%を占めています。

0～14歳の年少人口が人口に占める割合は11.1%となっており、中間市全体（11.2%）とほぼ同程度になっています。自治会別にみると、下大隈自治会で9.1%と他の地域を若干下回っています。

15～64歳の生産年齢人口が人口に占める割合は60.8%と、中間市全体（58.1%）を若干上回っています。特に上底井野自治会では66.6%と高くなっています。

65歳以上の老年人口が人口に占める割合は28.1%と、中間市全体を若干ですが下回っています。自治会別にみると、下大隈自治会と中底井野自治会、砂山自治会では3割以上となっており、住民の3人に1人は65歳以上となっています。そのうち砂山自治会では75歳以上の後期高齢者が19.4%と65～74歳の前期高齢者（13.0%）よりも多くなっており、特に高齢化が進んでいる地域といえます。

世帯数についてみると、底井野小学校区全体で1,450世帯となっており、そのうち単身世帯数は30.0%を占めています。単身世帯数の割合は、中間市全体を下回っています。

（単位：人）

自治会名	人口計	性別		年齢別										世帯数		
		男性	女性	年少人口 (0～14歳)		生産年齢人口 (15～64歳)		老年人口 (65歳以上)		65～74歳 (再掲)		75歳以上 (再掲)		世帯数	単身世帯数	
				人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合			
垣生町	1,295	633	662	143	11.0%	784	60.5%	368	28.4%	174	13.4%	194	15.0%	565	180	31.9%
砂山	463	210	253	52	11.2%	261	56.4%	150	32.4%	60	13.0%	90	19.4%	186	54	29.0%
中底井野	212	102	110	22	10.4%	117	55.2%	73	34.4%	38	17.9%	35	16.5%	84	20	23.8%
上底井野	1,057	534	523	128	12.1%	704	66.6%	225	21.3%	96	9.1%	129	12.2%	421	120	28.5%
下大隈	461	218	243	42	9.1%	256	55.5%	163	35.4%	82	17.8%	81	17.6%	194	61	31.4%
小計	3,488	1,697	1,791	387	11.1%	2,122	60.8%	979	28.1%	450	12.9%	529	15.2%	1,450	435	30.0%
<b>中間市全体</b>	<b>44,696</b>	<b>20,838</b>	<b>23,858</b>	<b>5,022</b>	<b>11.2%</b>	<b>25,968</b>	<b>58.1%</b>	<b>13,706</b>	<b>30.7%</b>	<b>6,716</b>	<b>15.0%</b>	<b>6,990</b>	<b>15.6%</b>	<b>20,307</b>	<b>7,127</b>	<b>35.1%</b>

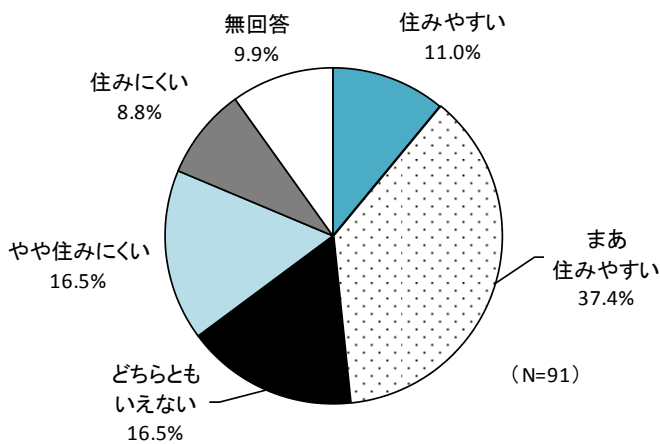
②市民意識調査結果からみた現状

底井野小学校区の方については、「住みやすい」(11.0%)と「まあ住みやすい」(37.4%)を合わせた約半数の方が『住みやすい』と回答されています。

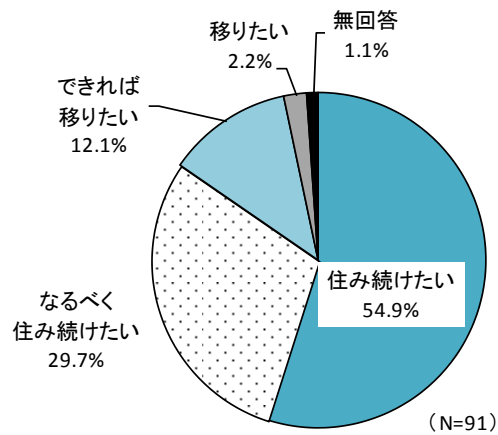
また、市への居留意向について尋ねたところ、「住み続けたい」(54.9%)と「なるべく住み続けたい」(29.7%)を合わせて、8割以上の方が中間市に今後も住み続けたいと思っています。

一方で住みにくいと感じる点としては、「商店などが近づくなく、日常の買い物に不便」(59.3%)が過半数を占めて最も多く、次いで「公共交通機関の利便性が悪い」(45.1%)の順となっており、買い物や交通に関する不便さを感じている人が多い傾向がみられます。

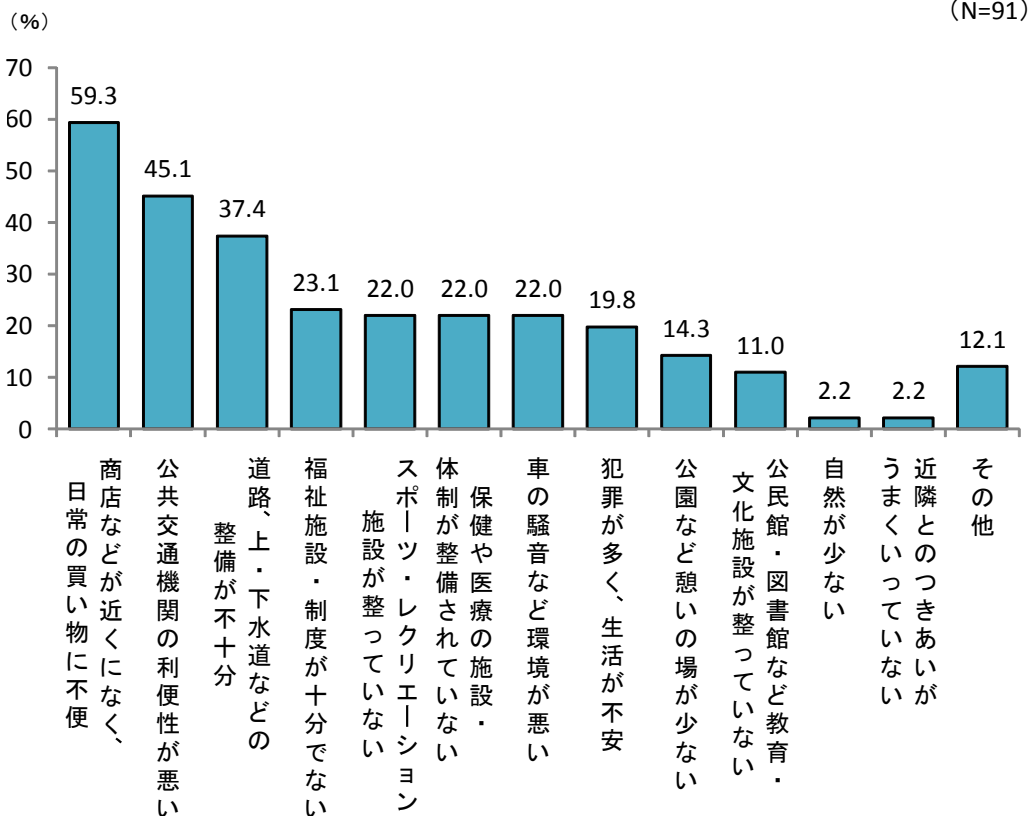
<住みやすさ>



<居留意向>



<住みにくいと感じる点>



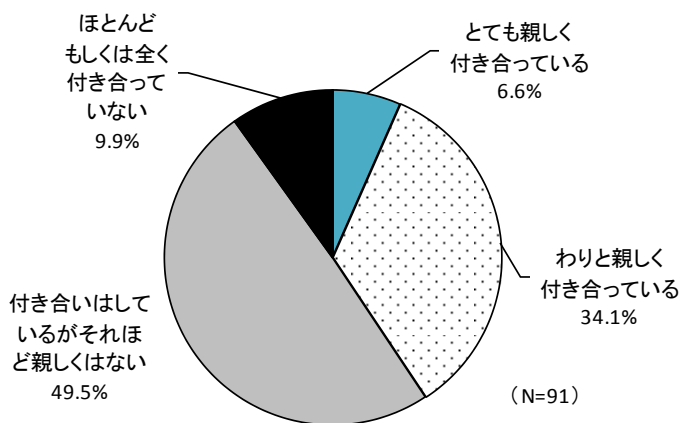


近所付き合いの程度についてみると、「とても親しく付き合っている」「わりと親しく付き合っている」「付き合いはしているがそれほど親しくはない」を合わせて9割程度の方が何らかの近所付き合いをされており、そのうち4割程度の方は比較的親しいお付き合いをされていることがわかります。

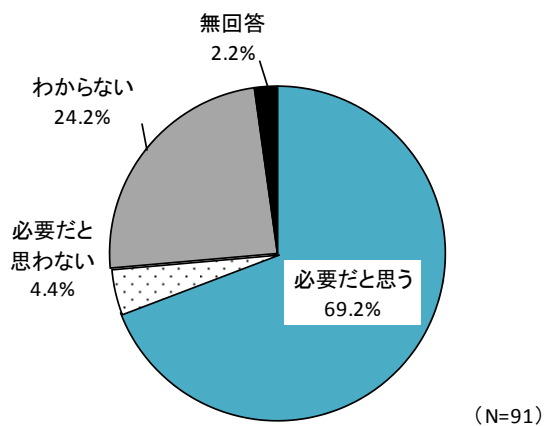
また、地域住民同士がお互いに協力し合うことの必要性（以下「互助」の必要性）については、「必要だと思う」と回答した人が約7割を占めており、その中でも特に必要な課題としては、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯への支援」と「災害時の助け合い」が過半数を占めて多くなっています。

一方で近所の高齢者や子育ての支援についての協力意向を尋ねたところ、「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」と「支援をしたいが、何をすればよいかわからない」を合わせて約4割の方が比較的積極的な支援意向をもっておられることがわかります。

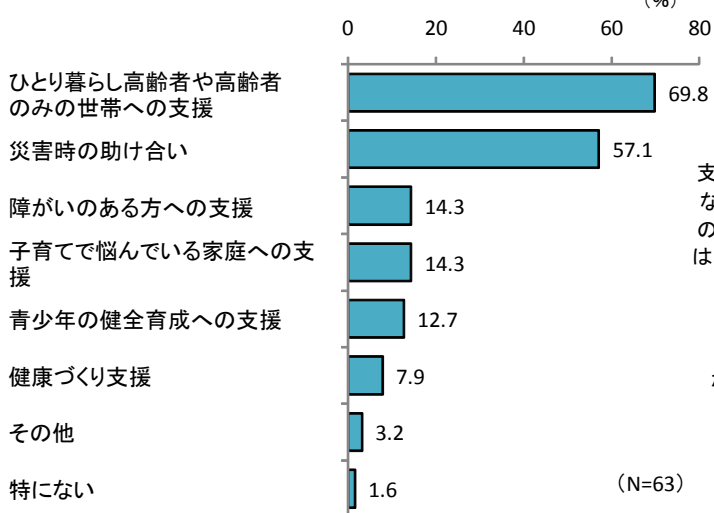
＜近所付き合いの程度＞



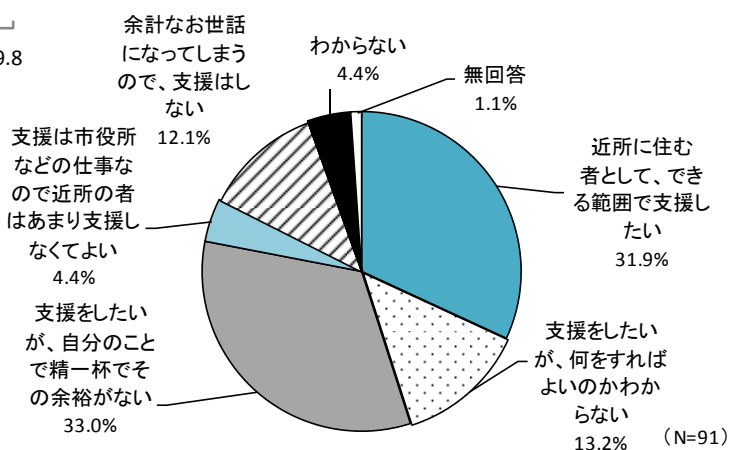
＜地域住民同士の自主的な協力の必要性＞



＜協力して取り組むことが特に必要な課題＞



＜近所の高齢者や子育て支援について＞

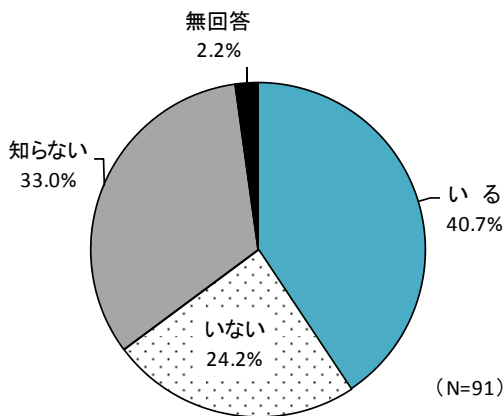


協力して取り組むことが特に必要な課題の中で上位に入っていた「災害時の助け合い」についてみると、現在災害時に気になる人が「いる」と回答した人は約4割を占めています。また「知らない」という人も3割程度を占めています。

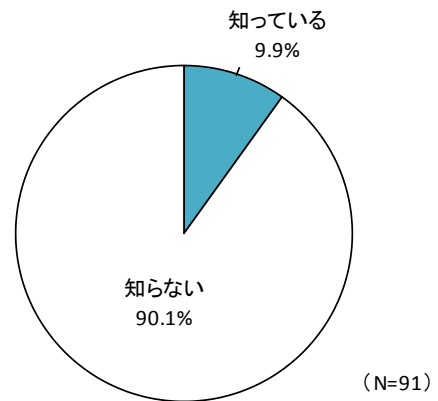
一方で災害時要援護者支援制度の認知度は1割程度に過ぎない状況となっています。

災害時に自治会で対応できるかどうか尋ねたところ、「わからない」という人が7割を占めており、自治会での連絡ルートについても「わからない」という人が6割を占めるなど、自治会での対応についてはどのようなになっているのかわからないという人が多いようです。

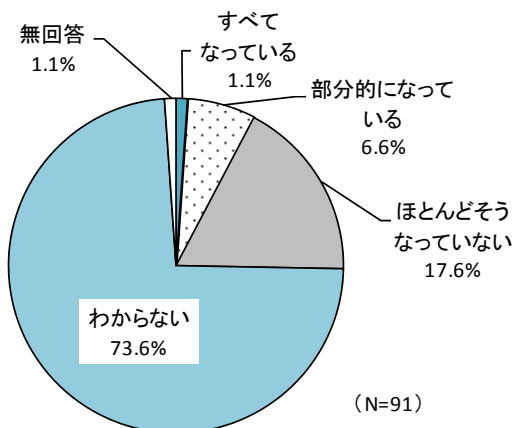
<災害時に気になる人の有無>



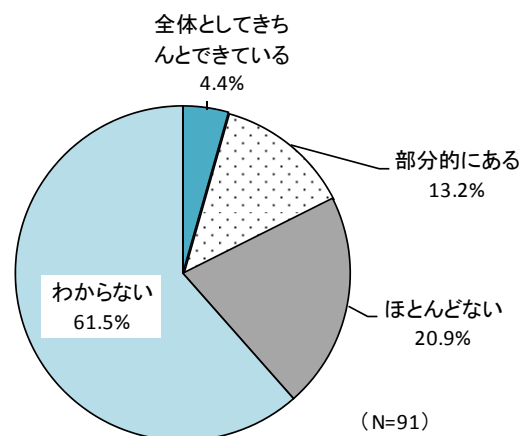
<災害時要援護者支援制度\*の認知度>



<自治会で緊急事態に対応できるようになっているか>



<自治会での連絡ルート>



※災害時要援護者支援制度

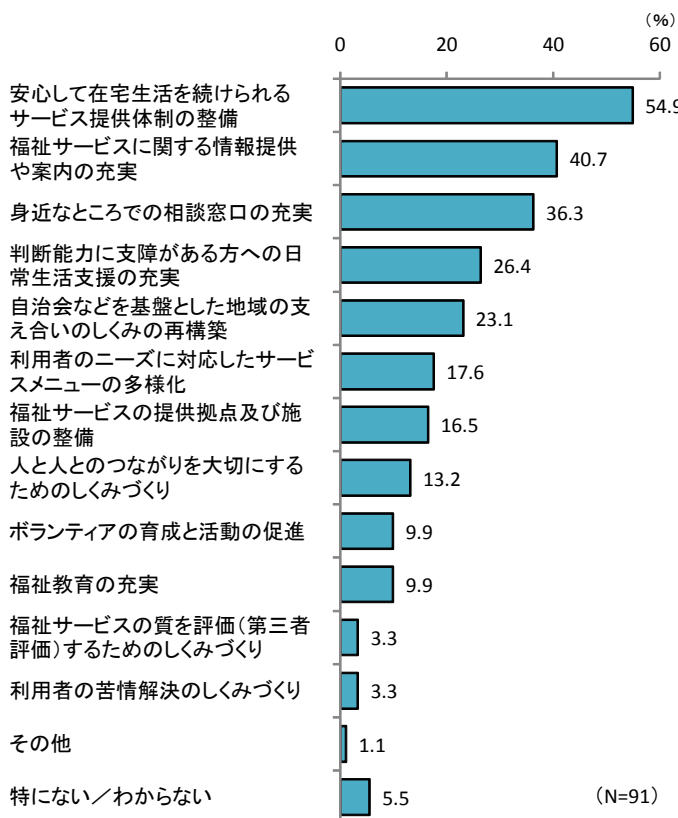
災害時に、必要な情報を迅速かつ的確に把握し、自らを守るために安全な場所に避難するなど、一連の行動をとるのに支援を要する人々に対し、支援を行う制度。

## 第2章 中間市の現状と課題

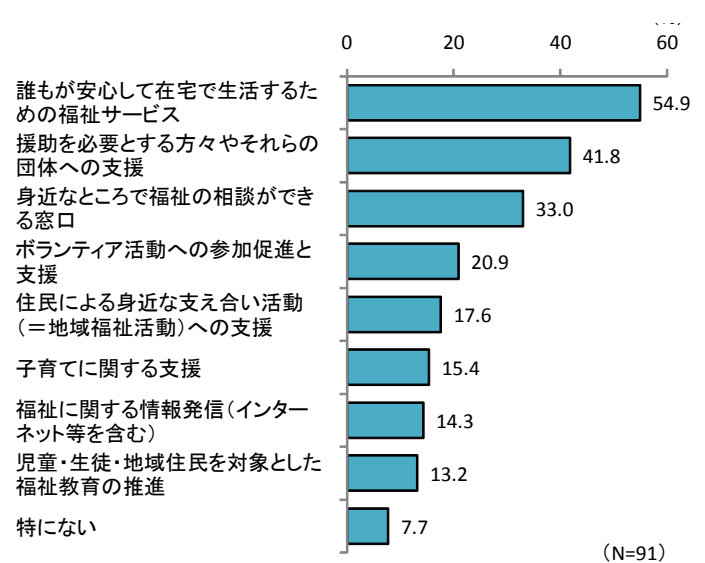
中間市に期待することとしては、「安心して在宅生活を続けられるサービス提供体制の整備」(54.9%)が最も多く、次いで「福祉サービスに関する情報提供や案内の充実」(40.7%)と続いています。

一方で社会福祉協議会に充実してほしいこととしては、「誰もが安心して在宅で生活するための福祉サービス」(54.9%)が最も多く、次いで「援助を必要とする方々やそれらの団体への支援」(41.8%)と続いています。

### <中間市に期待すること>



### <社会福祉協議会に充実してほしい活動>



### ③ワークショップで出た意見

ワークショップでは、自治会ごとに以下のようなスローガンが掲げられました。

- 自然と歴史と人間味があふれる町 垣生
- 自然と愛に満ちた人情あふれる活力あるまち(砂山)
- 緑の風が吹く郷里(中底井野)
- 一致団結底力!!(上底井野)
- 笑顔とあいさつの下大隈



また、それぞれのテーマごとに出た意見の代表的なものは、以下のようになっています。

【自治会の良いところ・悪い所】

良い所

- ・自治会活動が活発
- ・挨拶が多い
- ・交流が盛ん
- ・自然環境が豊か

悪い所

- ・自治会の加入率が低い
- ・少子化が進んでいる
- ・スーパーが少ない
- ・交通の便が悪い

【どんな自治会だと良いか、どんな中間市だと良いか】

自治会

- ・まとまりの良い自治会
- ・公共設備や施設が充実した地域

中間市

- ・交通の便が良い市
- ・医療や福祉が充実した市

【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために必要なこと】

- ・地域の連携、絆、孤独死がないように声かけが必要
- ・憩いの場、自由に集まれる場所、年齢に応じた遊びの場
- ・子育てがしやすいように交流が必要
- ・公共交通機関の充実、交通網の確立
- ・防犯灯の取り付け、川西地区に交番・派出所を誘致してほしい、暴力団のいないまちづくり
- ・防犯や防災が常に考慮されるよう、地域での協力体制づくり
- ・福祉、医療について不安なく暮らせる制度を整えること など

【実現するためには・・・】

- ・隣近所の声かけ、挨拶、付き合いが必要。美化運動の推進。【自助・互助】
- ・地区の行事に参加する【自助・互助】
- ・見守り隊を増やす【自助・互助】
- ・自治会がしっかり機能すること【共助】
- ・通学安全協力員の増員【共助】
- ・行政との定期的な話し合い。ワークショップの開催【共助・公助】
- ・コミュニティバス※、乗合タクシー等必要な交通手段の確保、公共交通の整備【公助】
- ・交番、派出所の誘致。暴力団事務所の撤去。【公助】 など

【中間市で災害・水害が発生した時、必要だと思うこと】

- 水害関係（遠賀川の警戒水位時）の早期通達連絡
- 隣近所の助け合い
- 市民によるボランティア
- 地域での組織、救護活動の組織化
- 普段からのコミュニケーションで顔を覚えておく
- 避難場所の確保
- 食料、水の備蓄 など

【実現するためには・・・】

- 危機意識を持つ、家族で避難場所などについて話し合う【自助・互助】
- 水や防災グッズなどを各自で用意しておく【自助・互助】
- 地域の防災訓練に積極的に参加する【自助・互助】
- 自主防災組織の設立及び訓練【共助】
- 防災訓練の定期的な実施を自治会で行う【共助】
- 自治会内での連絡体制を整備する【共助】
- ボランティア活動の支援体制づくり【公助】
- 防災マップや防災スピーカーの充実【公助】
- 正確で迅速な情報伝達体制の整備【公助】
- 災害時の危険個所の事前把握【公助】
- 避難場所の設置、備蓄の充実【公助】 など

#### ④底井野小学校区の課題

農用地や工業系利用地の面積が広いことなどから、人口そのものが多くなく、それに伴う民間の公共交通機関の利便性や買い物に不便を感じている方が多いようです。高齢化率は市全体からみればそれほど高くないものの、上記のような状況から、高齢期の過ごし方について将来的な不安を持っている方が多い傾向がみられます。

また、有事の際の対応についても不安を感じている方は多く、特に自治会単位での取り組みについては、ワークショップの結果からは期待が高いことが伺えますが、アンケート調査結果によれば実際にどのような対応がとられるのかわからないという方が多く、自治会と連携した災害対策や情報提供が必要といえます。

## 中間東小学校区

## ①統計からみた現状

平成24年10月1日現在の中間東小学校区の人口は11,339人(男性:5,294人、女性:6,045人)で、中間市全体の25.4%を占めています。

0~14歳の年少人口が人口に占める割合は11.5%となっており、中間市全体(11.2%)とほぼ同程度になっています。自治会別にみると、土手ノ内二区で7.2%と最も少ない状況です。

15~64歳の生産年齢人口が人口に占める割合は58.2%と、中間市全体(58.1%)とほぼ同程度となっています。上蓮花寺では72.2%と、中間市全体の割合を大きく上回っています。

65歳以上の老年人口が人口に占める割合は30.3%と、中間市全体(30.7%)を若干ですが下回っています。自治会別にみると、土手ノ内二区と土手ノ内三丁目では高齢化率が40%以上となっており、3人に1人以上が高齢者ですが、上蓮花寺では15.4%と中間市全体の半分程度となっており、自治会ごとに高齢化率に大きな差があることがわかります。

世帯数についてみると、中間東小学校区全体で5,158世帯となっており、そのうち単身世帯数は35.2%を占めています。松ヶ岡一区、新手、唐戸、本町では単身世帯数が40%以上と高く、特に松ヶ岡一区と唐戸では高齢化率も40%弱となっており、うち半数が後期高齢者であることから、単身高齢者の見守りは重要な課題といえます。

(単位:人)

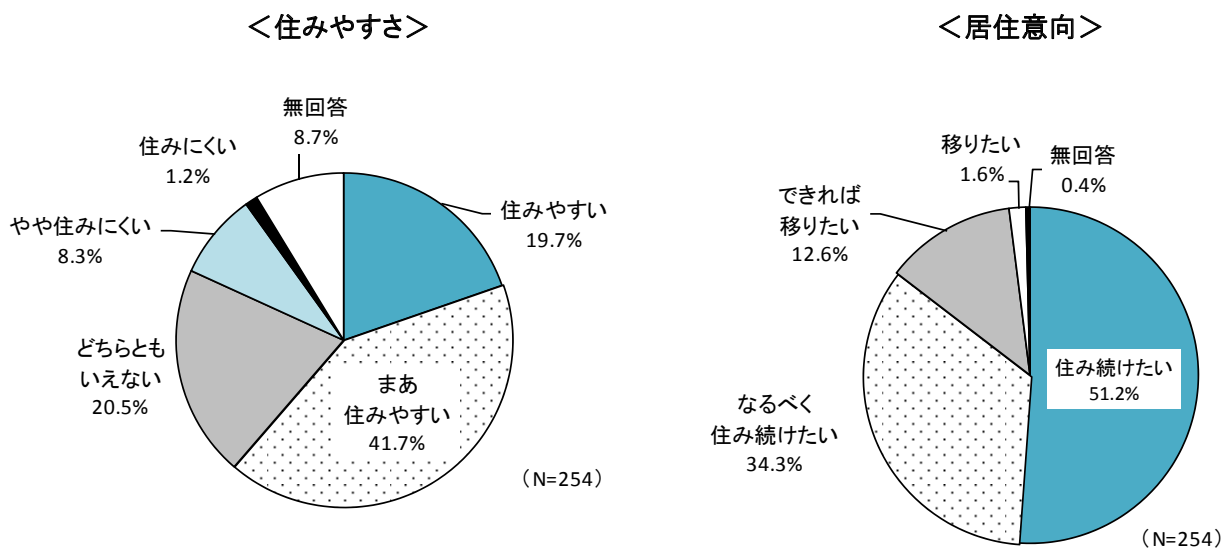
自治会名	人口計	性別		年齢別										世帯数		
		男性	女性	年少人口 (0~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳以上)		65~74歳 (再掲)		75歳以上 (再掲)		世帯数	単身世帯数	
				人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合			
土手ノ内一丁目	1,159	551	608	110	9.5%	778	67.1%	271	23.4%	129	11.1%	142	12.3%	466	119	25.5%
土手ノ内二区	899	438	461	65	7.2%	474	52.7%	360	40.0%	178	19.8%	182	20.2%	437	154	35.2%
土手ノ内三丁目	1,037	469	568	90	8.7%	530	51.1%	417	40.2%	216	20.8%	201	19.4%	477	151	31.7%
新手	838	388	450	80	9.5%	446	53.2%	312	37.2%	134	16.0%	178	21.2%	427	180	42.2%
唐戸	265	127	138	30	11.3%	138	52.1%	97	36.6%	46	17.4%	51	19.2%	131	61	46.6%
本町	476	236	240	54	11.3%	276	58.0%	146	30.7%	64	13.4%	82	17.2%	224	97	43.3%
上蓮花寺	403	185	218	50	12.4%	291	72.2%	62	15.4%	35	8.7%	27	6.7%	174	51	29.3%
徳若	367	170	197	57	15.5%	195	53.1%	115	31.3%	41	11.2%	74	20.2%	167	63	37.7%
扇ヶ浦一区	1,465	671	794	167	11.4%	794	54.2%	504	34.4%	269	18.4%	235	16.0%	666	234	35.1%
扇ヶ浦二区	594	284	310	95	16.0%	371	62.5%	128	21.5%	59	9.9%	69	11.6%	243	62	25.5%
松ヶ岡一区	841	391	450	84	10.0%	448	53.3%	309	36.7%	146	17.4%	163	19.4%	422	182	43.1%
松ヶ岡二区	655	277	378	102	15.6%	365	55.7%	188	28.7%	98	15.0%	90	13.7%	314	123	39.2%
中尾	2,340	1,107	1,233	323	13.8%	1,488	63.6%	529	22.6%	264	11.3%	265	11.3%	1,010	338	33.5%
小計	11,339	5,294	6,045	1,307	11.5%	6,594	58.2%	3,438	30.3%	1,679	14.8%	1,759	15.5%	5,158	1,815	35.2%
中間市全体	44,696	20,838	23,858	5,022	11.2%	25,968	58.1%	13,706	30.7%	6,716	15.0%	6,990	15.6%	20,307	7,127	35.1%

②市民意識調査結果からみた現状

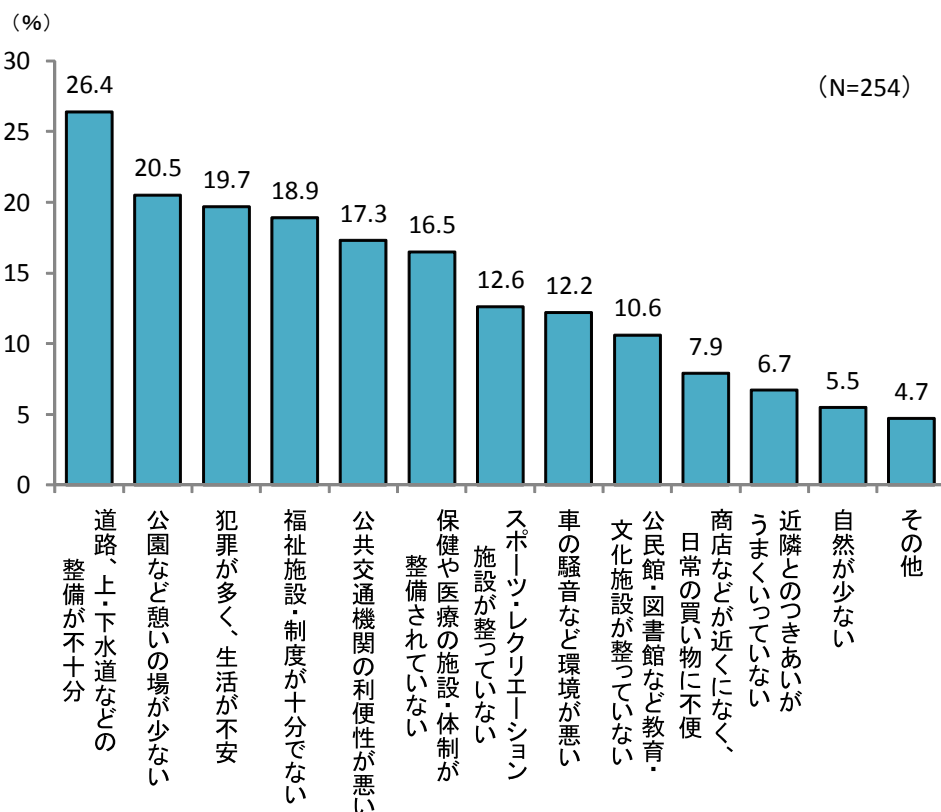
中間東小学校区の方については、「住みやすい」(19.7%)と「まあ住みやすい」(41.7%)を合わせた約6割の人が『住みやすい』と回答されています。

また、市への居住意向について尋ねたところ、「住み続けたい」(51.2%)と「なるべく住み続けたい」(34.3%)を合わせて、約8割の方が中間市に今後も住み続けたいと思っています。

一方で住みにくいと感じる点としては、「道路、上・下水道などの整備が不十分」(26.4%)が最も多く、次いで「公園など憩いの場が少ない」(20.5%)の順となっています。



<住みにくいと感じる点>

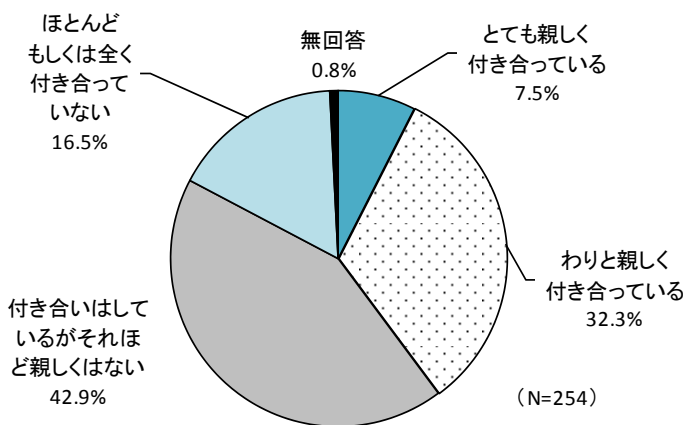


近所付き合いの程度についてみると、「とても親しく付き合っている」「わりと親しく付き合っている」「付き合いはしているがそれほど親しくはない」を合わせて8割程度の方が何らかの近所付き合いをされており、そのうち4割程度の方は比較的親しいお付き合いをされていることがわかります。

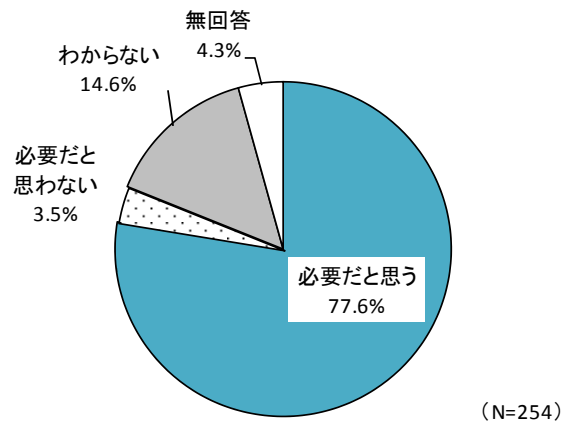
また、互助の必要性については、「必要だと思う」と回答した人が約8割を占めており、その中でも特に必要な課題としては、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯への支援」と「災害時の助け合い」が過半数を占めて多くなっています。

一方で近所の高齢者や子育ての支援についての協力意向を尋ねたところ、「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」と「支援をしたいが、何をすればよいかかわからない」を合わせて半数弱の方が比較的積極的な支援意向をもっておられることがわかります。

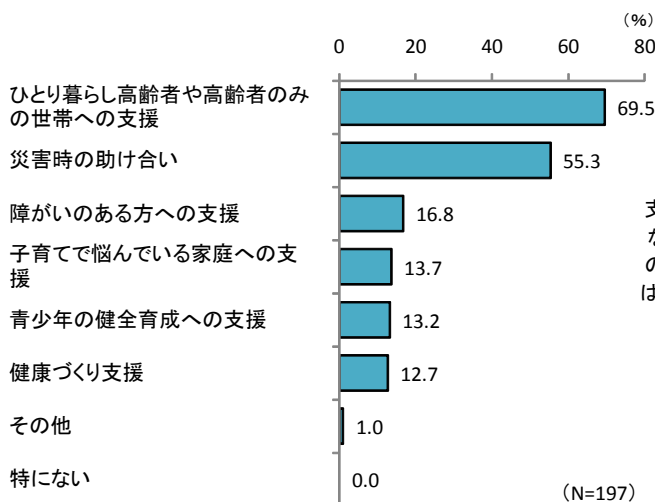
<近所付き合いの程度>



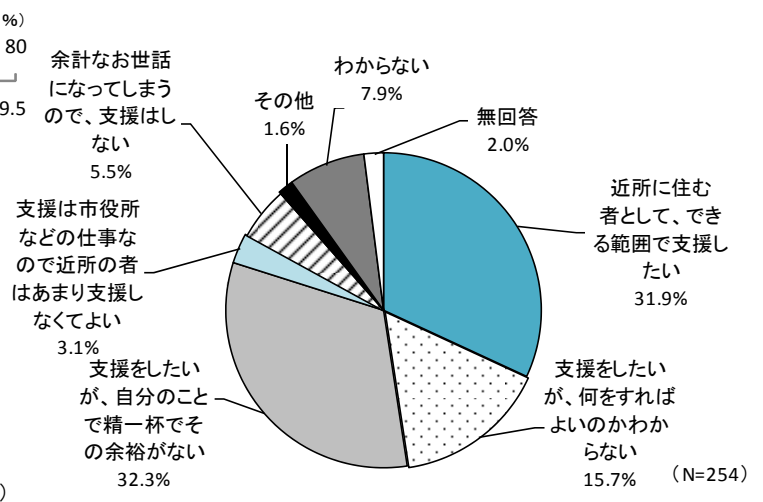
<地域住民同士の自主的な協力の必要性>



<協力して取り組むことが特に必要な課題>



<近所の高齢者や子育て支援について>

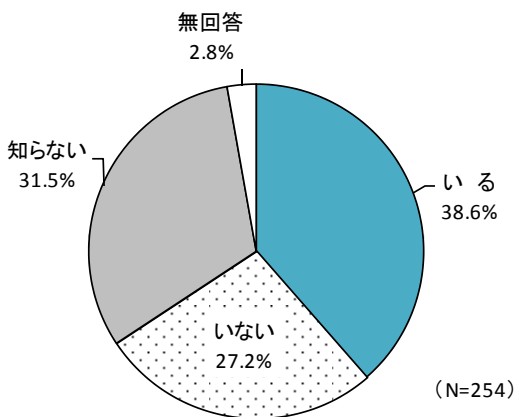


協力して取り組むことが特に必要な課題の中で上位に入っていた「災害時の助け合い」についてみると、現在災害時に気になる人が「いる」と回答した人は約4割を占めています。また「知らない」という人も3割程度を占めています。

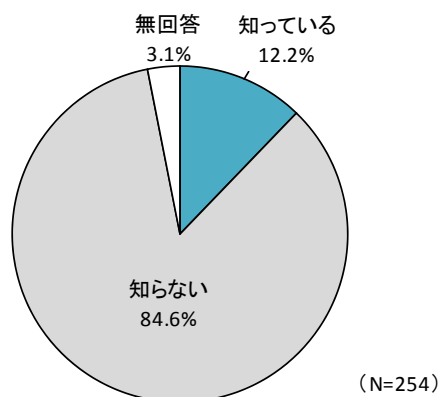
一方で災害時要援護者支援制度の認知度は1割程度に過ぎない状況となっています。

災害時に自治会で対応できるかどうか尋ねたところ、「わからない」という人が7割を占めており、自治会での連絡ルートについても「わからない」という人が6割を占めるなど、自治会での対応についてはどのようなになっているのかわからないという人が多いようです。

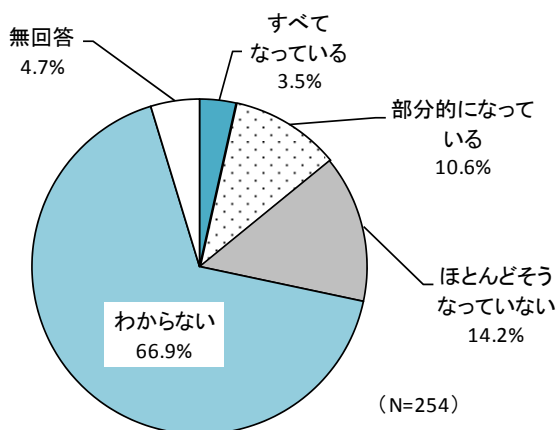
＜災害時に気になる人の有無＞



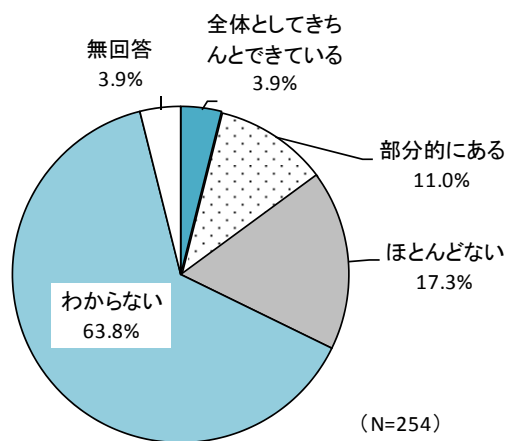
＜災害時要援護者支援制度の認知度＞



＜自治会で緊急事態に対応できるようになっているか＞



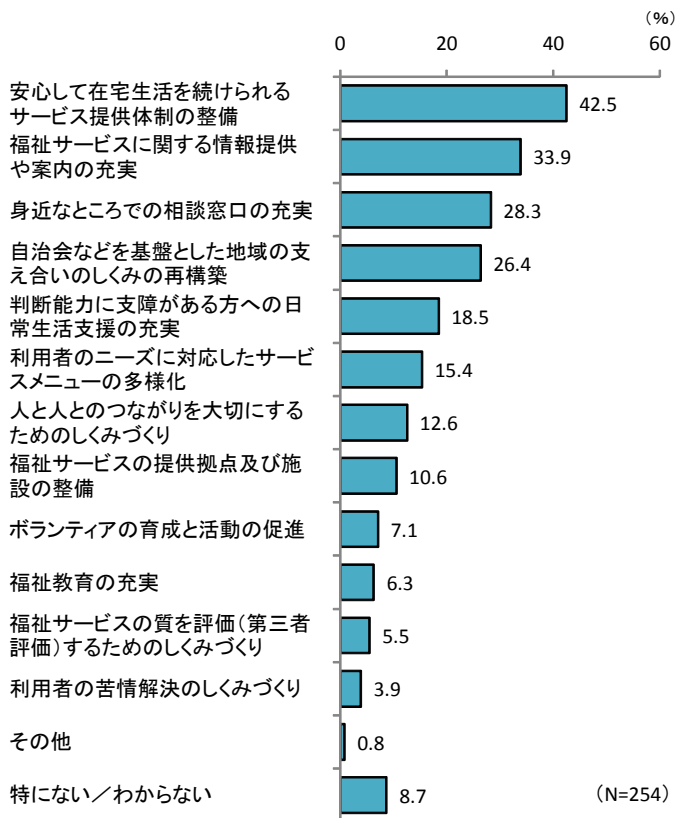
＜自治会での連絡ルート＞



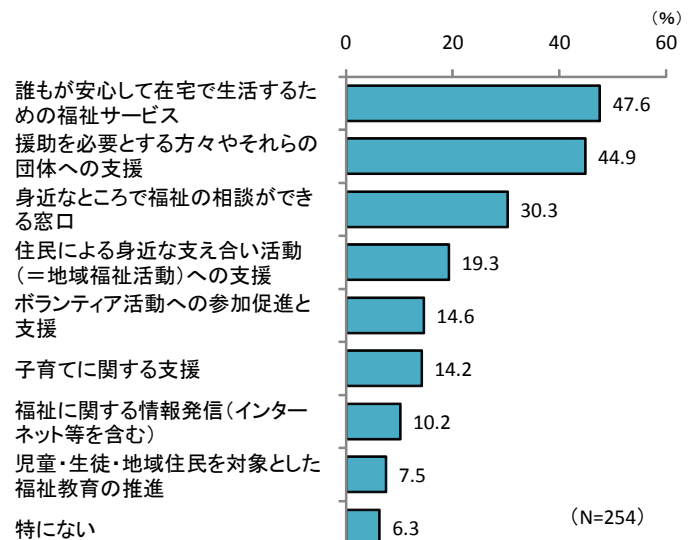
中間市に期待することとしては、「安心して在宅生活を続けられるサービス提供体制の整備」(42.5%)が最も多く、次いで「福祉サービスに関する情報提供や案内の充実」(33.9%)と続いています。

一方で社会福祉協議会に充実してほしいこととしては、「誰もが安心して在宅で生活するための福祉サービス」(47.6%)が最も多く、次いで「援助を必要とする方々やそれらの団体への支援」(44.9%)と続いています。

<中間市に期待すること>



<社会福祉協議会に充実してほしい活動>



### ③ワークショップで出た意見

ワークショップでは、自治会ごとに以下のようなスローガンが掲げられました。

- あいさつする町 土手ノ内
- 愛の声かけ 新手
- みんなにやさしいまち 本町
- 心配りとマナーの町 上蓮花寺
- 慈愛と絆を大切にする 扇ヶ浦
- 明るいあいさつ 声かけで みんなで支え合える 元気な 松ヶ岡一区
- 美化運動で いつもきれいな 松ヶ岡二区



また、それぞれのテーマごとに出た意見の代表的なものは、以下のようになっています。

【自治会の良いところ・悪い所】

良い所

- ・自治会にまとまりがある
- ・水害の心配が少ない
- ・交通や買い物に便利

悪い所

- ・自治会の加入率が低い
- ・坂道が多い

【どんな自治会だと良いか、どんな中間市だと良いか】

自治会

- ・加入率の高い自治会
- ・見守り活動や助け合いが活発な自治会

中間市

- ・公共施設が充実した市
- ・企業誘致が活発で若者も住みやすい市

【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために必要なこと】

- ・隣近辺の人とまず挨拶をする。一人暮らしの人には特に声かけをする。
- ・老人クラブと児童部の活動を充実させていく
- ・市民が大勢参加できるイベントをつくる
- ・子どもと老人の居場所となる公園を、もっと手入れして集まりたくなるように
- ・高齢者の多い市なので、自宅配達の店を増やす努力を
- ・シャトルバスの運行を増やしてほしい
- ・交番を増やす、地域防災訓練等で避難場所を確認し、連携をとる
- ・保健・福祉・医療のネットワークの充実 など

【実現するためには・・・】

- ・お隣近所への声かけを頻繁にする。顔を合わせたらニコッと挨拶。【自助・互助】
- ・自治会活動に進んで参加する【自助・互助】
- ・出かける時間、短い時間でも鍵をかける（泥棒は10分で充分）【自助・互助】
- ・何かあれば（災害）集まれる場所の確認【自助・互助】
- ・総会は声かけで誘って参加する【共助】
- ・月1回の役員会。役員さんとの交流が少ないので。【共助】
- ・子ども、大人、高齢者が参加し、喜びと楽しい催しが必要である。【共助】
- ・自治会に全員が入れるよう、市として取り組みをとってほしい【公助】
- ・コミュニティバスの充実【公助】 など



## 【中間市で災害・水害が発生した時、必要だと思うこと】

- ・災害情報を早く、正しく伝える、防災スピーカーの設置
- ・救急病院の設置
- ・親、子の連絡（避難）場所をはっきりしておく
- ・隣近所の連絡のとりあい（独居老人）
- ・最悪の事が起きた場合、近くで行ける避難場所を町内全体に決めてほしい
- ・中間市防災マップの確認、周知徹底。現状は行きわたっていない
- ・各家庭で避難用具（防災グッズ）、食糧、水の確保 など

## 【実現するためには・・・】

- ・日頃、近所同士で対策や必要性を話合うこと【自助・互助】
- ・高齢者だけの生活者を把握しておく【自助・互助】
- ・家族で何かあった時に集まる場所を確認【自助・互助】
- ・最小限の食糧等は各人で準備しておく【自助・互助】
- ・自治会として、毎年避難方法等、各組長さんに周知させる【共助】
- ・防災避難訓練を実施計画し、実行【共助】
- ・自治会で避難所の確認【共助】
- ・誰が見てもわかりやすいマップの作成【公助】
- ・市職員による出前講座で地域住民に説明実施【公助】
- ・要援護者の情報開示【公助】
- ・危険を知らせる一斉放送の設備をしてもらいたい【公助】 など

## ④中間東小学校区の課題

市の中心部に位置し、公共交通機関の発達や公共施設等が近いことなどから、市の人口の約4分の1を占める地域となっています。高齢化率は中間市全体とほぼ同程度となっていますが、自治会単位でみると高齢化率に大きな偏りがあるなど、地域によって住民層が異なっている校区です。

比較的子育て世帯などが多いことから、子どもに対する対策への希望が高い傾向がみられます。特に公園などの憩いの場や遊ぶ場所の充実を求める声は高く、また、防犯や安全対策に対する取り組みの充実を求める声が高くなっています。単身世帯が多いことから、住民同士の交流機会が少ないことや、高齢単身世帯の見守りの充実などが今後の課題として考えられます。

単身高齢者世帯や小さな子どもがいる世帯などが多いことによって、災害時など有事の際の対応をどのように行うのか、地域住民同士の相互理解と共通認識の醸成は今後重要な課題となると考えられます。そのためにも、住民同士が日常時から交流する機会を設け、どのような人が近所に住んでいるのか、住民同士での話し合いの機会を設け、対策づくりを行っていく必要があります。

中間西小学校区

・①統計からみた現状

平成24年10月1日現在の中間西小学校区の人口は5,746人（男性：2,683人、女性：3,063人）で、中間市全体の12.9%を占めています。

0～14歳の年少人口が人口に占める割合は12.2%となっており、中間市全体（11.2%）より若干高くなっています。自治会別にみると、小田ヶ浦で8.2%と最も少なく、池田町で16.1%と最も多くなっています。

15～64歳の生産年齢人口が人口に占める割合は58.7%と、中間市全体（58.1%）より若干多くなっています。特に大辻町では67.1%と、中間市全体の割合を大きく上回っています。中間市全体の割合を下回っているのは、小田ヶ浦（50.1%）と深坂（56.4%）となっています。

65歳以上の老年人口が人口に占める割合は29.0%と、中間市全体（30.7%）を若干ですが下回っています。自治会別にみると、小田ヶ浦では高齢化率が41.7%となっており、校区の中で極端に高くなっています。大辻町と七重の高齢化率は20%程度と、中間市全体を1割近く下回っており、校区内でも少子高齢化の状況に差があることがわかります。

世帯数についてみると、中間西小学校区全体で2,475世帯となっており、そのうち単身世帯数は28.7%を占めています。深坂では単身世帯数が41.1%以上と高くなっています。

自治会名	人口計	性別		年齢別										世帯数		
		男性	女性	年少人口 (0～14歳)		生産年齢人口 (15～64歳)		老年人口 (65歳以上)		65～74歳 (再掲)		75歳以上 (再掲)		世帯数	単身世帯数	
				人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合			
大辻町	759	366	393	94	12.4%	509	67.1%	156	20.6%	91	12.0%	65	8.6%	292	73	25.0%
深坂	841	408	433	91	10.8%	474	56.4%	276	32.8%	134	15.9%	142	16.9%	401	165	41.1%
池田町	1,300	556	744	209	16.1%	762	58.6%	329	25.3%	187	14.4%	142	10.9%	593	190	32.0%
弥生町	926	423	503	98	10.6%	554	59.8%	274	29.6%	153	16.5%	121	13.1%	382	90	23.6%
七重	797	387	410	119	14.9%	512	64.2%	166	20.8%	92	11.5%	74	9.3%	324	86	26.5%
小田ヶ浦	1,123	543	580	92	8.2%	563	50.1%	468	41.7%	302	26.9%	166	14.8%	483	106	21.9%
小計	5,746	2,683	3,063	703	12.2%	3,374	58.7%	1,669	29.0%	959	16.7%	710	12.4%	2,475	710	28.7%
中間市全体	44,696	20,838	23,858	5,022	11.2%	25,968	58.1%	13,706	30.7%	6,716	15.0%	6,990	15.6%	20,307	7,127	35.1%

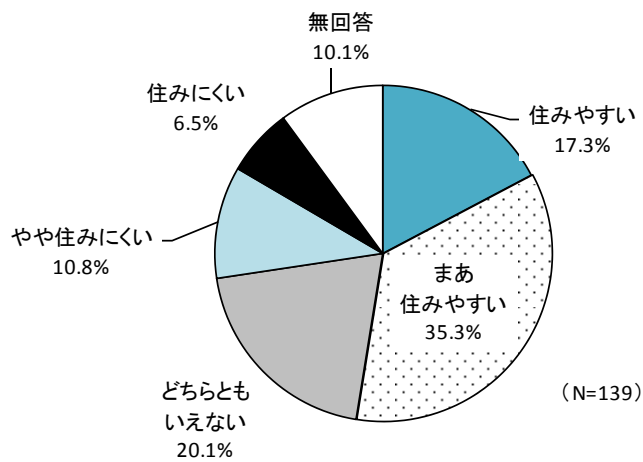
②市民意識調査結果からみた現状

中間西小学校区の方については、「住みやすい」(17.3%)と「まあ住みやすい」(35.3%)を合わせた約半数の方が『住みやすい』と回答されています。

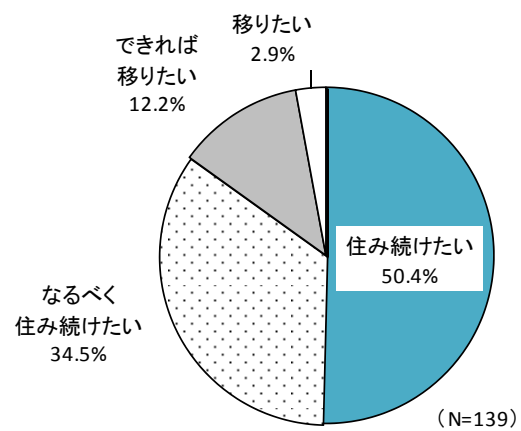
また、市への居留意向について尋ねたところ、「住み続けたい」(50.4%)と「なるべく住み続けたい」(34.5%)を合わせて、8割以上の方が中間市に今後も住み続けたいと思っています。

一方で住みにくいと感じる点としては、「道路、上・下水道などの整備が不十分」(33.1%)が最も多く、次いで「公共交通機関の利便性が悪い」(28.8%)の順となっています。

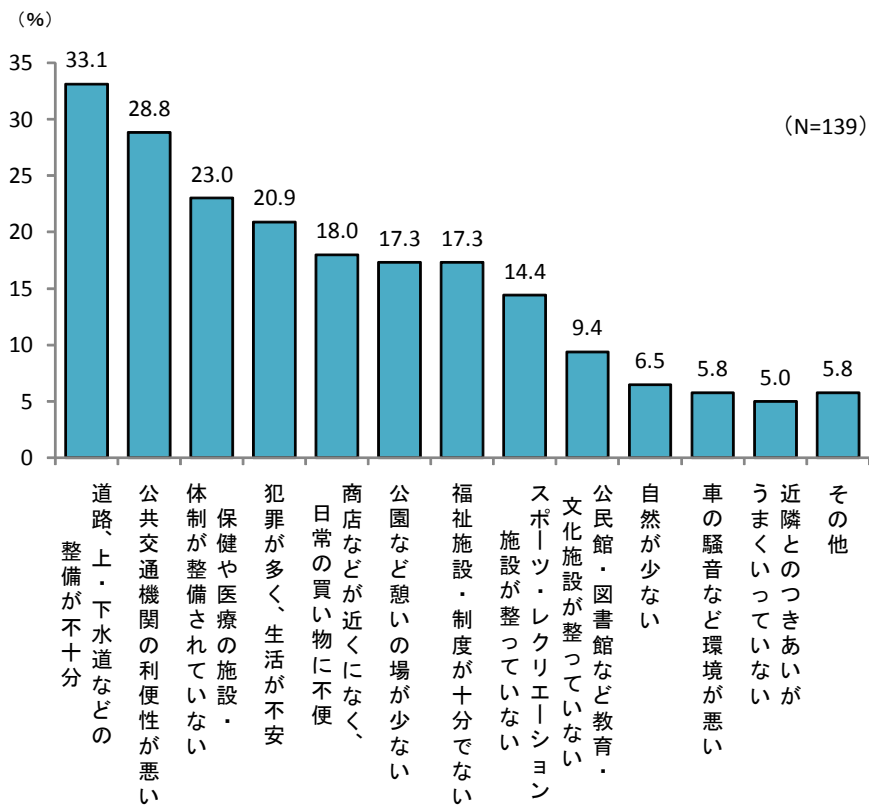
<住みやすさ>



<居留意向>



<住みにくいとを感じる点>

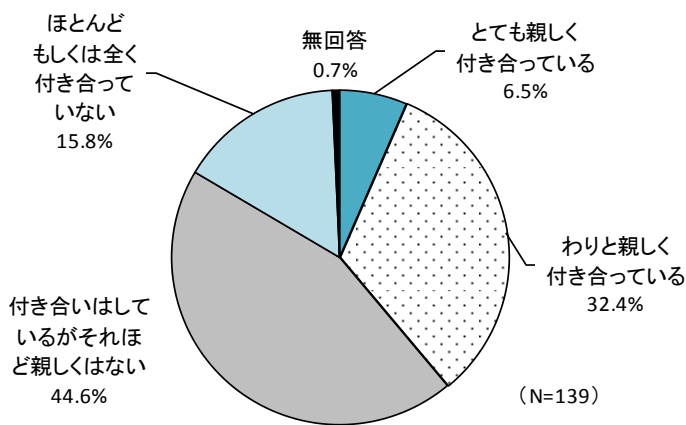


近所付き合いの程度についてみると、「とても親しく付き合っている」「わりと親しく付き合っている」「付き合いはしているがそれほど親しくはない」を合わせて8割以上の方が何らかの近所付き合いをされており、そのうち4割程度の方は比較的親しいお付き合いをされていることがわかります。

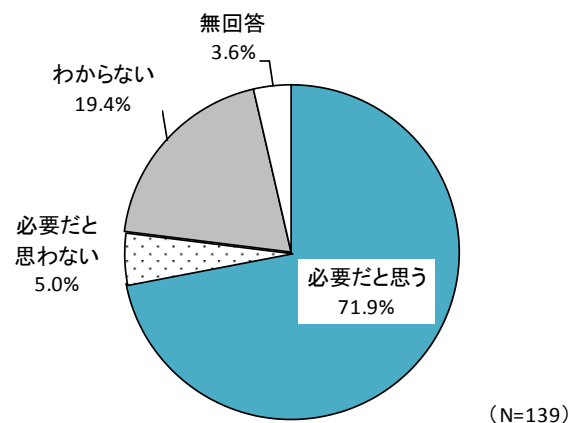
また、互助の必要性については、「必要だと思う」と回答した人が約7割を占めており、その中でも特に必要な課題としては、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯への支援」が過半数を占めて多くなっています。

一方で近所の高齢者や子育ての支援についての協力意向を尋ねたところ、「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」と「支援をしたいが、何をすればよいかかわからない」を合わせて約半数の方が比較的積極的な支援意向をもっておられることがわかります。

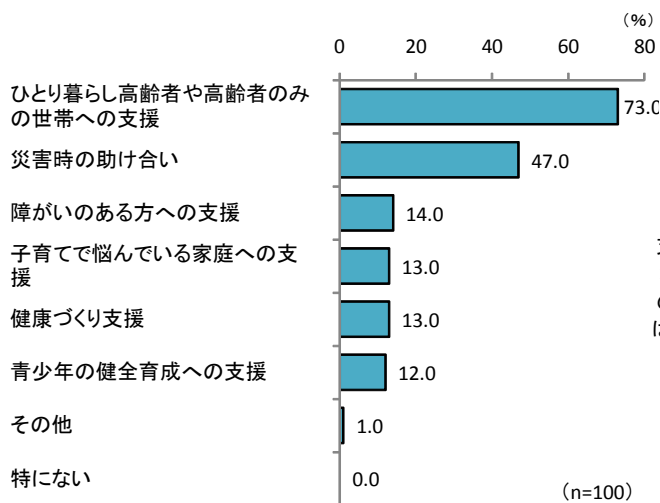
＜近所付き合いの程度＞



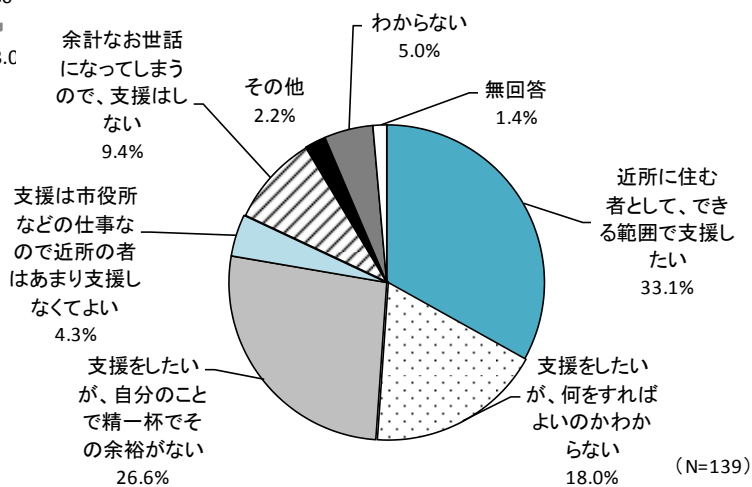
＜地域住民同士の自主的な協力の必要性＞



＜協力して取り組むことが特に必要な課題＞



＜近所の高齢者や子育て支援について＞

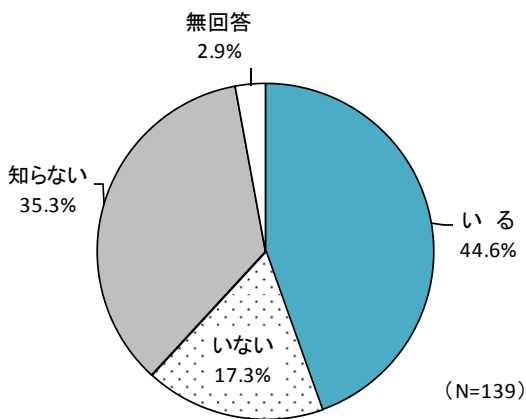


協力して取り組むことが特に必要な課題の中で上位に入っていた「災害時の助け合い」についてみると、現在災害時に気になる人が「いる」と回答した人は4割強を占めています。また「知らない」という人も3割強を占めています。

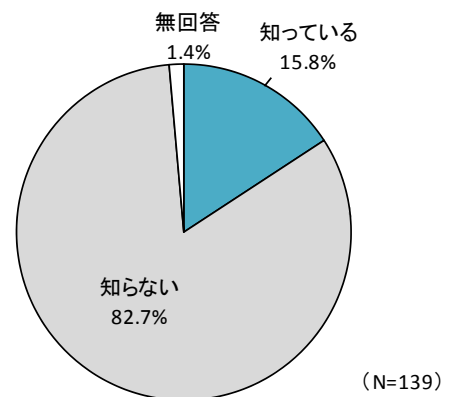
一方で災害時要援護者支援制度の認知度は15%程度に過ぎない状況となっています。

災害時に自治会で対応できるかどうか尋ねたところ、「わからない」という人が7割を占めており、自治会での連絡ルートについても「わからない」という人が6割を占めるなど、自治会での対応についてはどのようなになっているのかわからないという人が多いようです。

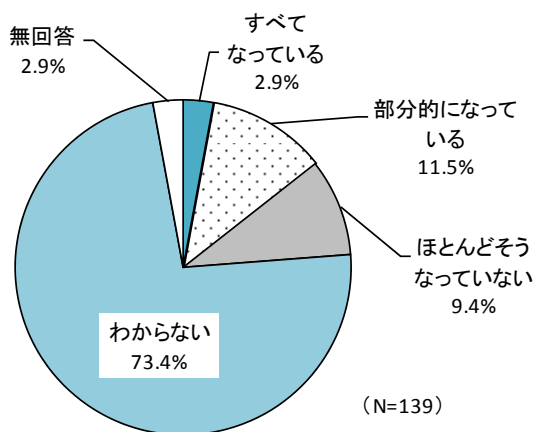
＜災害時に気になる人の有無＞



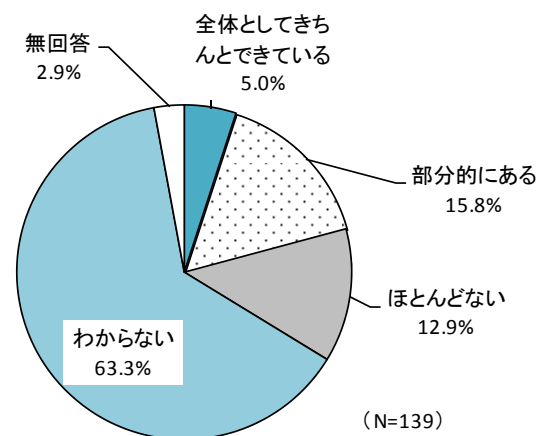
＜災害時要援護者支援制度の認知度＞



＜自治会で緊急事態に対応できるようになっているか＞



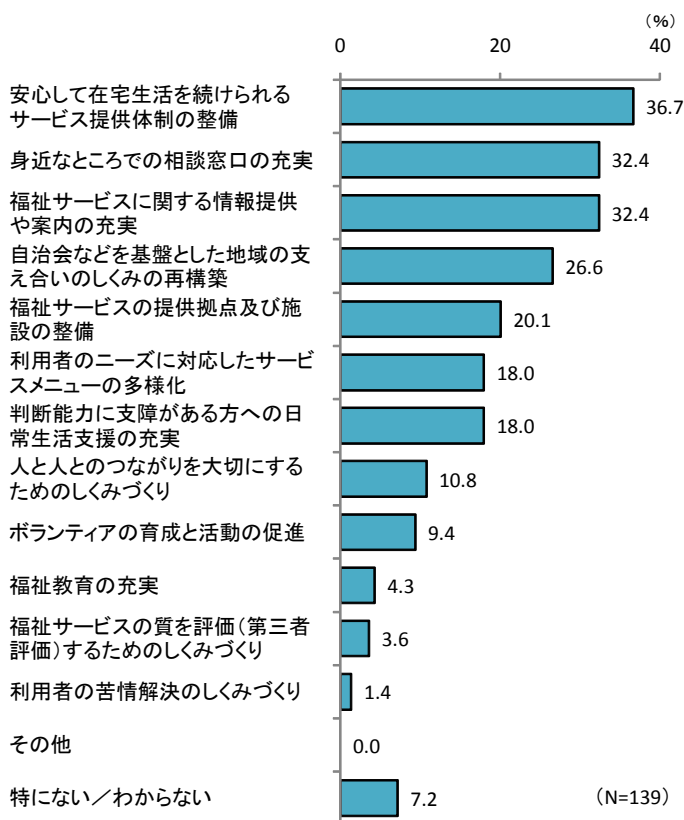
＜自治会での連絡ルート＞



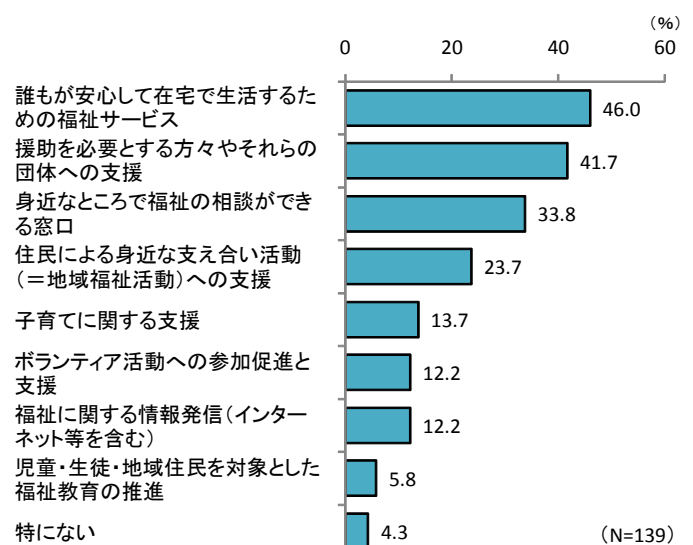
中間市に期待することとしては、「安心して在宅生活を続けられるサービス提供体制の整備」(36.7%)が最も多く、次いで「身近なところでの相談窓口の充実」「福祉サービスに関する情報提供や案内の充実(32.4%)と続いています。

一方で社会福祉協議会に充実してほしいこととしては、「誰もが安心して在宅で生活するための福祉サービス」(46.0%)が最も多く、次いで「援助を必要とする方々やそれらの団体への支援」(41.7%)と続いています。

< 中間市に期待すること >



< 社会福祉協議会に充実してほしい活動 >



③ワークショップで出た意見

ワークショップでは、自治会ごとに以下のようなスローガンが掲げられました。

- ・ ささえ愛の町 大辻・七重
- ・ あいさつのできる深坂
- ・ 人と仲良く生きる 安全・安心なまち 池田
- ・ 元気な風をふかせるまち 弥生
- ・ みんなで育てよう！地域の話・和・輪・環(小田ヶ浦)

また、それぞれのテーマごとに出た意見の代表的なものは、以下のようになっています。

【自治会の良いところ・悪い所】

良い所

- ・挨拶や交流が盛ん
- ・イベントや行事が多い
- ・自治会活動が活発

悪い所

- ・買い物や交通の便が悪い
- ・自治会の加入率が低い

【どんな自治会だと良いか、どんな中間市だと良いか】

自治会

- ・自治会の加入率が高い
- ・交流の機会が多い
- ・見守りや助け合いの意識が高い

中間市

- ・子どものための施設が充実している
- ・交通の便がよい

【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために必要なこと】

- ・公共施設がたくさんあったらいいと思う
- ・交通の便が良くなることが第一
- ・子どもが安全に過ごせるまち
- ・福祉のまちづくり
- ・子どもから老人の方たちが交流を持てる場を設ける
- ・若者が楽しく参加できる行事を企画する
- ・自治会には入るのを義務にしたら

【実現するためには・・・】

- ・挨拶を積極的にする【自助・互助】
- ・自分の住んでいる自治会長さんや民生委員さんの顔を覚える【自助・互助】
- ・自治会の中にどういふ方が住んでいるのか把握【自助・互助】
- ・組単位の清掃当番時、積極的に参加【自助・互助】
- ・自治会への参加で人間関係を作る【共助】
- ・移動販売車等をスーパーにお願いし、困難な地域を回る【共助】
- ・安全パトロールの実施【共助】
- ・地域の役をしてくださる方への支援【公助】
- ・コミュニティバスを早く運行し、買物難民を助ける【公助】 など



【中間市で災害・水害が発生した時、必要だと思うこと】

- ・防災無線を活用した避難指示の情報伝達
  - ・高齢者・一人暮らしの方の避難場所への誘導
  - ・ボランティアの確保
  - ・避難誘導の訓練
  - ・避難個所を地域の状況に応じて設置する
  - ・食料、日用品の確保
- など

【実現するためには・・・】

- ・緊急時に声掛けをする人との顔合わせをしておく。要援護者の掌握。【自助・互助】
  - ・伝言ダイヤルの使用を家族で確認しておく。メールを使う。【自助・互助】
  - ・避難訓練を定期的に行う（順番に）【自助・互助】
  - ・各家庭でもできる備蓄は心掛けて用意しておく【自助・互助】
  - ・組織して小単位で実施する体制をつくる。組長に組織体制をつくってもらう。【共助】
  - ・各班と町内の連絡体制の強化【共助】
  - ・自治会で事前に勉強会実施【共助】
  - ・町内の専門職の経験者を事前に調査【共助】
  - ・出前事業。防災教室を開いて、みんなが参加できるようにする。【公助】
  - ・一人住まいの高齢者（約100世帯）の情報がほしい【公助】
  - ・防災無線を増やす（見直す）【公助】
- など

#### ④中間西小学校区の課題

校区全体としては、比較的少子高齢化が緩やかに進行していますが、地域によっては極端に高齢化が進んでいるなど、地域によってばらつきが見られることから、自治会単位での取り組みが重要といえます。

校区全体の特徴として、近所付き合いが比較的活発で、自治会活動も充実している傾向がみられますが、自治会に加入していない方、特に高齢者の情報収集に関する課題を感じている住民が多いようです。

3世帯に1世帯程度が単身世帯となっており、特に災害時等にはどのような方が近所に住んでいるのかの情報が必要不可欠と考えられます。西小学校区の各自治体では、平成24年度から自主防災組織が作られていることから、今後この組織による定期的な避難訓練の実施やイベント等を通じた住民同士の意見交流の機会の充実を図るとともに、挨拶運動などを通じて顔見知りを増やしていくことが必要といえます。



## 中間小学校区

## ①統計からみた現状

平成24年10月1日現在の中間小学校区の人口は6,997人（男性：3,220人、女性：3,777人）で、中間市全体の15.7%を占めています。

0～14歳の年少人口が人口に占める割合は11.1%となっており、中間市全体（11.2%）とほぼ同程度になっています。自治会別にみると、中町で5.5%、中鶴三区で5.6%と非常に少ない状況です。

15～64歳の生産年齢人口が人口に占める割合は55.1%と、中間市全体（58.1%）を若干下回っています。特に中鶴三区では44.6%と半数に満たない状況です。

65歳以上の老年人口が人口に占める割合は32.5%と、中間市全体を若干ですが上回っています。自治会別にみると、中鶴三区では約半数が65歳以上となっており、中間小学校区の中で最も少子高齢化が進んでいることがわかります。

世帯数についてみると、中間小学校区全体で3,460世帯となっており、そのうち単身世帯数は40.9%を占めています。単身世帯数の割合は、中間市全体を大きく上回っており、ライフステージに応じた、単身世帯向けの対策が必要な校区といえます。特に中鶴一区、中鶴二丁目は半数が単身世帯となっています。

(単位:人)

自治会名	人口計	性別		年齢別									世帯数			
		男性	女性	年少人口 (0～14歳)		生産年齢人口 (15～64歳)		老年人口 (65歳以上)		65～74歳 (再掲)		75歳以上 (再掲)		世帯数	単身世帯数	
中町	146	71	75	8	5.5%	80	54.8%	58	39.7%	28	19.2%	30	20.5%	79	36	45.6%
昭和町	356	169	187	25	7.0%	196	55.1%	135	37.9%	61	17.1%	74	20.8%	187	85	45.5%
屋島	302	133	169	24	7.9%	166	55.0%	112	37.1%	40	13.2%	72	23.8%	149	59	39.6%
川端	216	99	117	40	18.5%	131	60.6%	45	20.8%	23	10.6%	22	10.2%	93	36	38.7%
栄町	621	305	316	91	14.7%	395	63.6%	135	21.7%	59	9.5%	76	12.2%	284	108	38.0%
片峯町	155	76	79	13	8.4%	85	54.8%	57	36.8%	21	13.5%	36	23.2%	81	36	44.4%
中鶴一区	530	244	286	64	12.1%	296	55.8%	170	32.1%	83	15.7%	87	16.4%	291	146	50.2%
中鶴二丁目	1,224	539	685	168	13.7%	710	58.0%	346	28.3%	206	16.8%	140	11.4%	678	361	53.2%
中鶴三区	708	316	392	40	5.6%	316	44.6%	352	49.7%	199	28.1%	153	21.6%	327	89	27.2%
浄花町	729	328	401	87	11.9%	409	56.1%	233	32.0%	126	17.3%	107	14.7%	338	126	37.3%
岩瀬西町区一	709	330	379	75	10.6%	414	58.4%	220	31.0%	109	15.4%	111	15.7%	325	116	35.7%
岩瀬西町区二	498	243	255	52	10.4%	270	54.2%	176	35.3%	82	16.5%	94	18.9%	251	108	43.0%
御館町	408	176	232	51	12.5%	239	58.6%	118	28.9%	52	12.7%	66	16.2%	184	63	34.2%
鳥森	395	191	204	46	11.6%	229	58.0%	120	30.4%	51	12.9%	69	17.5%	193	81	42.0%
小計	6,997	3,220	3,777	776	11.1%	3,856	55.1%	2,277	32.5%	1,112	15.9%	1,107	15.8%	3,460	1,414	40.9%
中間市全体	44,696	20,838	23,858	5,022	11.2%	25,968	58.1%	13,706	30.7%	6,716	15.0%	6,990	15.6%	20,307	7,127	35.1%

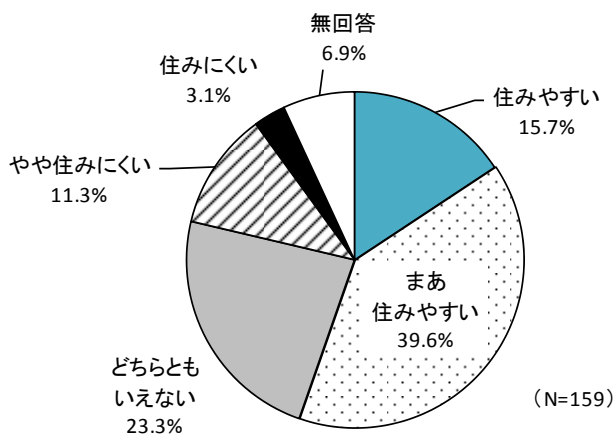
②市民意識調査結果からみた現状

中間小学校区の方については、「住みやすい」(15.7%)と「まあ住みやすい」(39.6%)を合わせた半数以上の方が『住みやすい』と回答されています。

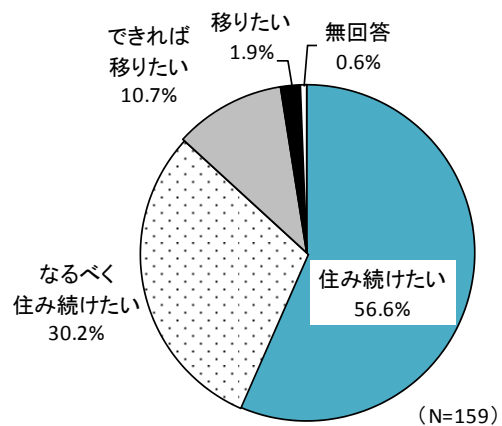
また、市への居留意向について尋ねたところ、「住み続けたい」(56.6%)と「なるべく住み続けたい」(30.2%)を合わせて、約9割の方が中間市に今後も住み続けたいと思っています。

一方で住みにくいと感じる点としては、「公共交通機関の利便性が悪い」(34.0%)と「道路、上・下水道などの整備が不十分」(34.0%)が最も多く、次いで「犯罪が多く、生活が不安」(26.4%)の順となっています。

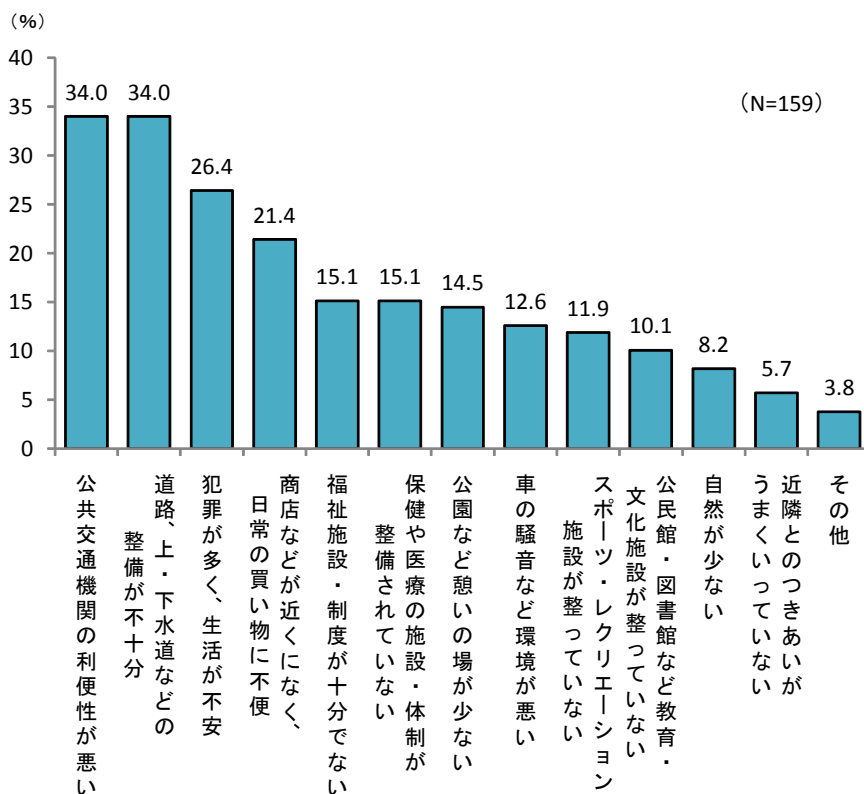
<住みやすさ>



<居留意向>



<住みにくいと感じる点>

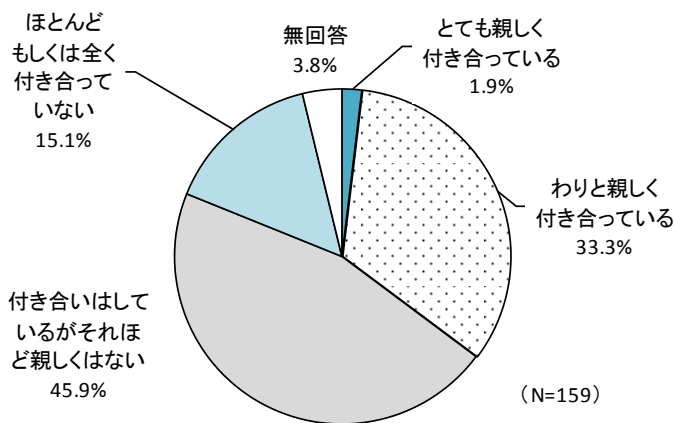


近所付き合いの程度についてしてみると、「とても親しく付き合っている」「わりと親しく付き合っている」「付き合いはしているがそれほど親しくはない」を合わせて8割程度の方が何らかの近所付き合いをされており、そのうち3割程度の方は比較的親しいお付き合いをされていることがわかります。

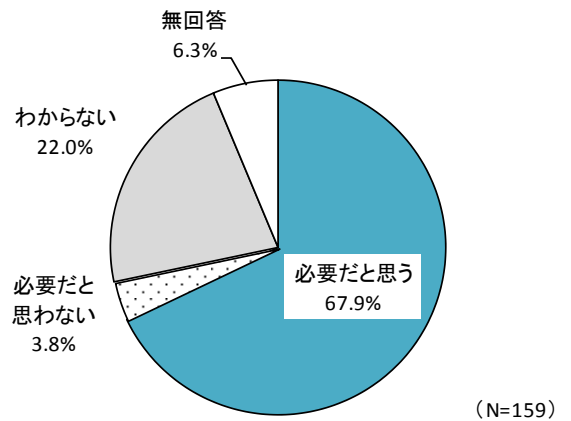
また、互助の必要性については、「必要だと思う」と回答した人が約7割を占めており、その中でも特に必要な課題としては、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯への支援」と「災害時の助け合い」が過半数を占めて多くなっています。

一方で近所の高齢者や子育ての支援についての協力意向を尋ねたところ、「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」と「支援をしたいが、何をすればよいかわからない」を合わせて約4割の方が比較的積極的な支援意向をもっておられることがわかります。

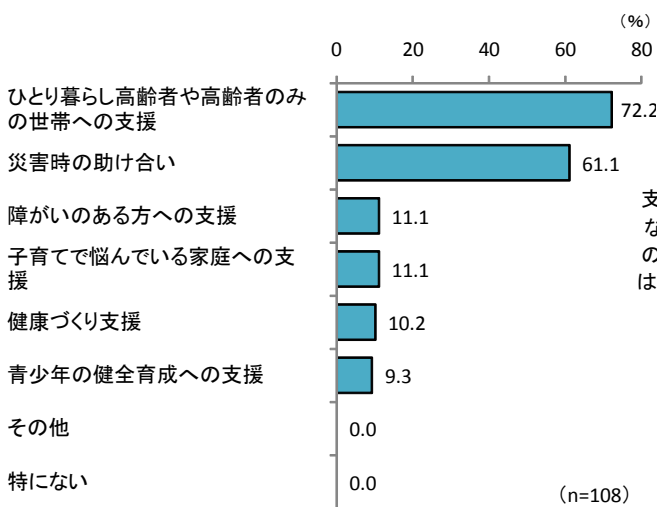
＜近所付き合いの程度＞



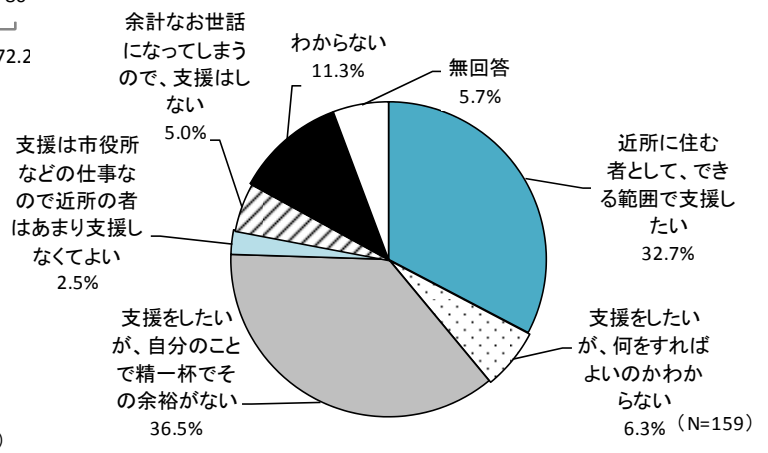
＜地域住民同士の自主的な協力の必要性＞



＜協力して取り組むことが特に必要な課題＞



＜近所の高齢者や子育て支援について＞

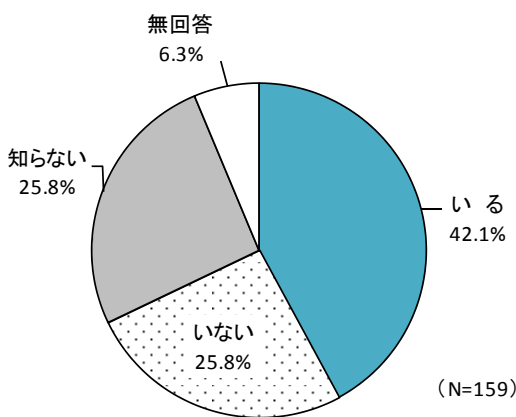


協力して取り組むことが特に必要な課題の中で上位に入っていた「災害時の助け合い」についてみると、現在災害時に気になる人が「いる」と回答した人は約4割を占めています。また「知らない」という人も25%程度を占めています。

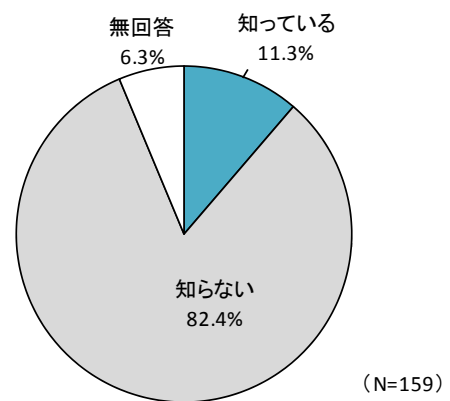
一方で災害時要援護者支援制度の認知度は1割程度に過ぎない状況となっています。

災害時に自治会で対応できるかどうか尋ねたところ、「わからない」という人が7割を占めており、自治会での連絡ルートについても「わからない」という人が6割を占めるなど、自治会での対応についてはどのようなになっているのかわからないという人が多いようです。

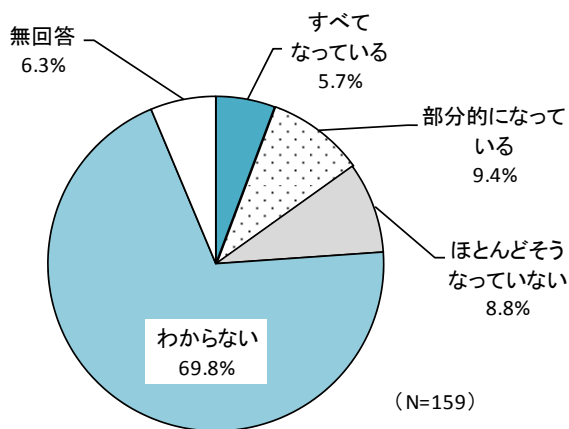
＜災害時に気になる人の有無＞



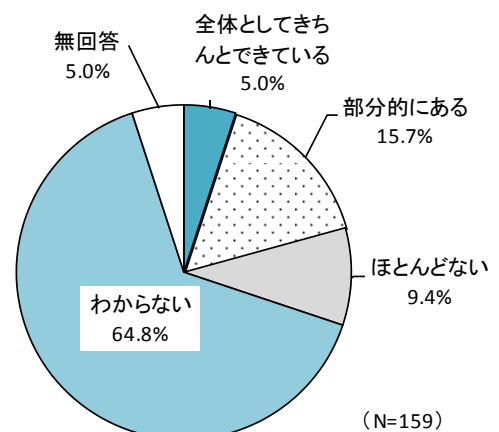
＜災害時要援護者支援制度の認知度＞



＜自治会で緊急事態に対応できるようになっているか＞



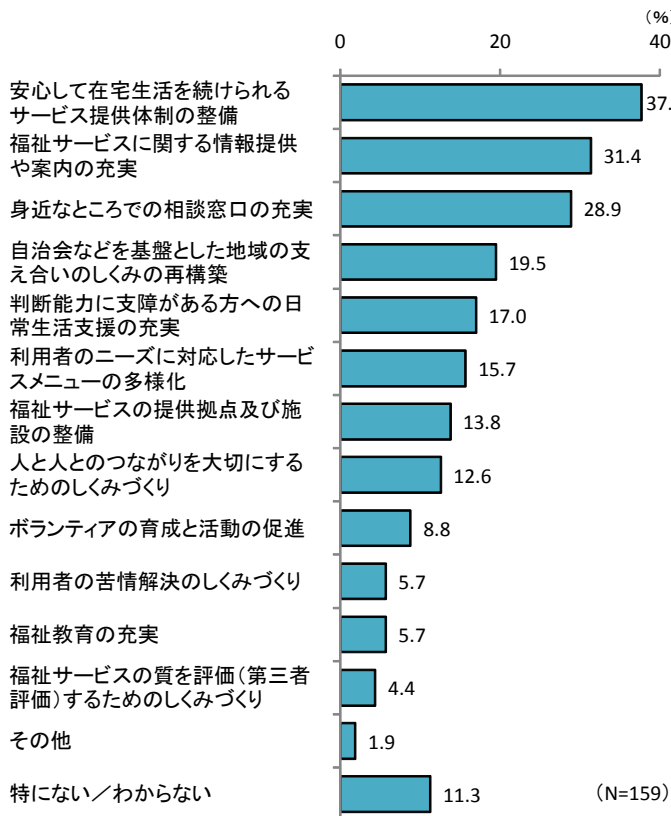
＜自治会での連絡ルート＞



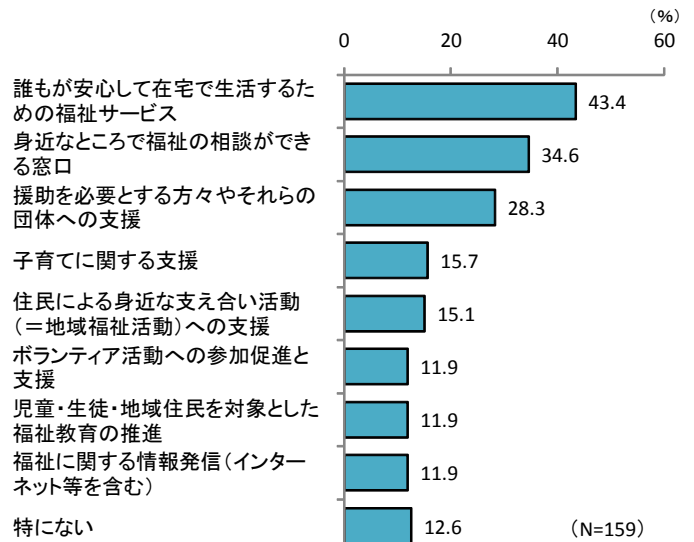
中間市に期待することとしては、「安心して在宅生活を続けられるサービス提供体制の整備」(37.7%)が最も多く、次いで「福祉サービスに関する情報提供や案内の充実」(31.4%)と続いています。

一方で社会福祉協議会に充実してほしいこととしては、「誰もが安心して在宅で生活するための福祉サービス」(43.4%)が最も多く、次いで「身近なところで福祉の相談ができる窓口」(34.6%)と続いています。

＜中間市に期待すること＞



＜社会福祉協議会に充実してほしい活動＞



### ③ワークショップで出た意見

ワークショップでは、自治会ごとに以下のようなスローガンが掲げられました。

- ・活気のあるまちへ(栄町・屋島・中町・昭和町)
- ・元気を出そう!!片峯
- ・住みよい 便利なまち(中鶴一区)
- ・あいさつがあれば 1日の笑顔のスタート 中鶴二丁目
- ・夕日と河の美しい町 中鶴三区
- ・笑顔でさわやかな風がふく 浄花町
- ・心ふれあう みんなが集う いい岩瀬西町
- ・人が訪れる町 御館・鳥森

また、それぞれのテーマごとに出た意見の代表的なものは、以下のようになっています。

【自治会の良いところ・悪い所】

良い所

- 自治会のまとまりが良い
- 交通の便が良い
- 公共施設が使いやすい

悪い所

- 自治会の若手加入率が低い
- 高齢化が進んでいる

【どんな自治会だと良いか、どんな中間市だと良いか】

自治会

- 若者がたくさん参加する自治会
- 公民館の設備や活動が充実している自治会

中間市

- 子どもの遊び場が充実している市
- 公共交通が便利な市

【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために必要なこと】

- 全世帯、組に入るようにすること。
- まずは組内の方達との交流を良くする。親しく付き合う。
- 高齢者が買物に便利なまち
- 小さいバスで良いので経路を増やしてたくさん出してほしい
- 暴力団組織のない街
- 市立病院の充実

【実現するためには・・・】

- 向こう三軒両隣の復活【自助・互助】
  - 自治会の事業に興味を持つこと【自助・互助】
  - 数少ない他人の子どもに関心をもつ【自助・互助】
  - マナーを守るように心がける【自助・互助】
  - 自治会で「声かけ運動」を推進する【共助】
  - 見守り隊を充実させる（一人暮らしの方のために）【共助】
  - 活発な自治会への助成金の上乗せ【公助】
  - 歩いて行ける場所に店舗がほしい【公助】
  - 災害や水害が発生した時の避難所の明確な位置を示してほしい【公助】
  - 廃屋が多い。廃屋の撤去。【公助】
- など

## 【中間市で災害・水害が発生した時、必要だと思うこと】

- ・ 早目の連絡をお願いしたい
  - ・ 緊急の避難連絡網をつくるべき
  - ・ 組長が自分の組内で最初に避難させる年寄を知らない
  - ・ 避難所の確保（避難所が遠い）
  - ・ 避難所を地域の状況に応じて設置する
  - ・ 食料、日用品の確保
- など

## 【実現するためには・・・】

- ・ 自治会ごとの誘導體制の確立【自助・互助】
- ・ 正確な情報を常にテレビ、ラジオで情報を知るようにする【自助・互助】
- ・ 各自避難所の確認【自助・互助】
- ・ 非常時持ち出し袋等の用意【自助・互助】
- ・ 自治会加入の方はもちろん、未加入の方も自治会で全て把握できるようにする  
【共助】
- ・ 自治会で連絡網をつくる【共助】
- ・ 避難訓練の計画、実施役割、分担、シミュレーション【共助】
- ・ 避難時の高齢者の誘導組織づくり【共助】
- ・ 災害時（緊急）マニュアル、政策・整備（連絡網、場所）【公助】
- ・ 水害時の高台への避難場所はどこなのかわからない【公助】
- ・ 県住を避難場所に（屋上）【公助】
- ・ 避難所マップを作成する【公助】

## ④中間小学校区の課題

高齢化率は校区全体ではそれほど高くないものの、自治会によっては半数が65歳以上などのところもあり、地域による住民層の違いが特徴的な地域となっています。また、単身世帯数が多いことから、自治会への参加率、特に若い世代の参加が少ないことが課題となっています。

市の中心市街地に位置することから、人口の流動性が高く、防犯などへの不安を感じる人が多い傾向がみられます。一方で、自治会加入者同士の横のつながりや連携は強いいため、「自助・互助」の基盤はあると考えられますが、高い高齢化率から、高齢者同士の助け合いに不安を感じている人が多く、「共助」や「公助」に対する期待が高くなっています。公民館\*等を利用した行事やイベント等の充実によって、世代間交流を増やし、若い世代も含めた「自助・互助」の体制づくりを行っていく必要があります。

また、災害対策においても、水害に対する不安感が高いことなどから、定期的な避難訓練や備蓄の必要性等について、住民同士での話し合いの機会を設け、対策づくりを行っていく必要があります。

※公民館

市町村その他一定区域内の住民の為に、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行う施設。



中間北小学校区

①統計からみた現状

平成24年10月1日現在の中間北小学校区の人口は6,355人（男性：2,969人、女性：3,386人）で、中間市全体の14.2%を占めています。

0～14歳の年少人口が人口に占める割合は11.5%となっており、中間市全体（11.2%）とほぼ同程度となっています。自治会別にみると、宮林で6.8%と最も少なく、大根土で23.1%と最も多くなっています。

15～64歳の生産年齢人口が人口に占める割合は63.0%と、中間市全体（58.1%）を上回っています。特に曙町では75.6%と7割を超えています。

65歳以上の老年人口が人口に占める割合は25.5%と、中間市全体（30.7%）を下回っています。自治会別にみると、中牟田、白天、宮林では高齢化率が40%程度となっています。一方で大根土では13.1%と高齢化率が低く、校区内でも高齢化に差がある傾向がみられます。

世帯数についてみると、中間北小学校区全体で2,916世帯となっており、そのうち単身世帯数は39.2%を占めています。中牟田では単身世帯数が51.3%を占めており、高齢化率が高く、そのうち75歳以上の高齢者も23.0%を占めていることから、単身高齢者世帯への見守りが重要な地域といえます。

(単位:人)

自治会名	人口計	性別		年齢別										世帯数		
		男性	女性	年少人口 (0～14歳)		生産年齢人口 (15～64歳)		老年人口 (65歳以上)		65～74歳 (再掲)		75歳以上 (再掲)		世帯数	単身世帯数	
岩瀬東町	497	258	239	78	15.7%	329	66.2%	90	18.1%	38	7.6%	52	10.5%	238	105	44.1%
岩瀬北町	363	162	201	43	11.8%	223	61.4%	97	26.7%	57	15.7%	40	11.0%	171	67	39.2%
自由ヶ丘	275	129	146	20	7.3%	162	58.9%	93	33.8%	36	13.1%	57	20.7%	140	61	43.6%
下蓮花寺	652	311	341	104	16.0%	387	59.4%	161	24.7%	78	12.0%	83	12.7%	289	114	39.4%
岩瀬南町	739	353	386	88	11.9%	442	59.8%	209	28.3%	102	13.8%	107	14.5%	369	171	46.3%
高見	479	219	260	53	11.1%	315	65.8%	111	23.2%	44	9.2%	67	14.0%	200	68	34.0%
中牟田	638	297	341	53	8.3%	345	54.1%	240	37.6%	93	14.6%	147	23.0%	335	172	51.3%
白天	419	200	219	31	7.4%	218	52.0%	170	40.6%	93	22.2%	77	18.4%	215	98	45.6%
大根土	618	252	366	143	23.1%	394	63.8%	81	13.1%	39	6.3%	42	6.8%	251	72	28.7%
宮林	428	190	238	29	6.8%	244	57.0%	155	36.2%	72	16.8%	83	19.4%	227	109	48.0%
曙町	1,247	598	649	92	7.4%	943	75.6%	212	17.0%	128	10.3%	84	6.7%	481	106	22.0%
小計	6,355	2,969	3,386	734	11.5%	4,002	63.0%	1,619	25.5%	780	12.3%	839	13.2%	2,916	1,143	39.2%
<b>中間市全体</b>	<b>44,696</b>	<b>20,838</b>	<b>23,858</b>	<b>5,022</b>	<b>11.2%</b>	<b>25,968</b>	<b>58.1%</b>	<b>13,706</b>	<b>30.7%</b>	<b>6,716</b>	<b>15.0%</b>	<b>6,990</b>	<b>15.6%</b>	<b>20,307</b>	<b>7,127</b>	<b>35.1%</b>



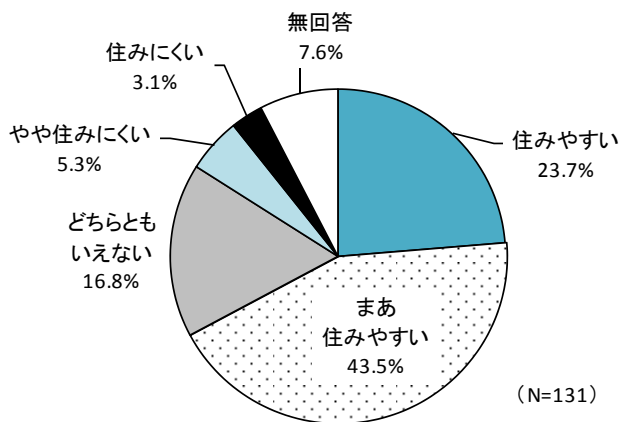
②市民意識調査結果からみた現状

中間北小学校区の方については、「住みやすい」(23.7%)と「まあ住みやすい」(43.5%)を合わせた7割弱の方が『住みやすい』と回答されています。

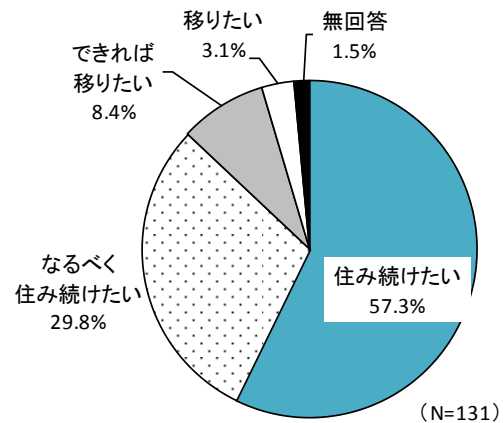
また、市への居留意向について尋ねたところ、「住み続けたい」(57.3%)と「なるべく住み続けたい」(29.8%)を合わせて、9割弱の方が中間市に今後も住み続けたいと思っています。

一方で住みにくいと感じる点としては、「犯罪が多く、生活が不安」(28.2%)が最も多く、次いで「公共交通機関の利便性が悪い」「商店などが近くになく、日常の買い物に不便」(19.1%)の順となっています。

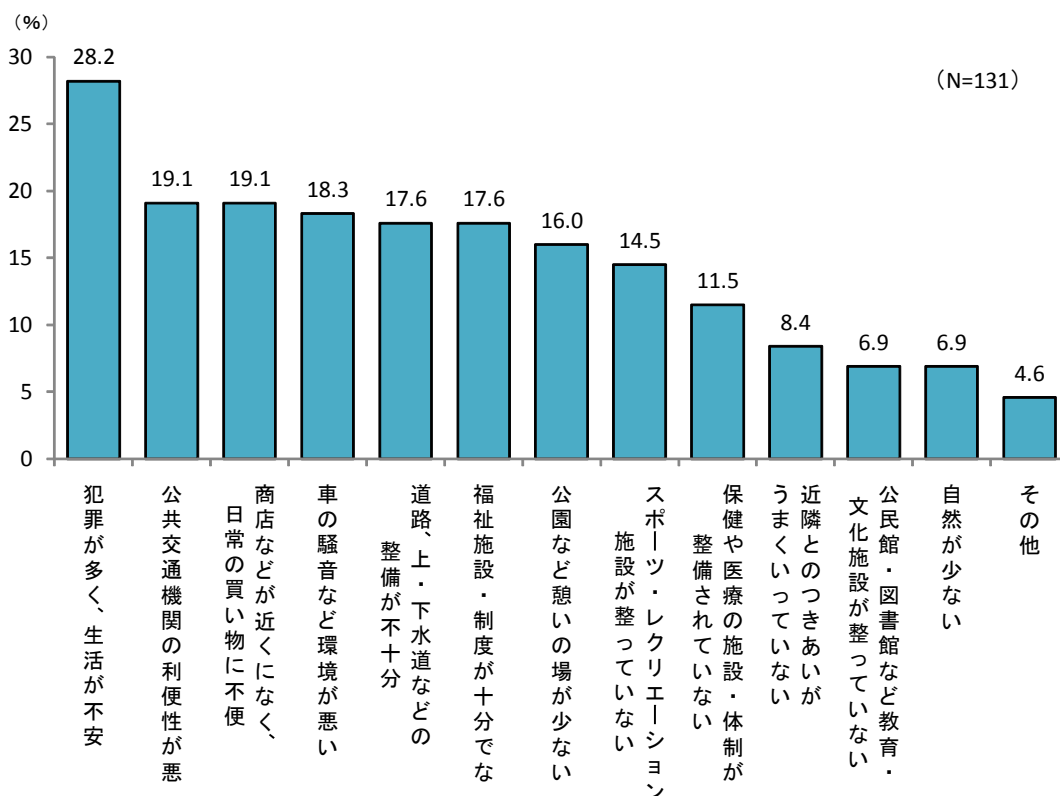
<住みやすさ>



<居留意向>



<住みにくいと感じる点>

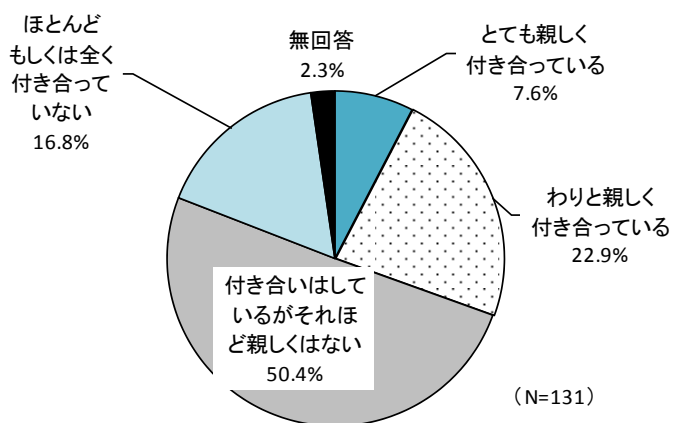


近所付き合いの程度についてしてみると、「とても親しく付き合っている」「わりと親しく付き合っている」「付き合いはしているがそれほど親しくはない」を合わせて8割程度の方が何らかの近所付き合いをされており、そのうち3割程度の方は比較的親しいお付き合いをされていることがわかります。

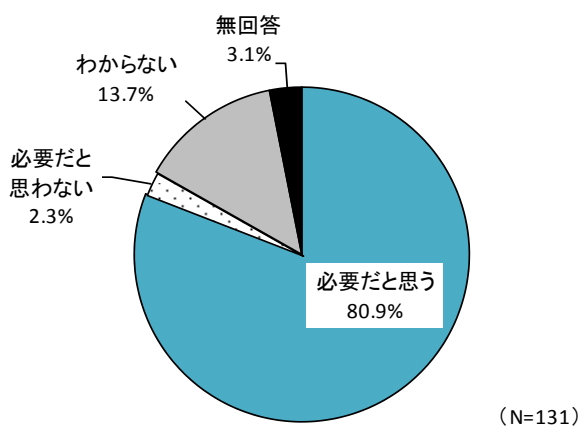
また、地域住民同士がお互いに協力し合うことの必要性（以下「互助」の必要性）については、「必要だと思う」と回答した人が約8割を占めており、その中でも特に必要な課題としては、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯への支援」と「災害時の助け合い」が過半数を占めて多くなっています。

一方で近所の高齢者や子育ての支援についての協力意向を尋ねたところ、「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」と「支援をしたいが、何をすればよいかわからない」を合わせて約4割の方が比較的積極的な支援意向をもっておられることがわかります。

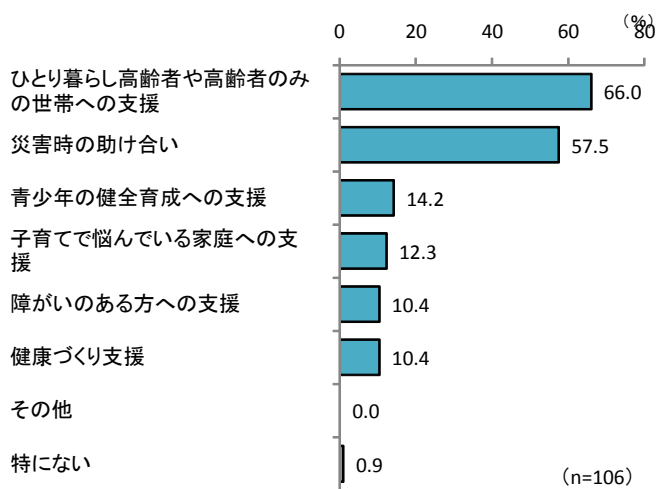
＜近所付き合いの程度＞



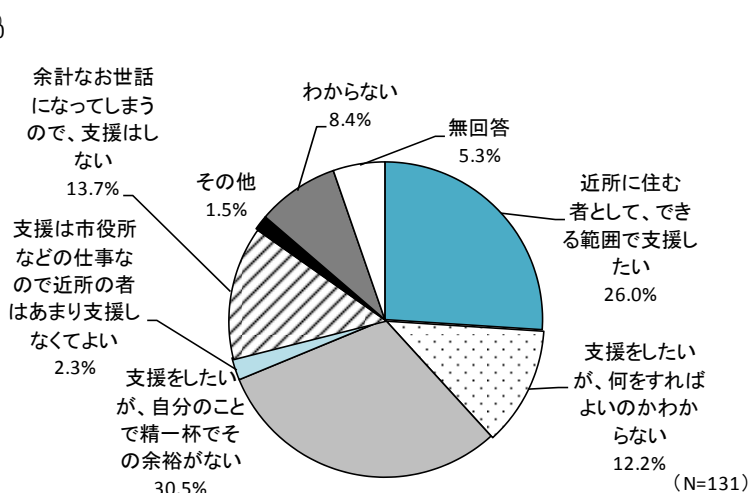
＜地域住民同士の自主的な協力の必要性＞



＜協力して取り組むことが特に必要な課題＞



＜近所の高齢者や子育て支援について＞

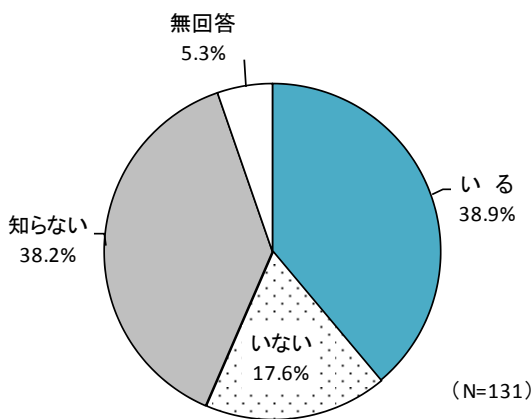


協力して取り組むことが特に必要な課題の中で上位に入っていた「災害時の助け合い」についてみると、現在災害時に気になる人が「いる」と回答した人は約4割を占めています。また「知らない」という人も4割程度を占めています。

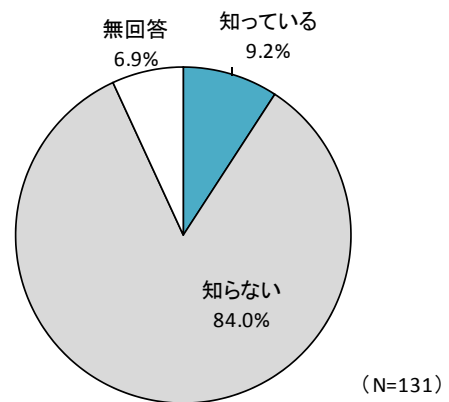
一方で災害時要援護者支援制度の認知度は1割程度に過ぎない状況となっています。

災害時に自治会で対応できるかどうか尋ねたところ、「わからない」という人が7割を占めており、自治会での連絡ルートについても「わからない」という人が7割を占めるなど、自治会での対応についてはどのようなになっているのかわからないという人が多いようです。

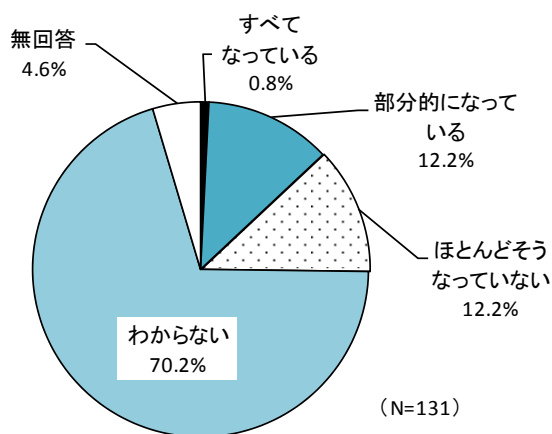
＜災害時に気になる人の有無＞



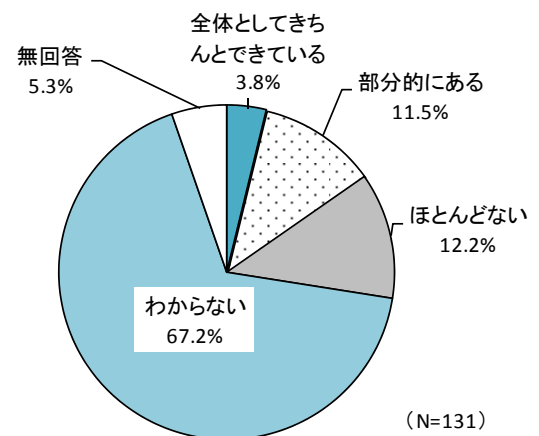
＜災害時要援護者支援制度の認知度＞



＜自治会で緊急事態に対応できるようになっているか＞



＜自治会での連絡ルート＞

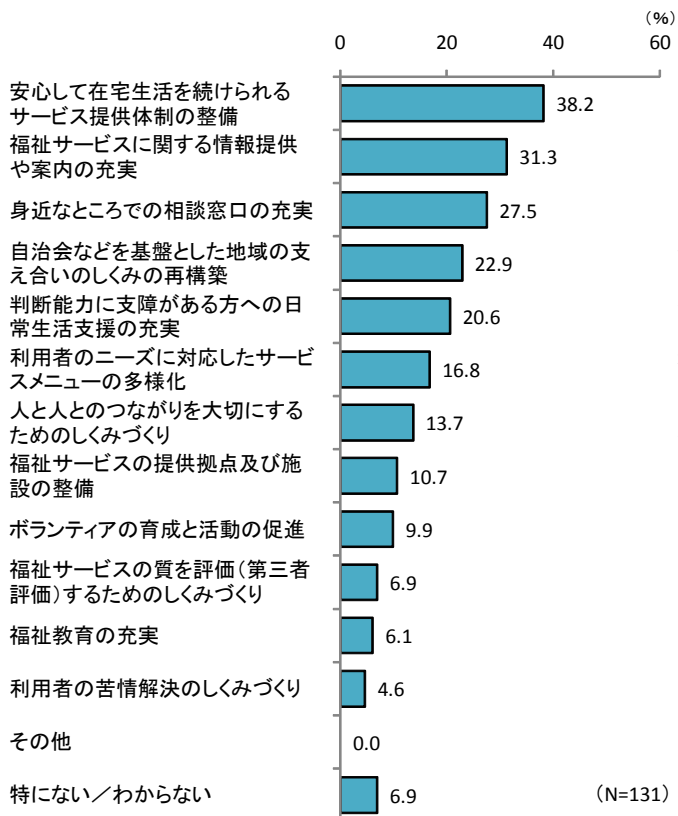


## 第2章 中間市の現状と課題

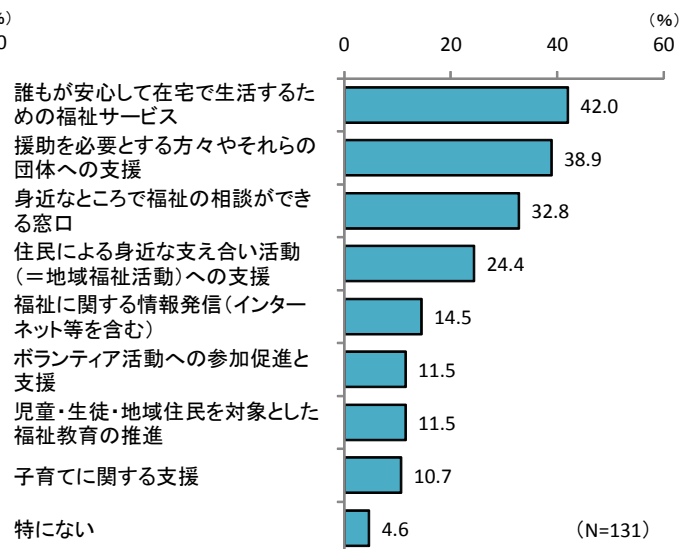
中間市に期待することとしては、「安心して在宅生活を続けられるサービス提供体制の整備」(38.2%)が最も多く、次いで「福祉サービスに関する情報提供や案内の充実」(31.3%)と続いています。

一方で社会福祉協議会に充実してほしいこととしては、「誰もが安心して在宅で生活するための福祉サービス」(42.0%)が最も多く、次いで「援助を必要とする方々やそれらの団体への支援」(38.9%)と続いています。

### <中間市に期待すること>



### <社会福祉協議会に充実してほしい活動>



### ③ワークショップで出た意見

ワークショップでは、自治会ごとに以下のようなスローガンが掲げられました。

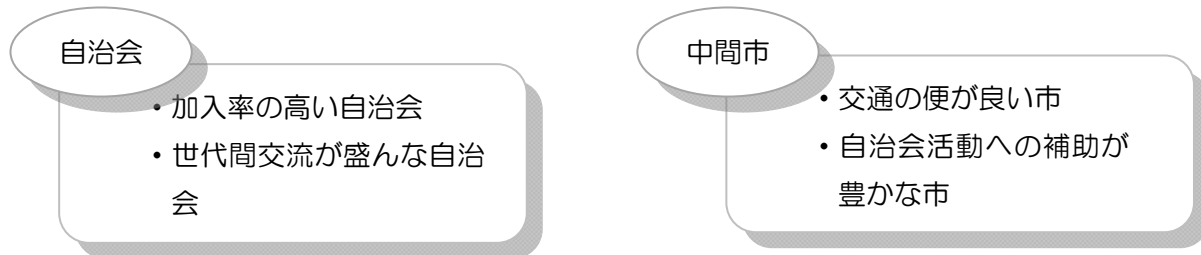
- みんな心かよわせる 岩瀬東町
- 元気な風 やさしい風がふくまち いわせ北町
- 住みよいまち 自由ヶ丘
- 緑が輝くまち 下蓮花寺
- 思いやりのある 優しい町 岩瀬南町
- 広げよう 思いやりの 和(わ)(なごみ) (高見・中牟田・白天)
- 声をかけよう みんなの笑顔で(曙町・大根土)

また、それぞれのテーマごとに出た意見の代表的なものは、以下のようになっています。

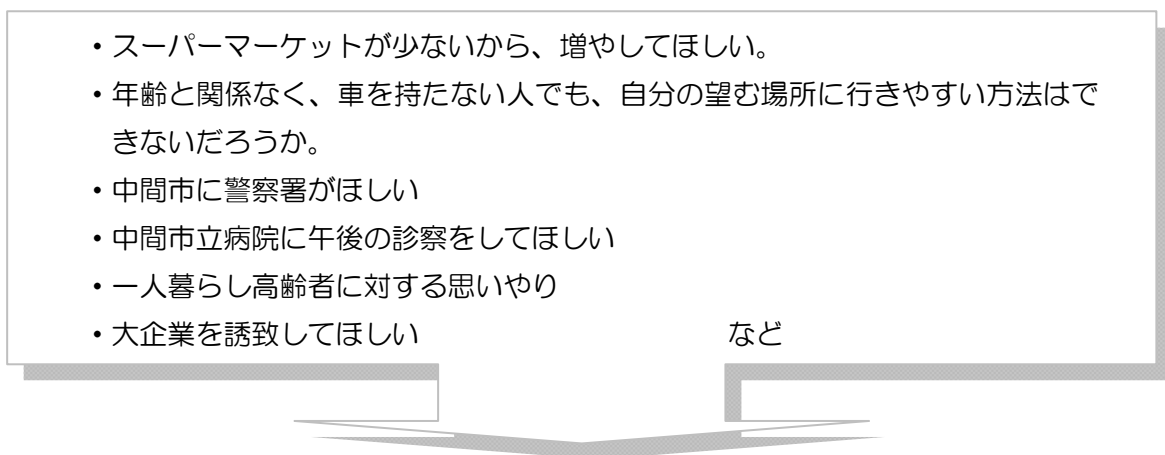
【自治会の良いところ・悪い所】



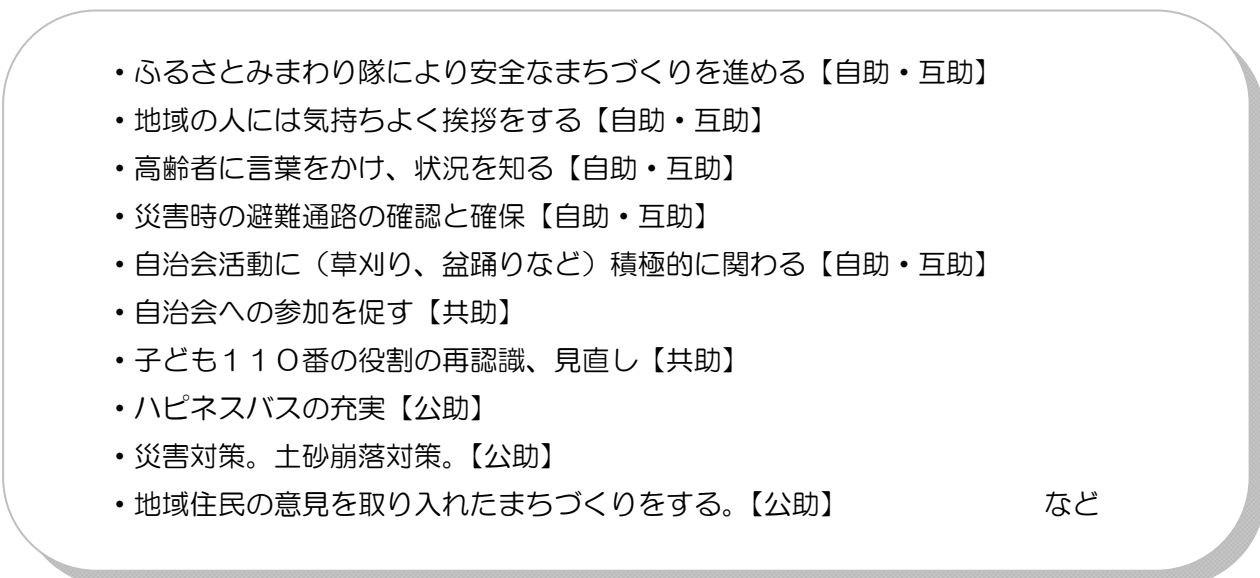
【どんな自治会だと良いか、どんな中間市だと良いか】



【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために必要なこと】



【実現するためには・・・】



【中間市で災害・水害が発生した時、必要だと思うこと】

- ・少しでも早く正しい情報が届くように考えてほしい
- ・避難場所の詳しい場所の地図
- ・一人暮らしの高齢者や障がいのある方のいる家を掌握しておくこと
- ・迅速な連絡体制の確立と住民の理解度アップ
- ・近くで安心できる避難所の確保
- ・必要品の備蓄
- ・災害に対してのシミュレーション など

【実現するためには・・・】

- ・災害に対する意識を持つ【自助・互助】
- ・日頃のつながりが大事【自助・互助】
- ・高齢者、障がいのある方の日常把握と連携組織づくり【自助・互助】
- ・遠い避難所より近くのところを考えておく【自助・互助】
- ・公民館で防災教室を開く【共助】
- ・水害、地震、火災等、緊急体制を整え、住民に浸透させる【共助】
- ・防災教育と訓練の実施【共助】
- ・自治会、隣組で高齢者の名簿作成と確認【共助】
- ・避難経路を自治体ごとに話し合っておく【共助】
- ・市の職員のボランティア活用【共助】
- ・救命救急の講習を受けておく【公助】
- ・一人暮らしの高齢者や障がいのある方を掌握【公助】
- ・避難指示は早く知らせる【公助】 など

#### ④中間北小学校区の課題

生産年齢人口の割合が中間市全体よりも多く、高齢化率は低いなど、比較的働き盛りの世代が多い地域となっていますが、地域によっては高齢化率が高く、単身世帯が多いなど、自治会単位での取り組みが重要です。

市の中心部に位置していることから、比較的生活の便は良いと感じられている住民が多い傾向がみられますが、その一方で防犯や安全に対する不安が他の校区と比べて高くなっています。近所付き合いにおいても、親しい付き合いの程度が低い傾向がみられ、住民同士の交流機会の充実が必要といえます。

また、災害時の対応としては、避難場所や避難経路の情報提供を求める声が多く、自治会単位での避難場所の確認や誘導などの体制づくりのための機会提供が必要といえます。

## 中間南小学校区

## ①統計からみた現状

平成24年10月1日現在の中間南小学校区の人口は10,771人(男性:4,975人、女性:5,796人)で、中間市全体の24.1%を占めています。

0~14歳の年少人口が人口に占める割合は10.3%となっており、中間市全体(11.2%)より若干低くなっています。自治会別にみると、太賀二区で5.8%と最も少なく、星ヶ丘で22.1%と最も多くなっています。

15~64歳の生産年齢人口が人口に占める割合は55.1%と、中間市全体(58.1%)より若干少なくなっています。太賀一区、太賀二区、太賀三区では半数に満たず、少なくなっています。一方で星ヶ丘は66.8%と中間市全体を大きく上回っています。

65歳以上の老年人口が人口に占める割合は34.6%と、中間市全体(30.7%)を上回っています。自治会別にみると、太賀一区、太賀二区、太賀三区、通谷一丁目では高齢化率が40%以上となっています。一方で星ヶ丘では11.1%と極端に高齢化率が低い傾向がみられます。

世帯数についてみると、中間南小学校区全体で4,848世帯となっており、そのうち単身世帯数は32.5%を占めています。朝霧では単身世帯数が51.5%を占めており、高齢化率が高く、そのうち75歳以上の高齢者も約2割を占めていることから、単身高齢者世帯への見守りが重要な地域といえます。

(単位:人)

自治会名	人口計	性別		年齢別										世帯数		
		男性	女性	年少人口 (0~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳以上)		65~74歳 (再掲)		75歳以上 (再掲)		世帯数	単身世帯数	
太賀一区	1,261	598	663	88	7.0%	629	49.9%	544	43.1%	241	19.1%	303	24.0%	578	162	28.0%
太賀二区	873	386	487	51	5.8%	427	48.9%	395	45.2%	187	21.4%	208	23.8%	413	130	31.5%
太賀三区	227	103	124	17	7.5%	110	48.5%	100	44.1%	51	22.5%	49	21.6%	114	41	36.0%
鍋山	960	419	541	94	9.8%	495	51.6%	371	38.6%	169	17.6%	202	21.0%	465	171	36.8%
朝霧	1,134	532	602	127	11.2%	607	53.5%	400	35.3%	180	15.9%	220	19.4%	501	163	51.5%
通谷一丁目	1,040	476	564	82	7.9%	542	52.1%	416	40.0%	108	10.4%	308	29.6%	559	288	33.5%
通谷二区	1,016	460	556	111	10.9%	547	53.8%	358	35.2%	169	16.6%	189	18.6%	468	157	26.7%
通谷三区	875	417	458	106	12.1%	475	54.3%	294	33.6%	128	14.6%	166	19.0%	363	97	25.9%
通谷四区	1,184	556	628	140	11.8%	754	63.7%	290	24.5%	162	13.7%	128	10.8%	474	123	22.6%
桜台	1,234	580	654	110	8.9%	726	58.8%	398	32.3%	218	17.7%	180	14.6%	508	115	37.4%
中央町	247	106	141	22	8.9%	147	59.5%	78	31.6%	37	15.0%	41	16.6%	115	43	29.0%
星ヶ丘	720	342	378	159	22.1%	481	66.8%	80	11.1%	58	8.1%	22	3.1%	290	84	32.5%
小計	10,771	4,975	5,796	1,107	10.3%	5,940	55.1%	3,724	34.6%	1,708	15.9%	2,016	18.7%	4,848	1,574	32.5%
中間市全体	44,696	20,838	23,858	5,022	11.2%	25,968	58.1%	13,706	30.7%	6,716	15.0%	6,990	15.6%	20,307	7,127	35.1%



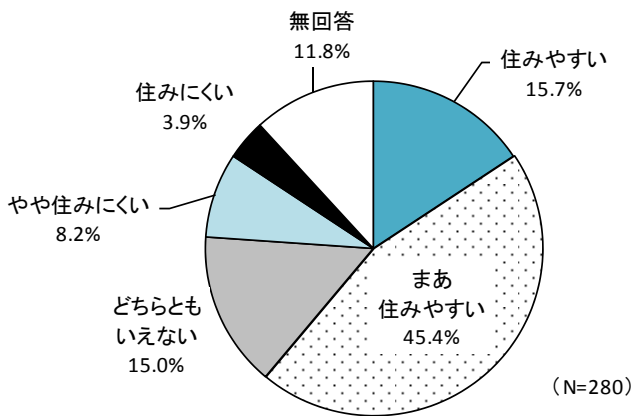
②市民意識調査結果からみた現状

中間南小学校区の方については、「住みやすい」(15.7%)と「まあ住みやすい」(45.4%)を合わせた約6割の方が『住みやすい』と回答されています。

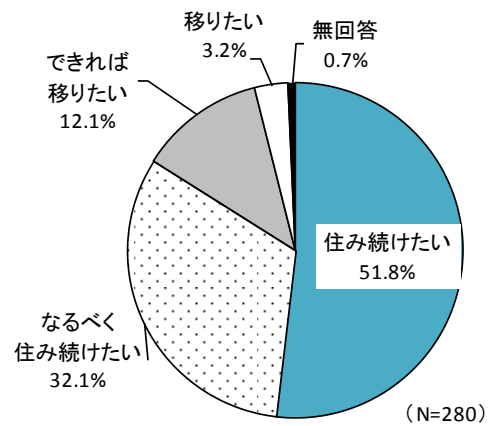
また、市への居住意向について尋ねたところ、「住み続けたい」(51.8%)と「なるべく住み続けたい」(32.1%)を合わせて、8割以上の方が中間市に今後も住み続けたいと思っています。

一方で住みにくいと感じる点としては、「公共交通機関の利便性が悪い」(27.5%)が最も多く、次いで「公園など憩いの場が少ない」(24.3%)の順となっています。

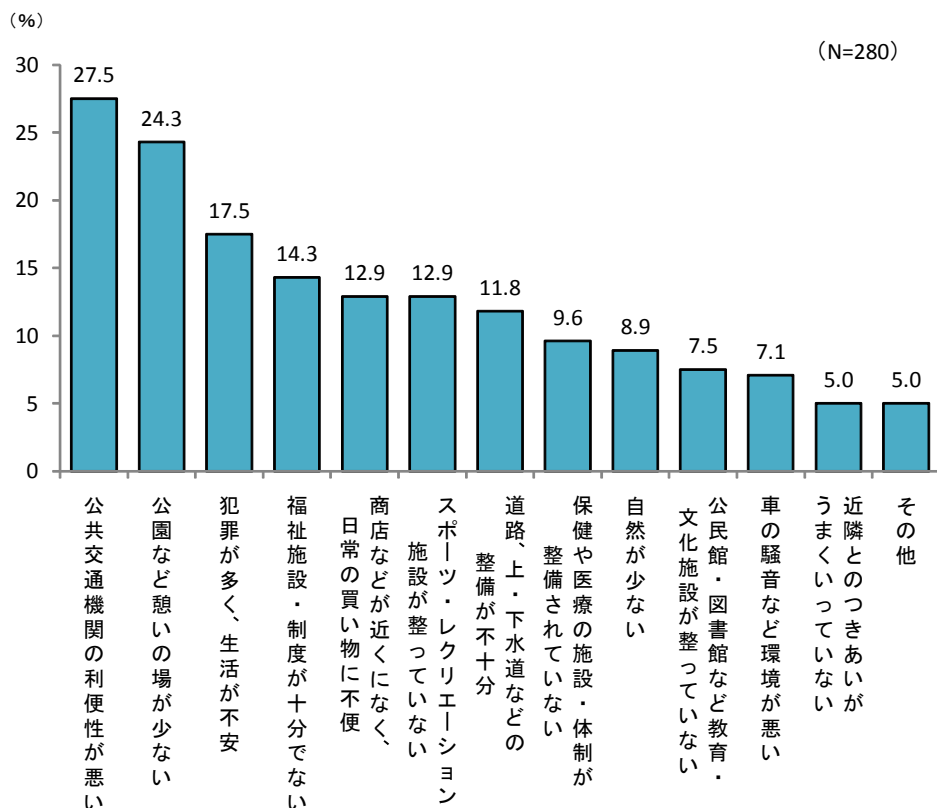
<住みやすさ>



<居住意向>



<住みにくいと感じる点>

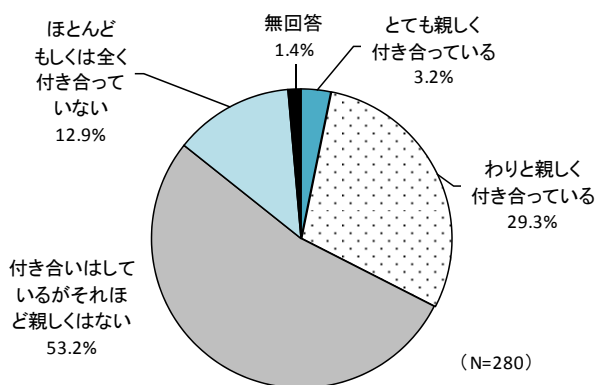


近所付き合いの程度についてしてみると、「とても親しく付き合っている」「わりと親しく付き合っている」「付き合いはしているがそれほど親しくはない」を合わせて9割程度の方が何らかの近所付き合いをされており、そのうち3割程度の方は比較的親しいお付き合いをされていることがわかります。

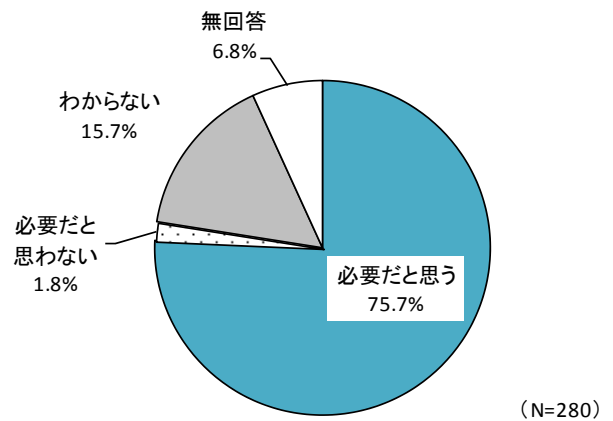
また、地域住民同士がお互いに協力し合うことの必要性（以下「互助」の必要性）については、「必要だと思う」と回答した人が7割以上を占めており、その中でも特に必要な課題としては、「ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯への支援」と「災害時の助け合い」が過半数を占めて多くなっています。

一方で近所の高齢者や子育ての支援についての協力意向を尋ねたところ、「近所に住む者として、できる範囲で支援したい」と「支援をしたいが、何をすればよいかかわからない」を合わせて半数弱の方が比較的積極的な支援意向をもっておられることがわかります。

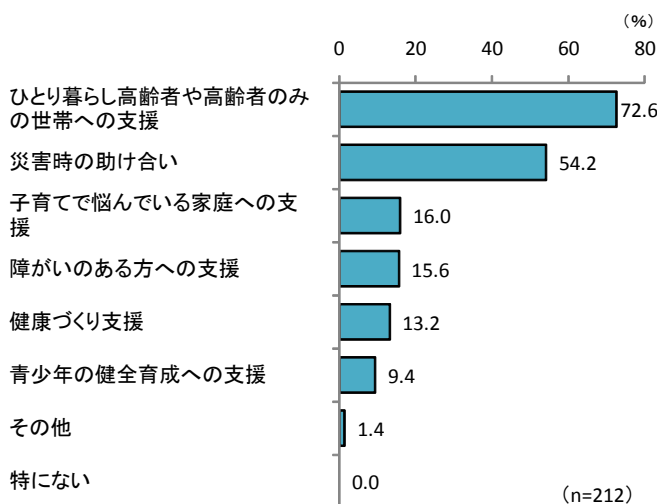
＜近所付き合いの程度＞



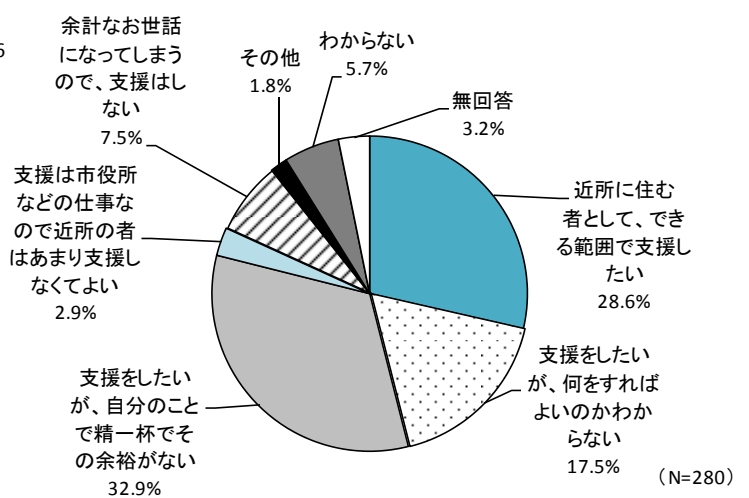
＜地域住民同士の自主的な協力の必要性＞



＜協力して取り組むことが特に必要な課題＞



＜近所の高齢者や子育て支援について＞

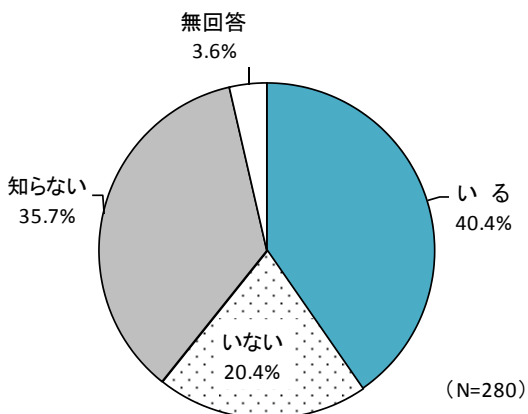


協力して取り組むことが特に必要な課題の中で上位に入っていた「災害時の助け合い」についてみると、現在災害時に気になる人が「いる」と回答した人は約4割を占めています。また「知らない」という人も3割強を占めています。

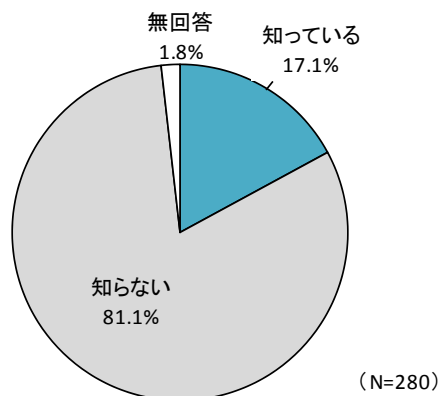
一方で災害時要援護者支援制度の認知度は2割弱に過ぎない状況となっています。

災害時に自治会で対応できるかどうか尋ねたところ、「わからない」という人が7割を占めており、自治会での連絡ルートについても「わからない」という人が7割を占めるなど、自治会での対応についてはどのようなになっているのかわからないという人が多いようです。

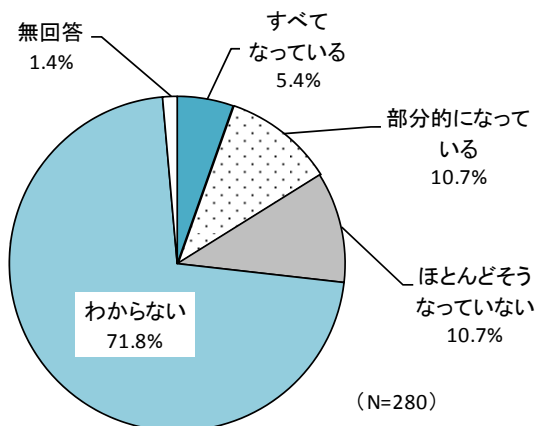
＜災害時に気になる人の有無＞



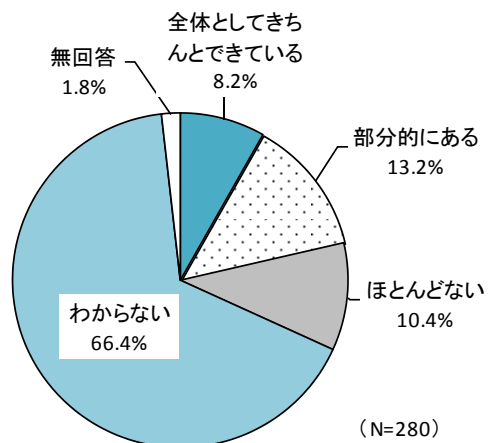
＜災害時要援護者支援制度の認知度＞



＜自治会で緊急事態に対応できるようになっているか＞



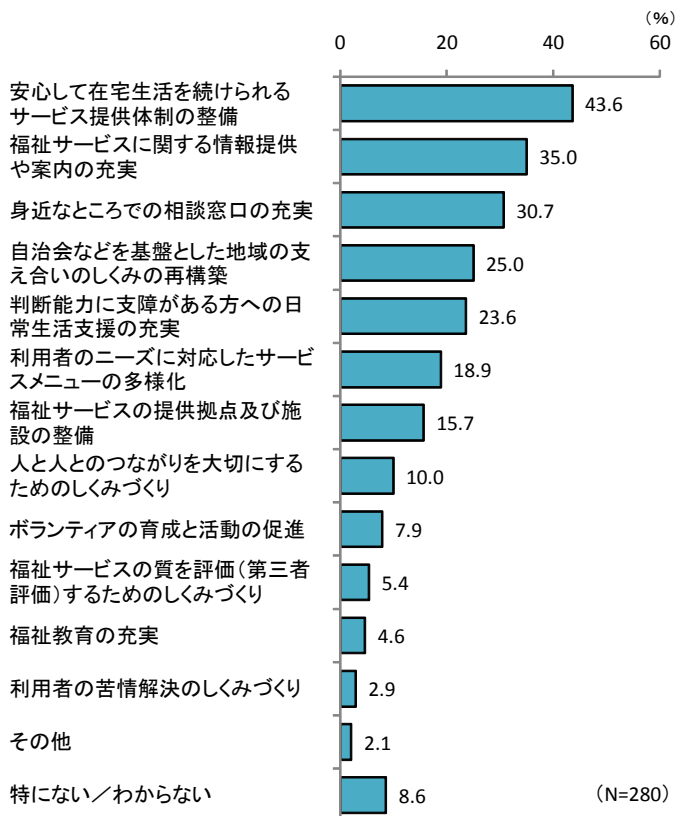
＜自治会での連絡ルート＞



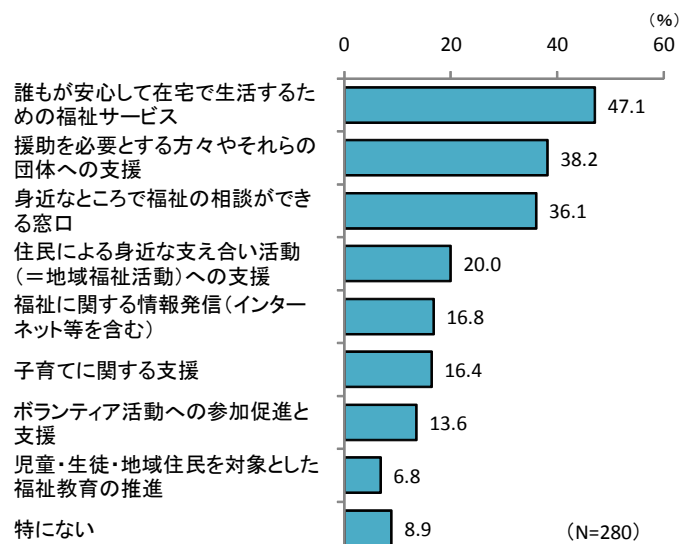
中間市に期待することとしては、「安心して在宅生活を続けられるサービス提供体制の整備」(43.6%)が最も多く、次いで「福祉サービスに関する情報提供や案内の充実」(35.0%)と続いています。

一方で社会福祉協議会に充実してほしいこととしては、「誰もが安心して在宅で生活するための福祉サービス」(47.1%)が最も多く、次いで「援助を必要とする方々やそれらの団体への支援」(38.2%)と続いています。

<中間市に期待すること>



<社会福祉協議会に充実してほしい活動>



### ③ワークショップで出た意見

ワークショップでは、自治会ごとに以下のようなスローガンが掲げられました。

- ・思いやる心のまち 太賀
- ・老人・子どもに優しいまち 鍋山
- ・みんなで創ろう あなたの朝霧
- ・人情あふれる通谷(通谷一丁目・二区)
- ・みんなで楽しく 活力のある 元気な自治会(通谷三区)
- ・未来に元気な 通谷四区
- ・元気であいさつのできる自治会(桜台・中央町・星ヶ丘)

また、それぞれのテーマごとに出た意見の代表的なものは、以下のようになっています。

【自治会の良いところ・悪い所】

良い所

- ・自治会のまとまりが良い
- ・まちが綺麗

悪い所

- ・イベントの参加者に偏りがある
- ・高齢化が進んでいる
- ・坂道の多さ

【どんな自治会だと良いか、どんな中間市だと良いか】

自治会

- ・加入率の高い自治会
- ・若者も参加する自治会
- ・交流の機会が多い自治会

中間市

- ・交通の便が良い市
- ・さまざまな情報提供が充実している市

【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために必要なこと】

- ・高齢者が買物難民にならない地域
  - ・交通の利便性を良くする
  - ・治安を良くする
  - ・行政の福祉サービスの向上
  - ・近所づきあいの復活
  - ・多くの人が公民館に来られる行事を
- など

【実現するためには・・・】

- ・気軽に声かけ（笑顔で）を目指す【自助・互助】
  - ・ふるさとみまわり隊に自発的参加【自助・互助】
  - ・買い物等の助け合い（持ちつ持たれつ）【自助・互助】
  - ・公民館を利用して色々な部活をする【共助】
  - ・自治会の組織の充実【共助】
  - ・ふれあいサロンの活動充実【共助】
  - ・野菜、鮮魚店などの協力で移動販売の促進【共助】
  - ・民生委員の数を増やす【公助】
  - ・コミュニティバスを増やす【公助】
- など

【中間市で災害・水害が発生した時、必要だと思うこと】

- ・どこでどの程度の災害が発生したのかの連絡
  - ・避難誘導方法の整備（特に子ども、高齢者）
  - ・ボランティアの人材育成
  - ・避難場所の再検討
  - ・備蓄品の確保（水・乾パン・毛布・インスタント品）
  - ・防災放送設備の完備
  - ・教育の徹底
- など

【実現するためには・・・】

- ・日常時に災害時の緊急ライフラインを知っておく【自助・互助】
  - ・避難時の心得を徹底しておく【自助・互助】
  - ・情報が把握できるようにラジオ・テレビを準備する【自助・互助】
  - ・災害時への備え（食料など）【自助・互助】
  - ・行政の指導助言を得て、避難マニュアルを作成する【共助】
  - ・ボランティアの訓練、育成【共助】
  - ・自治会員の把握に必要な全員名簿【共助】
  - ・学校の避難訓練にあわせて、地区の避難訓練を行う【共助】
  - ・災害時の責任者を明確にしておく【共助】
  - ・被災したときの受け入れ場所を決めておく【公助】
  - ・防災無線の設置【公助】
  - ・避難場所を増やす【公助】
  - ・救急車が足りないのでは（大規模になればなるほど）【公助】
- など

#### ④中間南小学校区の課題

市全体の人口の4分の1を占めていますが、高齢化率が3割を超えるなど、市内でも比較的少子高齢化が進んだ校区となっていることから、世代間での意識の違いや自治会活動における高齢化が課題となっています。また、高齢化が進んでいる地域においては単身世帯も多く、単身高齢世帯の見守り体制の充実が必要不可欠です。

一方で、バスが主な公共交通機関となっていることから、交通の不便を感じている方が多く、特に高齢化が進んでいる地域においては、買い物支援などの充実が喫緊の課題となっています。

災害時など有事の際の対応としては、高齢化が高いことなどから、住民同士の助け合いよりはむしろ、ボランティア※などを積極的に利用した災害支援体制の充実を求める声が多く、通常時からのボランティア登録や人材育成などを市に求める傾向が強くなっています。

3

事業所・関連団体調査結果からみた共助の現状と課題

(1) 事業所調査

①調査概要

[調査の目的]

「中間市地域福祉計画」策定にあたって、市内事業所の地域福祉における協力意向を調査し、策定のための参考とするため実施しました。

[調査対象]

中間市内に本店・支店・営業所を有する事業所の中から無作為に抽出した100事業所。

[調査実施時期]

平成24年6月～7月

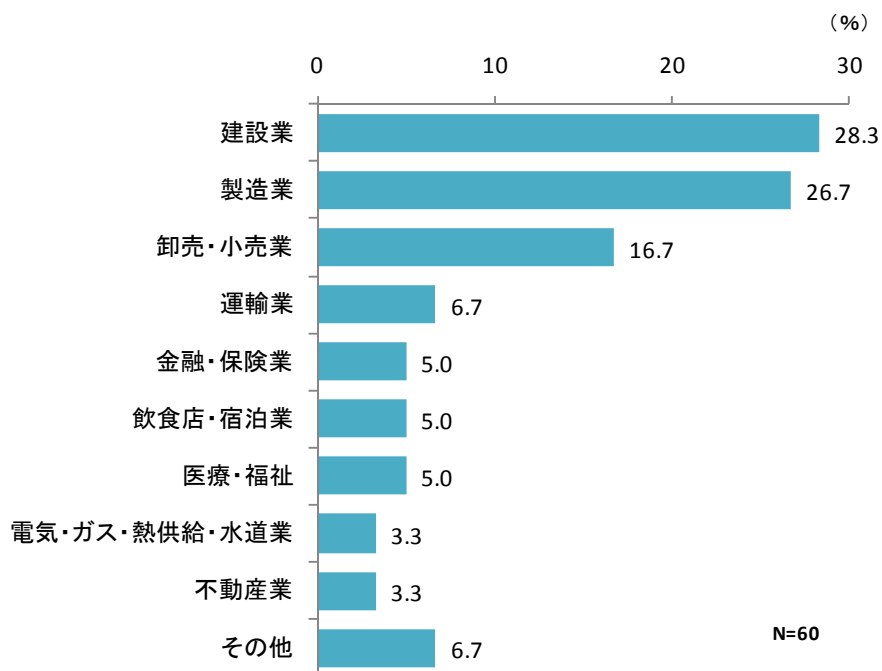
[回収状況]

有効回収数 60サンプル（有効回収率60.0%）

②調査結果

[事業所区分]

事業所区分をみると、「建設業」（28.3%）が最も多く、次いで「製造業」（26.7%）、「卸売・小売業」（16.7%）の順となっています。



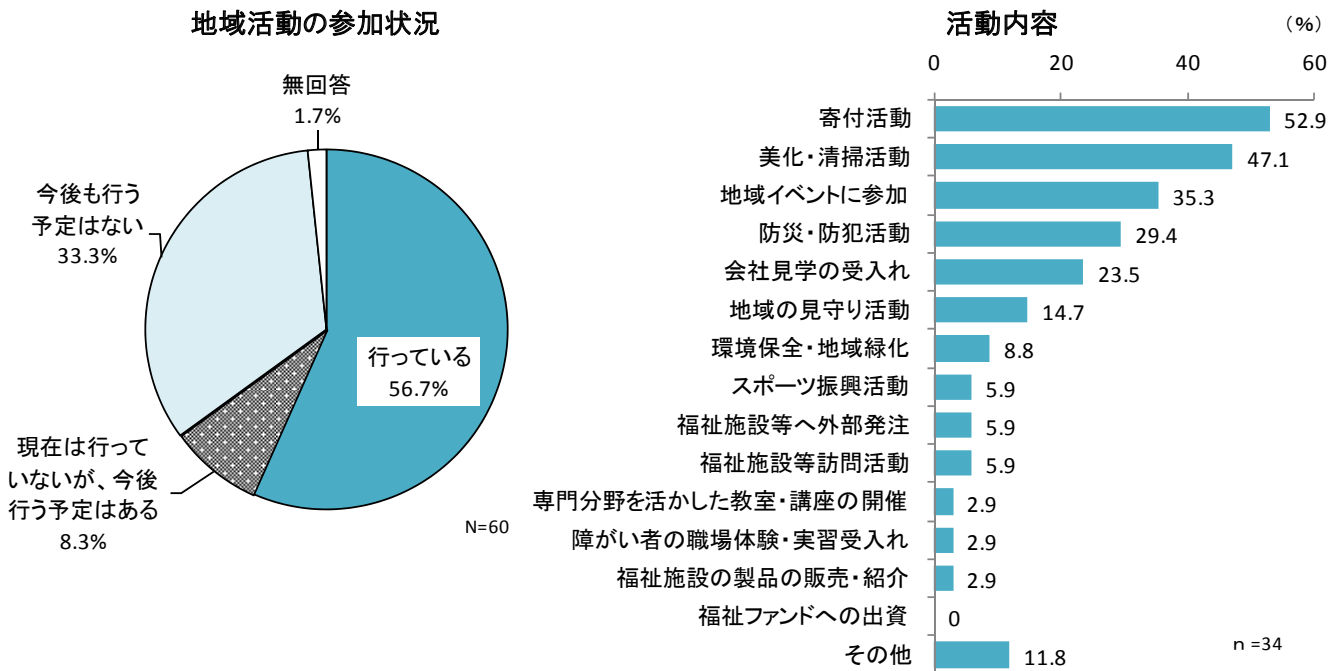


[地域活動の活動状況について]

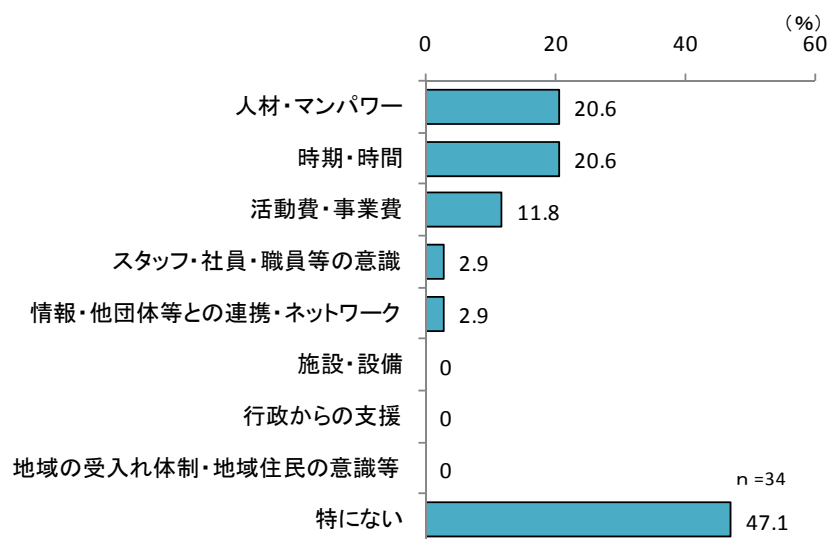
従業員が地域住民の一人として地域活動へ参加する場合の支援を行っているか（または、今後行う予定があるか）尋ねたところ、「行っている」と回答した事業所が56.7%と過半数を占めています。

現在取り組んでいる地域活動等は「寄付活動」（52.9%）が最も多く、次いで「美化・清掃活動」（47.1%）、「地域イベントに参加」（35.3%）の順となっています。

地域活動を行う上での問題点や課題について尋ねたところ、「人材・マンパワー」と「時期・時間」（いずれも20.6%）が最も多く、次いで「活動費・事業費」（11.8%）の順となっています。

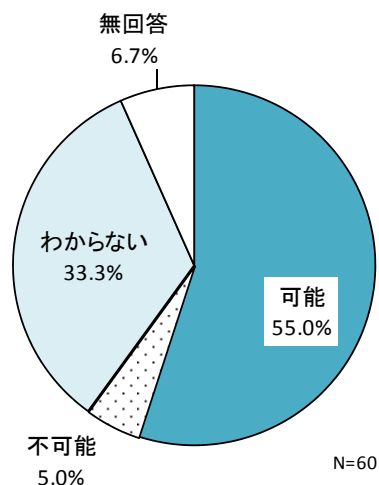


地域活動を行う上での問題点や課題



### [災害発生時の協力意向]

災害が発生した場合、復興に向けて、その専門的領域において協力できるか尋ねたところ、「可能」と回答した事業所が55.0%と過半数を占めています。



## (2) 関係団体調査

### ①調査概要

#### [調査の目的]

「中間市地域福祉計画」策定にあたって、市内で社会福祉や地域福祉に関する活動を実践している団体やグループの、現在の実践状況と今後の方向性を調査し、策定のための参考とするため実施しました。

#### [調査対象]

中間市内に拠点を持つ、社会福祉や地域福祉に関連するNPO 団体、ボランティアグループ、市民団体等、30 団体。

#### [調査実施時期]

平成24年6月～7月

#### [回収状況]

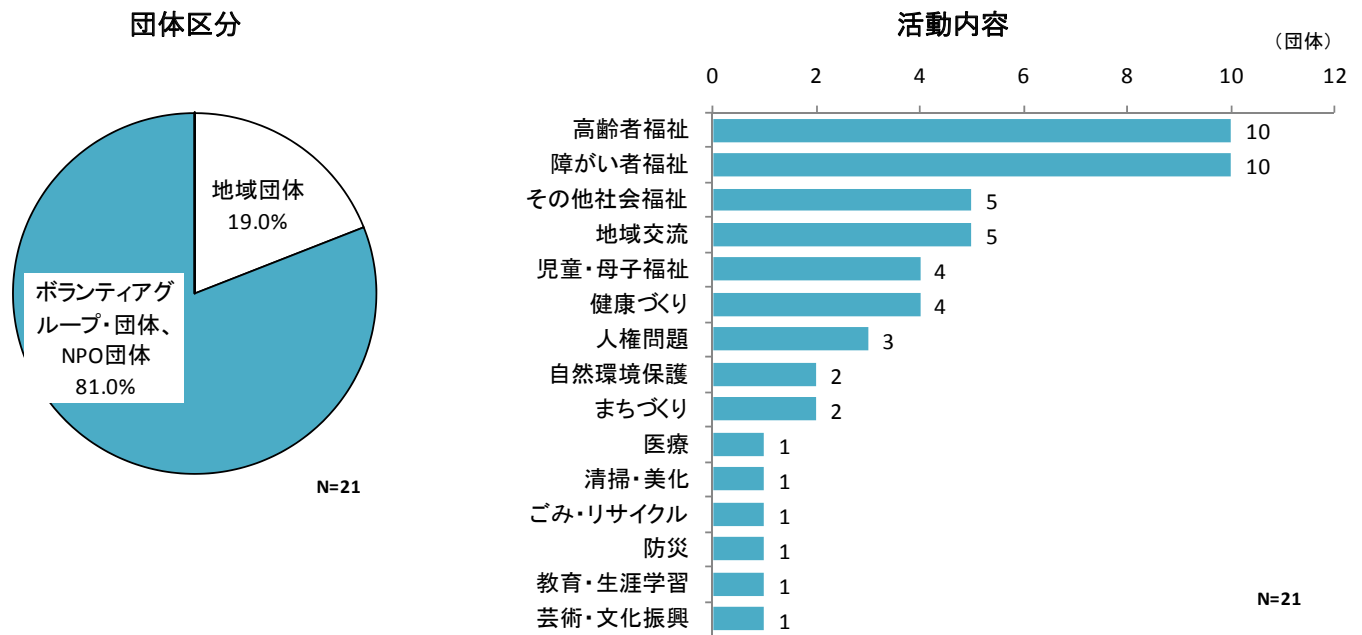
有効回収数 21 サンプル (有効回収率 70.0%)

②調査結果

[回答事業所の属性]

団体区分をみると、「ボランティアグループ・団体、NPO団体」が大半を占めています。

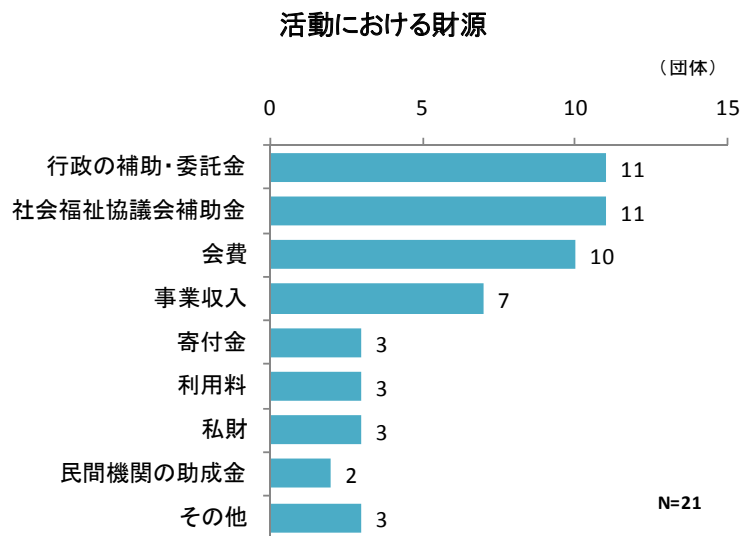
活動内容は、「高齢者福祉」と「障がい者福祉」がいずれも10団体で最も多く、次いで「その他社会福祉」、「地域交流」（いずれも5団体）と続いています。



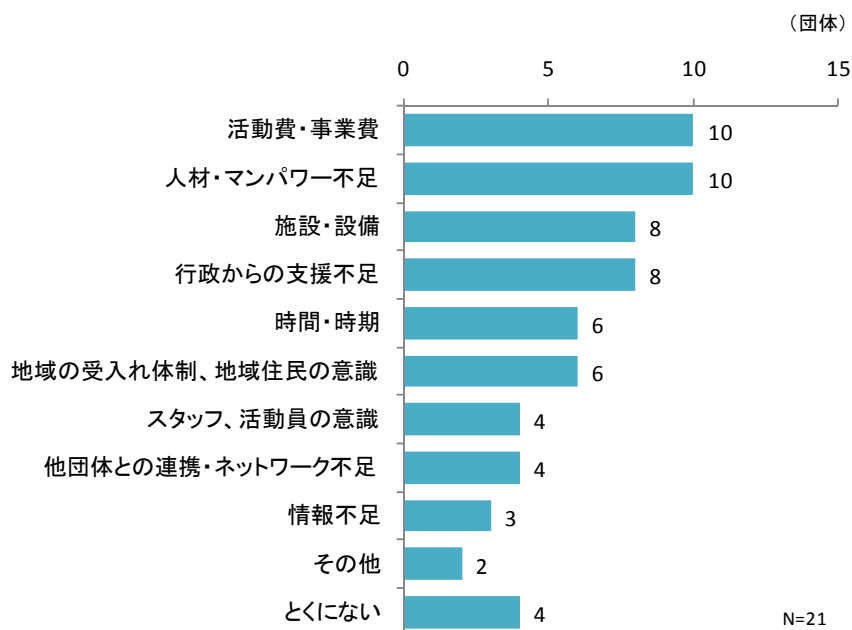
[現在の活動状況について]

活動における財源について尋ねたところ、「行政の補助・委託金」、「社会福祉協議会補助金」がいずれも11団体で最も多くなっています。

地域活動を行う上での問題や課題について尋ねたところ、「活動費・事業費」と「人材・マンパワー不足」が10団体で最も多く、次いで「施設・設備」「行政からの支援不足」（8団体）となっています。



地域活動を行う上での問題や課題



### (3) 事業所及び関連団体による「共助」の可能性

事業所調査によれば、過半数の事業所で、従業員の地域活動について肯定的な方針がとられており、そのうち4割から5割程度の事業所が「美化・清掃活動」や「地域イベントに参加」など地域住民との交流を行っています。また、関連団体調査によれば、中間市の地域活動の中心を「市民活動団体（NPO・ボランティア団体等）」が担っており、「高齢者福祉」や「障がい者福祉」など福祉関連団体が多く、住民の福祉活動において重要な役割を果たしていると考えられます。

市民意識調査やワークショップの結果から、全ての校区において、中間市に求めることとして「安心して在宅生活を続けられるサービス提供体制の整備」が第1位、社会福祉協議会に求めることとして「誰もが安心して在宅で生活するための福祉サービス」が第1位となっており、今後もこれらの団体等と連携して地域福祉活動の充実に取り組んで行く必要があります。

一方で、事業所においては、地域活動を行う課題を「人材・マンパワー」、「時期・時間」が多く、繁忙期等での活動参加の困難さが伺えます。一方で、関連団体においては、「活動費・事業費」を活動における問題や課題としてあげられているところが多く、また、事業所調査と同様「人材・マンパワー不足」も大きな課題となっています。地域福祉の重要な役割を担っている事業所や団体への援助体制の充実を図るとともに、ボランティア育成や住民意識の醸成を図ることで、人材不足等への課題に取り組んで行くことが必要といえます。

また、災害発生時の協力意向については、過半数の事業所が「可能」と回答しています。事業内容にも関連しますが、協力意向は比較的高いといえることから、通常時からの地域住民との交流等を通じて、事業所と住民の間の共助関係を確立していくための取り組みが必要といえます。

## 4

## 中間市における自助・互助、共助、公助の可能性について

住民アンケート調査やワークショップ等を通じて、中間市民の多くが中間市に住み続けたい、もっと住みやすいまちになってほしいと感じていることがわかりました。しかしながら、住民同士のつながりは希薄化しており、近所づきあいが盛んなところでも、高齢化などの問題によって地域活動の継続が難しい状況となっています。

高齢者や障がいのある方、子どもなど、様々な年代、様々な人々が安心して地域で生活をしていくためには、住民が主体となって、地域でお互いに支え合う力を強めていく必要があります。

中間市全体の傾向として、自治会活動そのものは活発であり、まとまりも良いが、一方で自治会加入率の低下や若年層の参加が少ないことなどが共通した課題としてあげられていました。各自治会が目指すべき姿としては、年齢層に限定されず、交流の機会が多く、参加率も高い自治会であり、中間市としては、様々なイベントや地域行事を通じた交流機会の充実や公共施設等を利用した活動促進を行っていく必要があるといえます。

誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために・・・

## 自助・互助

- 挨拶や声かけをして、日頃から顔みしりに。
- 地域の行事には積極的に参加して知り合いを増やす。
- お年寄りや子ども、障がいのある方の見守りを心がける

## 共助

- 困っている方がいたら「たすけあい」の心で接する。
- 自治会に出来るだけ参加して、情報を集める。

## 公助

- 子どもからお年寄りまで、住民が地域で安全で安心して生活できるよう、警察などの関係機関との連携を図り、防犯対策を充実させる。
- 有事の際には、迅速で正確な情報提供を行う。

また、災害時の対策についても本計画においては重要な課題となっています。

その中で最も重要となるのは、通常時からの住民同士の横のつながりや連携です。そのためには、声かけや挨拶などを通じて、どんな人が自分の近所に住んでいるのかなどをある程度把握しておく必要があります。

また、高齢者や障がいのある方など、災害時要援護者対策について、住民同士で話し合い、連絡体制を整備しておく必要もあります。今回実施したワークショップの方法論等を地域で活かし、災害対策についての住民意識の醸成や共通認識などを高めていくことが重要といえます。

中間市で災害が発生した時、必要なものとは・・・

### 自助・互助

- 水や食料、防災グッズなど、最低限の備えは自身でもしておく。
- 避難所や避難経路の確認を家族としておく。

### 共助

- 一人暮らしの方などへの援助について、事前にどのように行うのかを、自治会や近隣住民で話し合っておく。
- 避難訓練を定期的に行い、有事の際の行動や意識について、住民が共通認識を持つ。

### 公助

- 有事の際には、迅速で正確な情報提供を行う。
- 避難場所や避難経路などの安全性、備蓄等の状況について定期的な確認を行う。
- ハザードマップなどの定期的な見直しを行い、情報の更新と内容の周知を徹底する。

## 第3章 中間市の取り組み

(地域福祉計画)





## 1

## 基本理念

地域福祉計画及び地域福祉活動計画は、性別、年齢や健康状態などに関わらず、すべての市民が、住み慣れた地域でいきいきと、互いを尊重し合いながら、自分らしく暮らし続けることができるまち、必要な時にはお互いに助け合い、地域の課題を自分の問題として捉えることができるようなまちをめざして策定するものです。

そのため、「中間市地域福祉計画」の基本理念を以下のように設定します。

## 笑顔あふれる地域（まち）づくり



2

施策の体系

基本理念	基本目標	推進施策	具体的施策
笑顔あふれる地域(まち)づくり	みんながつながる 「なかま」	1. 思いやりの心を育てる	(1) 福祉学習・福祉教育機会の確保
		2. 心とところをつなぐ交流の促進	(2) 情報提供体制の充実
		3. ふれあいの居場所づくり	(3) 交流のための居場所づくりを支援 (4) 校区まちづくり協議会の設立推進
	みんなが 安心して暮らせる 「なかま」	1. 人にやさしいまちづくり	(1) 災害時要援護者支援制度の充実
		2. 関係機関のネットワーク強化	(2) 自主防災組織の育成・支援
		3. 支えあいの仕組みづくり	(3) 生活支援の方策の検討
		4. 適正な福祉サービスの確保	(4) 総合相談・支援体制の整備
			(5) 見守り活動の充実
			(6) 地域包括ケア体制の構築
			(7) 各個別計画の着実な遂行
みんなが 心豊かになれる 「なかま」	1. 地域での福祉活動への参加促進	(1) 市民活動団体との連携強化	
	2. こころもからだも健康増進への取り組み	(2) 団体の活動状況等の情報提供	
		(3) 生涯学習機会の確保	
		(4) 生きがいづくりの促進	
		(5) 健康教育等による健康増進	

## 3

## 基本目標ごとの取り組み

## (1) みんながつながる「なかま」

みんながつながる「なかま」を実現するために、中間市では地域福祉計画において、学校や生涯学習講座等と連携し、福祉学習や福祉教育の機会を増やし、人権教育等を進めることによって思いやりの心を育てていくとともに、公民館事業等を通じて、住民同士が交流し、ふれあう機会の充実を推進していきます。また、校区まちづくり協議会の設立を推進し、住民が自分の住んでいる地域に対する関心を高め、地域の課題を自分自身の問題として捉えることができるような取り組みを進めていきます。

また、地域福祉の実現のためには、住民自身による自助・互助や、関連団体等と連携して行う共助についても重要です。

そのため、住民や関連団体、事業所等についても行動目標を掲げ、地域福祉の推進を進めていきます。

## 【地域住民の方は・・・】

自助	互助
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会活動への関心をもち、積極的に参加しましょう。</li> <li>● 世代間交流の機会を積極的にもちましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 挨拶を積極的に行いましょう。</li> <li>● 高齢者や子どもに対する見守り体制について、近所の方と話してみましょう。</li> </ul>

## 【関連団体・事業所は・・・】

	共助
関連団体・事業所	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域の行事やイベントに積極的に参加しましょう。</li> <li>● 地域住民との挨拶を積極的に行いましょう。</li> <li>● 事業内容や活動内容についての情報提供を積極的に行いましょう。</li> </ul>
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 若い世代も参加しやすい自治会づくりに取り組みましょう。</li> </ul>

(2) みんなが安心して暮らせる「なかま」

みんなが安心して暮らせる「なかま」を実現するために、中間市では地域福祉計画において災害時要援護者支援制度の認知度を高め、有事の際にも安全かつ迅速に避難ができるような体制づくりをすすめていきます。また、住民同士が災害時の対応について共通認識をもてるよう、自主防災組織の育成や支援を行うとともに、日常的な見守り活動の充実や介護が必要な状態の方や障がいのある方が安心して地域で暮らせるよう、医療機関や福祉施設等との連携を図り、地域における介護・介助の体制づくりを強化していきます。

また、地域福祉の実現のためには、住民自身による自助・互助や、関連団体等と連携して行う共助についても重要です。

そのため、住民や関連団体、事業所等についても行動目標を掲げ、地域福祉の推進を進めていきます。

【地域住民の方は・・・】

自助	互助
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の避難所がどこにあたるのか、前もって確認しておきましょう。</li> <li>● 災害時に必要と思われるものについては、ある程度自分自身でも備蓄しておき、定期的に確認しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 近所に援助を必要とする方などがいないか、確認しておきましょう。</li> <li>● 近所の人と、災害時などの対応について話す機会を持ちましょう。</li> </ul>

【関連団体・事業所は・・・】

	共助
関連団体・事業所	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 災害時等の避難経路、避難場所について、従業員や活動員で話し合しましょう。</li> <li>● 災害時等に地域住民に対して何が協力できるのか話し合ってみましょう。</li> <li>● 地域の避難訓練に積極的に参加し、地域住民とのつながりを持ちましょう。</li> </ul>
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 定期的な避難訓練を行い、住民同士で災害時の共通認識をもつようにしましょう。</li> </ul>

### (3) みんなが心豊かになれる「なかま」

みんなが心豊かになれる「なかま」を実現するために、中間市では地域福祉計画において、市民活動団体や社会福祉協議会との連携を強化し、地域での福祉活動に住民が参加しやすい体制づくりに努めていきます。また、高齢者総合保健福祉計画や健康増進計画等関連計画を通じて、住民自身が自分の健康に関心を持ち、介護を必要な状態にならないような体制づくりや、健康診断の受診勧奨を行い、住み慣れた地域でいつまでも暮らせるような体制づくりを進めるとともに、子育て世帯等への正しい健康教育等を行い、子どもの頃からの正しい生活習慣づくりに取り組みます。

また、地域福祉の実現のためには、住民自身による自助・互助や、関連団体等と連携して行う共助についても重要です。

そのため、住民や関連団体、事業所等についても行動目標を掲げ、地域福祉の推進を進めていきます。

#### 【地域住民の方は・・・】

自助	互助
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会座談会などに積極的に参加し、自分の住んでいる自治会の課題や問題点を知りましょう。</li> <li>● 人権問題への関心を持ちましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 虐待などが疑われる事例については、住民同士で話し合い、自治体や関連機関への連絡体制を整備しましょう。</li> </ul>

#### 【関連団体・事業所は・・・】

	共助
関連団体・事業所	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治会座談会などに積極的に参加し、地域の課題や問題点を知りましょう。</li> <li>● あらゆる人権に配慮した事業・業務展開、活動展開を行いましょう。</li> </ul>
自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 見守り隊や清掃活動等を通じて、地域住民の方とのつながりを持ちましょう。</li> </ul>

## 4

### 災害時要援護者の支援方策について

東日本大震災、九州北部豪雨などの自然災害が相次ぎ、多くの貴い命が奪われています。なかでも、避難に時間を要する災害時要援護者の被災が目立っています。被害を最小限に食い止めるためにも、災害情報の伝達体制を整え、災害時要援護者が円滑かつ迅速に避難するための支援体制を整えておくなど、有事に備えた体制面の整備が必要です。

本市においては、以下のような方法、方策のもと、災害時要援護者の支援を行っていきます。

#### 災害時要援護者とは・・・

災害時に、必要な情報を迅速かつ的確に把握し、自らを守るために安全な場所に避難するなど、一連の行動をとるのに支援を要する人々のこと。一般的に、高齢者(特に迅速な行動に支障のある方)、障がいのある方、難病患者、乳幼児、妊産婦、外国人(日本語で情報を得ることができない方)等を指します。

本市では、

- ① 介護保険における要介護認定3以上の在宅生活者
- ② 障がい者のうち、次に掲げる在宅生活者  
身体障がい者(身体障がい者程度等級表1級及び2級の者)  
知的障がい者(療育手帳判定基準A判定の者)  
精神障がい者(精神障がい者保健福祉手帳1級及び2級の者) と、しています。

#### 1 災害時要援護者の把握方法

災害時要援護者の避難支援を行うための災害時要援護者情報の把握については、適切かつ漏れのないようにするため、次に掲げる通常業務等を通じて情報の把握に努めます。

- ① 要介護者の情報に関しては、要介護認定情報等により把握します。
- ② 障がいのある方の情報に関しては、各種障がい者手帳台帳における情報、障害程度区分情報等により把握します。
- ③ その他関係課が保有する情報で把握します。

#### 2 要援護者情報の共有方法

##### ① 関係機関共有方式

保健福祉部が把握している要援護者に関する情報について、中間市個人情報保護条例の規定により、関係部局での共有に努めるとともに、住所や氏名等の基本的な情報については、災害が発生し、又は発生が予測される場合に限り、「本人の生命、身体又は財産の保護のため、緊急に必要があるとき。」として、自治会、民生委員・児童委員※、消防団、避難支援者(以下「避難支援者等」という。)に対して、当該情報を提供する判断基準を明確にして提供を行います。



② 手上げ方式

自ら災害時要援護者リストへの登録を希望した者の情報を収集し、避難支援等に対して情報提供を行います。

③ 同意方式

福祉関係者等と連携を図り、地域において支援が必要な人を把握し、要援護者リストへの登録を直接働きかける。避難支援者等に個人情報を開示することについて同意を得られれば、避難支援等に対して情報提供を行います。

### 3 情報の更新

大規模な災害により電子計算機器が使用できない場合を想定して、定期的に紙ベースでリストを更新し、保管します。

### 4 日常的な見守り活動や助け合い活動の推進方策

高齢者見守りネットワーク事業や民生委員・児童委員による訪問活動、いきいきサロン活動により日常적인見守り活動や助け合い活動を行います。

### 5 緊急対応に備えた役割分担と連絡体制づくり

横断的組織として「災害時要援護者支援班」を設け、避難準備情報等の伝達業務、避難誘導、安否確認・避難状況の把握、避難所の要援護班（仮称）等との連携・情報共有等を行います。また、自治会組織、消防団、福祉関係者等と連携し、個々の災害時要援護者に対応する避難支援者を明確化します。また、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、自治会等との連携を深め、連絡体制の整備に努めます。



## 第4章 社会福祉協議会の取り組み (地域福祉活動計画)



## 1

## 福祉理念

地域福祉活動計画は、中間市が策定する「中間市地域福祉計画」と連携、協働し、市民や福祉関連団体、NPO やボランティア団体、事業者等が、地域福祉の推進に主体的に関わるための、具体的な活動の計画であり、社会福祉協議会が推進する計画です。

社会福祉協議会では、このような考えに基づき、「中間市地域福祉活動計画」の福祉理念を以下のように設定します。

## だれもが住み慣れた地域で支えあう福祉のなかまづくり

## 2

## 社会福祉協議会の基本方針

社会福祉協議会は、社会福祉法に規定された公共性の高い団体として、市民の参加を促進し、中間市における社会福祉事業、その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達と社会福祉に関する活動の活性化により地域福祉の推進を図り、『福祉でまちづくり』を市民や地域福祉に関する活動を行う個人又は団体、行政及び福祉・介護・保健・医療等の多様な機関と共に『だれもが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる』地域社会の実現を目指し、次の事項を基本方針として事業の推進を図ります。

## 1.「社会福祉協議会の法的な位置づけ」

## 社会福祉法 第十章 地域福祉の推進 第二節 社会福祉協議会

平成 12 年 6 月に社会福祉法が成立し、この中で市町村社協は、「**地域福祉の推進を図ることを目的とした団体**」として位置づけられ、地域福祉推進の中核としての役割が法的に明確化されました。

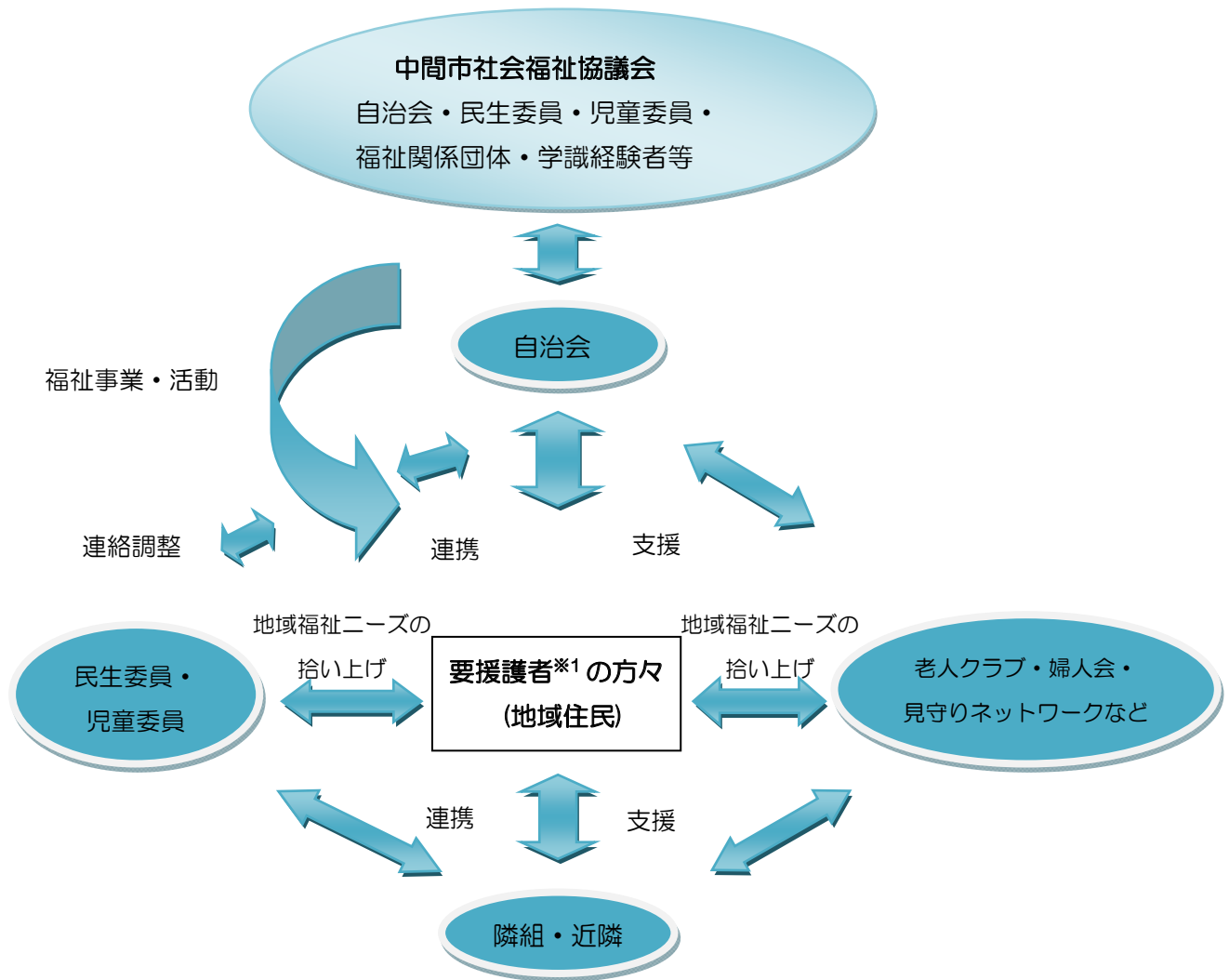
## 2.中間市社会福祉協議会の「基本的な考え方」

「だれもが住み慣れた地域で安心して暮らすことができる」地域社会の実現

## 3.社会福祉協議会の性格

社会福祉協議会は、地域における住民組織と公私の社会福祉関係者等により構成され、住民主体の理念に基づき、地域の福祉課題の解決に取り組み、誰もが安心して暮らす事のできる地域福祉の実現をめざし、住民の福祉活動の組織化、社会福祉を目的とする事業の連絡調整及び事業の企画・実施などを行う、市区町村、都道府県・指定都市、全国を結ぶ公共性と自主性を有する民間組織です。

地域福祉のまちづくり



私たちは、「子どもから高齢者まで、障がいの有無に関わらず、すべての人が自分らしく、住み慣れた地域で支え合える福祉のコミュニティづくり」を進めていきたいと考えています。

常に社会状況が変化する中でおこる「無縁社会」の問題に対して、「人と人とのつながり」を増やし、豊かにするための取り組みが最も重要ではないかと考えています。

「人と人との豊かなつながり」は、人が生きていくための「元気や希望そして生きがいの源」であり、生活上の安心感、役割意識等を育み、その人の心と生活を豊かにし、人と交流することで、人と地域との豊かな関係が生まれ、また、人とふれあうことによって相互の支え合いの意識が芽生え、人を思いやる意識や関係づくりが生まれてきます。

この関係づくりこそがコミュニティ・ケア※2の基盤ではないかと考えています。

「人と人との支えあい」が地域を潤し、住民の方々が元気を保ち続け、地域も元気をもち続けられるような地域社会の構築を目指していくことが、地域住民の願いでもあり、社会福祉協議会の基本的な考えであります。

※1 要援護者  
支援を要する人々のこと。一般的に、高齢者、障がいのある方、難病患者、乳幼児、妊産婦、外国人(日本語で情報を得ることができない方)等を指す。

※2 コミュニティ・ケア  
社会福祉の諸分野において、その対象者を特別な施設の中だけで処遇するのではなく、できるだけ地域の中での地域とのつながりを保ちながら処遇すること。

3

施策の体系

基本理念

笑顔あふれる地域(まち)づくり

基本目標

取り組みの柱

取り組み

事業・活動

みんながつながる  
「なかま」

1. 交流・ふれあいを充実しよう	(1) ふれあい・支えあいの充実	○ふれあい・いきいきサロン ○子育てサロン ○出前健康教室 ○在宅介護者のつどい	
	(2) 社会参加の促進	○賛助会員 ○共同募金 ○助成事業 ○愉快農園貸付事業 ○移動支援事業 ○社会福祉大会 ○なかまの風だより塾 ○福祉バスの運行 ○車いす貸出し	
	2. 地域の連携を深めよう	(1) 身近な情報の活用	○自治会との情報交換 ○ホームページの活用 ○社協だより
		(2) 地域の連携体制の構築	○当事者団体、サークル活動との連携 ○ふれあい・いきいきサロン活動要綱、手引書の作成 ○ふれあい・いきいきサロン設置推進 ○ふれあい・いきいきサロンお世話人研修会
	3. つながる意識を高めよう	(1) 福祉教育・人権教育の推進	○福祉教育指定校(検討事業) ○指定校連絡会(検討事業) ○療育支援センター「親子ひろばリンク」 ○障害者地域活動支援センター「パルハウスぼちぼち」 ○東学童保育所
		(2) 福祉に関する広報、啓発の推進	○ホームページの作成 ○地域福祉セミナー「中間市全体」(検討事業)

暮らしはる「なかま」  
みんなが安心して

1. 支えあう地域をつくろう	(1) 地域の見守り、ネットワークの構築	○福祉委員、福祉推進委員制度の設置推進(検討事業) ○小地域支えあいマップ(検討事業) ○ネットワーク委員会の構築(検討事業) ○小地域福祉セミナー「自治会開催」(検討事業)
	(2) 身近な相談ができる仕組みづくり	○福祉相談 ○特別・一般相談 ○法律相談 ○心の相談窓口 ○生活福祉資金貸付相談 ○栄養相談
2. 安全・安心で 住みよいまちにしよう	(1) 災害体制の啓発、整備	○ふれあい・いきいきサロンの啓発 ○災害時インターネットによる啓発
	(2) 災害時や緊急時支援体制の強化	○災害ボランティアセンターの推進 ○災害見舞金の支援 ○災害ボランティアセンター研修会 ○募金、寄付金活動の実施 ○献血運動の協力 ○福岡県、市町村社協との連携 ○災害時各事業所との連携 ○災害時要援護者台帳整備(検討事業)

みんなが心豊かになれる  
「なかま」

1. 情報の提供・相談支援体制の 仕組みをつくろう	(1) 情報提供の充実	○声の広報 ○点訳機材貸出し ○社協のしおり
	(2) 相談支援体制の整備	○福祉関係機関、団体との連携
2. サービス向上の仕組みをつくろう	(1) 福祉サービスの向上	○職員資質向上研修 ○コミュニティワークの研修 ○在宅福祉サービス(介護保険法・障害者総合支援法・児童福祉法)
	(2) 日常生活自立支援事業の充実	○日常生活自立支援事業 ○市民後見人養成及び生活支援員養成講座の開催
3. ボランティア活動を広めよう	(1) ボランティア活動の充実	○災害ボランティアセンター設置運営
4. 自助・互助、共助、公助の展開	(1) 市民・市・社協・関係団体・事業所等との協働	○市民や関係団体、事業所等との協働による計画の推進
	(2) 中間市との連携	○中間市との連携による事業の推進



## 4

## 基本目標ごとの取り組み

## (1) みんながつながる「なかま」

みんながつながる「なかま」を実現するために、中間市社会福祉協議会では地域福祉活動計画において、ふれあい・いきいきサロンや子育てサロン、各種出前講座等を通じた住民同士のふれあいの機会の充実や社会参加の促進によって、交流・ふれあいの充実を図るとともに、ホームページや社協だよりの活用、自治会への情報提供等を通じて地域社会との連携を深めていきます。また、人権教育等を進めることによって、住民同士がつながることに対する意識を高めていきます。

また、具体的には以下の事業、活動に取り組んでいます。

## ①交流・ふれあいを充実しよう

- ふれあい・支えあいの充実
- 社会参加の促進

NO	事業・活動	内容	財源		実施年度	主な協力・助成団体
			自主	委託		
1	ふれあい・いきいきサロン	地域住民同士での、見守り支えあいの地域づくり	○		継続	自治会 民生委員
2	子育てサロン	子育て中の親子さんたちの閉じこもり防止と社会参加活動	○	○	継続	ボランティア サークル
3	出前健康教室	住民の方々の健康を基本とした健康教室の活動	○		継続	自治会
4	在宅介護者のつどい	在宅で介護をされている方を対象とした交流会	○		継続	
5	賛助会員	地域福祉活動の活性化の為に役立てられます	○		継続	自治会 民生委員
6	共同募金	地域福祉活動の活性化の為に役立てられます	○		継続	自治会
7	助成事業	市内の福祉関係団体の活動に役立てられます	○		継続	福祉団体
8	愉快農園貸付事業	農園活動を通じて、住民の生きがい対策を務めています	○		継続	中間市
9	移動支援事業	外出困難な方々への自立、生活支援等を実施しています		○	継続	中間市
10	社会福祉大会	市民を対象に広く福祉への理解と、啓発に努めています	○		継続	中間市・社協役員 福祉関係団体
11	なかまの風だよりの塾	市民の方々に、社協の活動、福祉情報の広報を実施しています	○		継続	中間市 福祉関係団体
12	福祉バスの運行	中間市に居住する要介護者を対象に市内を巡回し来館者(ハピネスなかま)の利便性を図ります		○	継続	中間市
13	車いす貸出し	長期的・一時的に歩行困難な方々の社会参加の促進を目的とします	○		継続	

## 第4章 社会福祉協議会の取り組み(地域福祉活動計画)

### ②地域の連携を深めよう

- 身近な情報の活用
- 地域の連携体制の構築

NO	事業・活動	内容	財源		実施年度	主な協力・助成団体
			自主	委託		
1	自治会との情報交換	地域福祉活動、情報の伝達	○		継続	自治会
2	ホームページの活用	福祉情報等に関する掲載	○		継続	
3	社協だより	地域福祉情報誌の発行	○		継続	
4	当事者団体、サークル活動との連携	当事者団体の活動及び事業との連携	○		継続	
5	ふれあい・いきいきサロン活動要綱、手引書の作成	サロン活動の要綱、手引書の作成	○		継続	自治会 民生委員
6	ふれあい・いきいきサロン設置推進	各自治会へのサロン設置推進の強化	○		継続	自治会
7	ふれあい・いきいきサロンお世話人研修会	お世話される、サロン関係者の研修会、情報交換会	○		(新規事業)	自治会

### ③つながる意識を高めよう

- 福祉教育・人権教育の推進
- 福祉に関する広報、啓発の推進

NO	事業・活動	内容	財源		実施年度	主な協力・助成団体
			自主	委託		
1	福祉教育指定校	市内小中学校福祉教育への理解と推進			(検討事業)	市内小中学校
2	指定校連絡会	各指定校との連絡会の実施			(検討事業)	市内小中学校
3	療育支援センター「親子ひろばリンク」	障がいのある児童を対象とした放課後等の児童デイサービス		○	継続	中間市
4	障害者地域活動支援センター「パルハウスぼちぼち」	障がいのある方を対象に、創作的・生産活動の機会の提供及び社会との交流を目的とした事業		○	継続	中間市
5	東学童保育所	保護者が労働等により、昼間家庭にいない小学校低学年を対象とした事業		○	継続	中間市
6	ホームページの作成	福祉活動情報の提供	○		継続	
7	地域福祉セミナー「中間市全体」	中間市住民を対象とした地域福祉の研修会			(検討事業)	中間市

## (2) みんなが安心して暮らせる「なかま」

社会福祉協議会においては、福祉委員\*や福祉推進委員\*の設置を推進するなど、地域の見守り、ネットワークの構築を図るとともに、身近な相談窓口についての情報提供などを行い、地域福祉サービスが円滑に受けられるような体制づくりに努めます。また、災害ボランティアセンターの推進や、災害ボランティアの養成研修、活動訓練等を実施するとともに、近隣市町村社会福祉協議会との連携を強化し、災害時や緊急時の体制づくりの強化に努めます。

また、具体的には以下の事業、活動に取り組んでいます。

## ①支えあう地域をつくろう

- 地域の見守り、ネットワークの構築
- 身近な相談ができる仕組みづくり

NO	事業・活動	内容	財源		実施年度	主な協力・助成団体
			自主	委託		
1	福祉委員、福祉推進委員制度の設置推進	在宅の高齢者や障がいのある方等への日常的な見守り、安否確認を実施する制度			(検討事業)	中間市 自治会 民生委員
2	小地域支えあいマップ	各自治会の高齢者・障がいのある方等を表した地域支えあいマップ			(検討事業)	中間市民・自治会
3	ネットワーク委員会の構築	住民のニーズを取り上げ、各専門機関への橋渡しをする役目			(検討事業)	中間市 自治会・福祉関係 団体
4	小地域福祉セミナー「自治会開催」	福祉への理解と推進を目的とした自治会への研修会			(検討事業)	自治会
5	福祉相談	福祉に関する相談を社会福祉士、精神保健福祉士等の専門スタッフが実施しています		○	継続	
6	特別・一般相談	障がいのある方を対象とした相談を専門スタッフが実施しています	○		継続	
7	法律相談	弁護士が無料で法律に関する相談を実施しています		○	継続	
8	心の相談窓口	心にお悩みを抱えている方を対象に専門のカウンセラーによるカウンセリングを実施		○	継続	
9	生活福祉資金貸付相談	高齢者、障がいのある方、低所得者世帯に対して資金貸付の実施		県 ○	継続	福岡県社協 民生委員
10	栄養相談	栄養に関する相談を栄養士が受けています		○	継続	

## ※福祉委員・福祉推進委員

地域の中で高齢者、障がいのある方、子育て中の親子等で援助を必要とする本人や家族に対し、見守りや相談相手となるとともに、民生委員・児童委員との連携を図りながら、福祉のまちづくりを進めていく地域福祉の推進役。

#### 第4章 社会福祉協議会の取り組み(地域福祉活動計画)

##### ②安全・安心で住みよいまちにしよう

- 災害体制の啓発、整備
- 災害時や緊急時支援体制の強化

NO	事業・活動	内容	財源		実施年度	主な協力・助成団体
			自主	委託		
1	ふれあい・いきいきサロンの啓発	サロン参加者の方々に防犯、災害に関する情報提供の実施	○		(新規事業)	サロン代表者 自治会
2	災害時インターネットによる啓発	市民の方々に防犯、災害に関する情報提供の実施	○		(新規事業)	
3	災害ボランティアセンターの推進	災害ボランティアセンターに関する事前研修会の実施	○		(新規事業)	中間市・自治会
4	災害見舞金の支援	災害に関する見舞金の受付、支援	○		(新規事業)	自治会
5	災害ボランティアセンター研修会	ボランティア、各企業、職員との合同養成研修講座	○		(新規事業)	中間市民 各企業
6	募金、寄付金活動の実施	募金、寄付金の受付	○		継続	中間市民
7	献血運動の協力	献血運動の協力	○		継続	
8	福岡県、市町村社協との連携	福岡県、市町村社協とのボランティア派遣に関する連携	○		継続	福岡県・市町村 社協
9	災害時各事業所との連携	現在協定書の締結を実施している各企業との連携と推進	○		(新規事業)	中間市民 各企業
10	災害時要援護者台帳整備	自治会ごとの要援護者台帳の整備			(検討事業)	中間市 自治会

### (3) みんなが心豊かになれる 「なかま」

社会福祉協議会の地域福祉活動計画では、自治会座談会の実施や声の広報等を通じた情報提供機会の充実や、地域住民の地域福祉意識の醸成に努めるとともに、日常生活自立支援事業や市民後見人養成講座等の開催を通じて人権意識を高めていきます。また、ボランティアセンター活動事業を通じて、日常的な見守りなどの体制づくりを強化していきます。

また、具体的には以下の事業、活動に取り組んでいます。

#### ①情報の提供・相談支援体制の仕組みをつくろう

- 情報提供の充実
- 相談支援体制の整備

NO	事業・活動	内容	財源		実施年度	主な協力・助成団体
			自主	委託		
1	声の広報	視覚障がい者が社会生活上必要な地域の情報を取得できるように支援		○	継続	ボランティアサークル
2	点訳機材貸出し	視覚障がい者が社会生活上必要な地域の情報を取得できるように支援		○	継続	ボランティアサークル
3	社協のしおり	地域福祉活動の情報提供	○		継続	
4	福祉関係機関、団体との連携	福祉関係機関、団体との連携強化	○		継続	

#### ②サービス向上の仕組みをつくろう

- 福祉サービスの向上
- 日常生活自立支援事業の充実

NO	事業・活動	内容	財源		実施年度	主な協力・助成団体
			自主	委託		
1	職員資質向上研修	全職員を対象とした内部研修の実施 職種に応じた外部専門研修の受講	○		継続	
2	コミュニティワークの研修	社協の基本でもある地域福祉の推進を目的とした専門的研修	○		(検討事業)	
3	在宅福祉サービス	訪問介護事業所「ゆりかご」	○		継続	中間市
		障がい福祉サービス事業所「そよかぜ」	○		継続	中間市
		認知症対応型通所介護事業所「そよかぜ」 <sup>※(1) ※(2)</sup>	○		継続	中間市
		在宅高齢者自立支援事業		○	継続	中間市
		「食」の自立支援事業		○	継続	中間市
		配食サービス事業		○	継続	中間市
		高齢者在宅生活支援事業		○	継続	中間市
4	日常生活自立支援事業	判断能力が不十分なため、日常生活でお困りの方に福祉サービスの相談や金銭管理の実施		○	継続	福岡県社協
5	市民後見人養成及び生活支援員養成講座の開催	権利擁護事業における、市民後見人養成講座の実施及び市民後見人の養成		○	継続	中間市

※(1) 認知症

個人のそれまでに発達した知能が、脳の後天性障害により持続的かつ比較的短期間のうちに低下し、日常生活に支障をきたすようになること。

※(2) 通所介護

高齢者に対して日帰りで入浴、食事の提供、機能訓練、介護方法の指導その他の便宜を提供する施設。

## 第4章 社会福祉協議会の取り組み(地域福祉活動計画)

### ③ボランティア活動を広めよう

- ボランティア活動の充実

NO	事業・活動	内容	財源		実施年度	主な協力・助成団体
			自主	委託		
1	災害ボランティアセンター設置運営	市のボランティアセンターと災害ボランティアセンターとの連携推進	○		(新規事業)	中間市

### ④自助・互助、共助、公助の展開

- 市民・市・社協・関係団体・事業所等との協働
- 中間市との連携

NO	事業・活動	内容	財源		実施年度	主な協力・助成団体
			自主	委託		
1	市民や関係団体、事業所等との協働による計画の推進	「住民主体」を基本とした、行政、関係機関、事業所等との連携推進	○		継続	市民、中間市、社会福祉協議会、関係団体、事業所等
2	中間市との連携による事業の推進	中間市との連携による地域福祉活動、事業の推進	○		継続	中間市

## 第5章 計画の進行管理





## 1

## 計画の進行管理

## (1) 協働による計画の推進

地域福祉活動の主役は地域に生活している住民自身です。住み慣れた地域で支え、助け合える地域社会を実現させていくためには、行政の取り組みだけでは不十分であり、地域住民との協働が不可欠となります。また、地域には多様な福祉ニーズが潜在しており、それらのニーズに対応していくためには、地域の中で活動するボランティア、NPO、関係機関・団体、福祉サービス事業者も地域福祉の重要な担い手となります。

計画を推進していくにあたっては、地域福祉を担う主体がお互いに連携をとり、それぞれの役割を果たしながら協働していく計画を推進していくことが重要となります。

## ①住民の役割

住民一人ひとりが福祉に対する意識や認識を高め、地域社会の構成員の一員であることの自覚を持つことが大切です。

一人ひとりが自らの地域を知り、自ら考え、地域で起こっているさまざまな問題を地域の中で解決していくための方策を話し合い、地域福祉の担い手として、ボランティアなどの社会活動に自ら積極的かつ主体的に参画することに努めます。

## ②福祉サービス事業者及びNPOの役割

福祉サービスの提供者・協力者として、利用者の自立支援、サービスの質の確保、利用者保護、事業内容やサービス内容の情報提供及び周知、他のサービスとの連携に取り組むことが大切です。

今後ますます多様化する福祉ニーズに対応するため、すでに実施している事業のさらなる充実や新たなサービスの創出、住民が福祉へ参加するための支援、福祉のまちづくりへの参画に努めます。

## ③社会福祉協議会の役割

社会福祉協議会は、地域福祉計画の根拠法である社会福祉法において、地域福祉の推進を図る中核として位置づけられ、地域福祉を推進していくことを使命とし、誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくりを推進することを目的とした組織です。

そのため、行政と連携しながら本計画の推進役を担うとともに、その推進において、住民や各種団体、行政との調節役としての役割を担います。

## ④行政の役割

行政は、住民の福祉の向上をめざして福祉施策を総合的に推進する責務があります。それを果たすために、社会福祉協議会やボランティア団体などと相互に連携・協力を図るとともに、住民のニーズの把握と地域の特性に配慮した施策の推進に努めます。

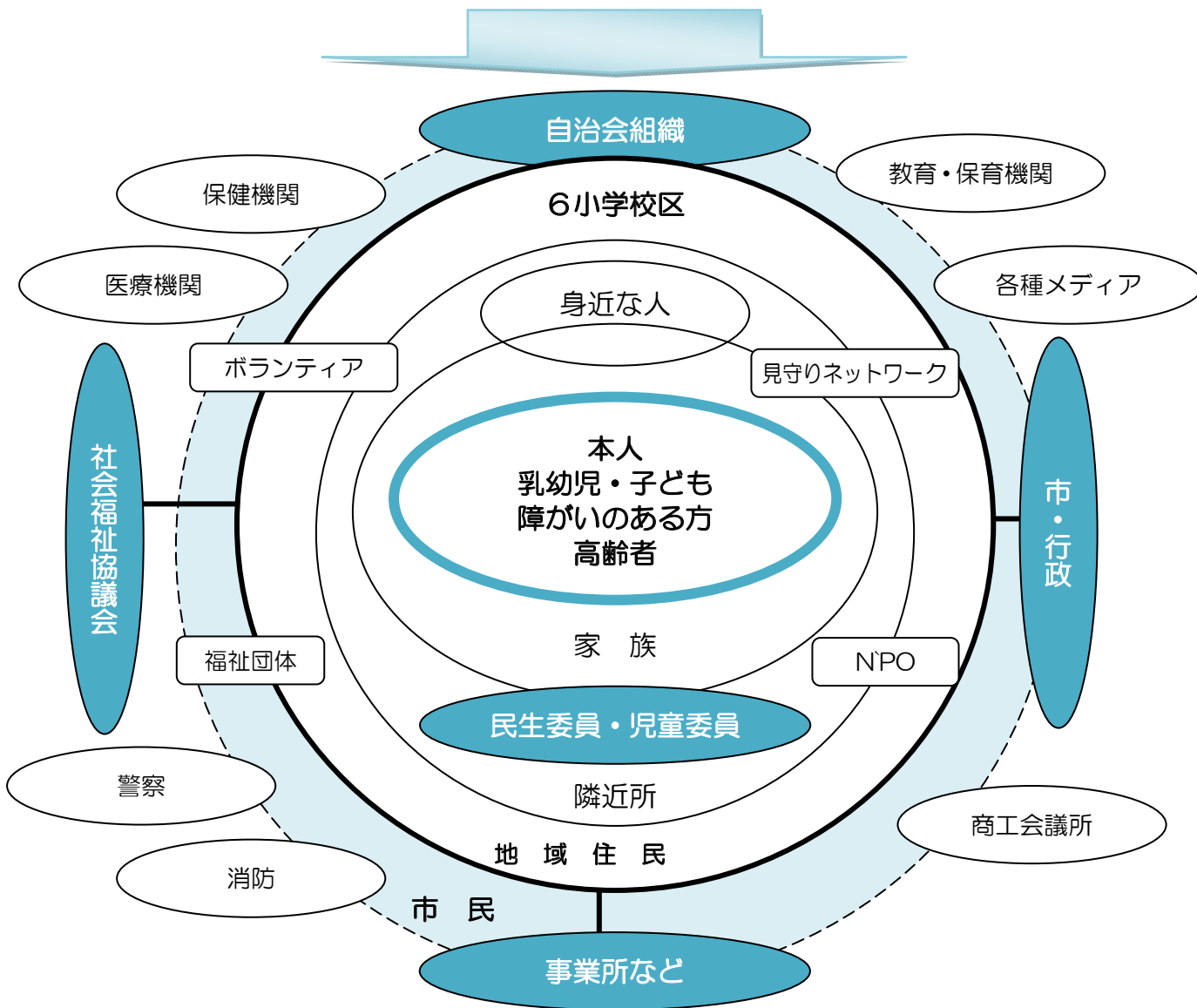
また、地域福祉の推進にあたっては、全庁的な取り組みが必要なことから、関係各課からなる組織を設置し、庁内各課の緊密な連携を図りながら、全庁が一体となって施策の推進を図ります。

⑤市と社会福祉協議会との連携

「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として、唯一法律上に規定されている団体が社会福祉協議会です。社会福祉協議会は、社会福祉を目的とする様々な事業の企画・実施・連絡調整、組織化活動、福祉活動への住民参加を勧める事業等に取り組んでおり、本市の地域福祉の中核的な担い手として、なくてはならない団体です。

このため、この計画に基づく地域福祉の推進にあたっては、市と社会福祉協議会が車の両輪のように緊密に連携を取りながら進めていきます。

## 笑顔あふれる地域（まち）づくり



## (2) 計画推進の方策

### ①計画の周知

本計画を推進するためには、地域福祉計画及び地域福祉活動計画の主体である市民一人ひとりに、本計画の内容を理解される必要があります。このため、本市や中間市社会福祉協議会の広報紙、ホームページ等を通じて、市民への周知、普及に努めます。

### ②計画推進体制の整備

- 既存の庁内協議会を中心に、関係各課の緊密な連携を図りながら、全庁が一丸となり、各種事業の効率的な推進を図ります。
- 地域の関係団体との連携のためのネットワークを確立し、各種事業の効率的な推進を図ります。
- 庁外の進行管理組織として、関係団体等や学識経験者などから構成される、「(仮称) 中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画推進委員会」を設置し、計画の進行管理に努めていきます。

### ③計画の評価

- 施策の進行状況について、関連事業等の進捗状況を計画の最終年度に確認します。
- 計画の評価は、庁内の協議会及び庁外の委員会で行います。



## 參考資料





## 1

## 中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

(敬称略・50音順)

氏名	所属又は推薦団体等	役職
池田 久紀	中間市自治会連合会	会長
和泉 浩志	中間市老人クラブ連合会	副会長
鬼崎 信好	久留米大学	文学部社会福祉学科教授
後藤 哲治	建設産業部（行政部門）	部長
柴田 千壽子	中間市母子寡婦福祉会	会長
新川 馨	一般公募	
中尾 淳子	中間市議会	議員
成光 嘉明	市民部（行政部門）	部長
西内 憲子	一般公募	
波多野 桂子	中間市婦人会	副会長
藤澤 冬美	中間市ボランティア連絡協議会「もやいの会」	会長
前殿 哲也	中間市民生委員児童委員協議会	中間校区総務
松岡 隆司	福岡県宗像・遠賀保健福祉環境事務所	社会福祉課長
安田 明美	中間市議会	議員
安田 光太郎	中間市消防本部（行政部門）	消防長
柳 英浩	遠賀中間医師会	柳整形外科医院院長
山口 隆人	中間市社会福祉協議会	会長
山崎 雅広	遠賀歯科医師会（中間地区）	山崎まさひろ歯科医院院長

2

中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 中間市地域福祉計画及び中間市地域福祉活動計画（以下これらを「計画」という。）の策定に關し必要な協議をするため、中間市地域福祉計画・中間市地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(役割)

第2条 委員会は、計画策定に必要な市民意識調査項目及び計画策定に関する諸事項について検討又は審議し、本市に対して適切な助言を行うものとする。

(組織)

第3条 委員会は、委員20人以内で組織する。

2 委員会の委員は、次に掲げる者のうちから、選出する。

- (1) 学識経験者及び有識者
- (2) 公募により選出された市民
- (3) 地域福祉団体の代表者
- (4) 保健、医療又は福祉関係団体の代表者
- (5) 社会活動団体関係者
- (6) 前各号に掲げる者のほか、市長が適当と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長をそれぞれ1人置き、委員長は、委員の互選により選出を行い、副委員長は、委員長が指名する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集する。

2 会議の議長は、委員長をもって充てる。

3 委員長が必要と認めるときは、委員以外の関係者の説明又は意見を聴くことができる。

(費用弁償)

第7条 委員が会議に出席したときは、費用弁償として日額3,500円を支給する。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、保健福祉部福祉支援課に置く。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に關し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成23年12月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

## 3

## 策定経過

日時	内容
平成 24 年 4 月 20 日 (金)	第 1 回中間市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会 1. 地域福祉計画・地域福祉活動計画について 2. 中間市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会開催スケジュール(案)について
平成 24 年 4 月 26 日 (木)	第 1 回庁内協議会
平成 24 年 4 月 27 日 (金)	ワークショップ全体会
平成 24 年 5 月 28 日 (月)	出前講座(中間東小学校区)
平成 24 年 5 月 29 日 (火)	出前講座(中間北小学校区)
平成 24 年 5 月 30 日 (水)	出前講座(中間小学校区)
平成 24 年 5 月 31 日 (木)	出前講座(底井野小学校区)
平成 24 年 6 月 4 日 (月)	出前講座(中間南小学校区)
平成 24 年 6 月 5 日 (火)	出前講座(中間西小学校区)
平成 24 年 7 月 18 日 (水) 平成 24 年 8 月 17 日 (金)	住民ワークショップ(底井野小学校区)
平成 24 年 7 月 19 日 (木) 平成 24 年 8 月 21 日 (火)	住民ワークショップ(中間南小学校区)
平成 24 年 7 月 21 日 (土) 平成 24 年 8 月 25 日 (土)	住民ワークショップ(中間東小学校区)
平成 24 年 7 月 23 日 (月) 平成 24 年 8 月 22 日 (水)	住民ワークショップ(中間西小学校区)
平成 24 年 7 月 24 日 (火) 平成 24 年 8 月 28 日 (火)	住民ワークショップ(中間北小学校区)
平成 24 年 7 月 28 日 (土) 平成 24 年 8 月 26 日 (日)	住民ワークショップ(中間小学校区)
平成 24 年 10 月 25 日 (木)	第 2 回中間市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会 1. 第 1 回会議録の承認について 2. 市民意識調査の分析結果について 3. ワークショップ等の結果について 4. 計画骨子(案)について

日時	内容
平成 24 年 11 月 28 日（水）	第 2 回庁内協議会
平成 24 年 11 月 30 日（金）	第 3 回中間市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会 1. 第 2 回会議録の承認について 2. 地域福祉計画・地域福祉活動計画策定における市民等の意見集約の まとめについて 3. 計画素案（第 1 章、第 2 章）について
平成 24 年 12 月 27 日（木）	第 4 回中間市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会 1. 第 3 回会議録の承認について 2. 計画素案（第 1 章、第 2 章）について 3. 中間市地域福祉計画施策の体系について 4. 中間市地域福祉活動計画施策の体系について
平成 25 年 2 月 20 日（水）	第 3 回庁内協議会
平成 25 年 2 月 22 日（金）	第 5 回中間市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会 1. 第 4 回会議録の承認について 2. 計画素案（第 1 章～第 3 章）について 3. 計画素案（第 4 章）について 4. 計画素案（第 5 章、参考資料）について 5. パブリックコメントの実施について
平成 25 年 3 月 28 日（木）	第 6 回中間市地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会 1. 第 5 回会議録の承認について 2. パブリックコメントの結果について 3. 中間市地域福祉計画・地域福祉活動計画案について

## 4

## 関係団体の状況について

## 1 中間市民生委員児童委員協議会

平成24年10月1日現在、民生委員児童委員66名、主任児童委員6名、合計72名で組織しています。

民生委員は、厚生労働大臣から委嘱され、それぞれの地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努める方々であり、「児童委員」を兼ねています。児童委員は、地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談・支援等を行います。また、一部の児童委員は児童に関することを専門的に担当する「主任児童委員」の指名を受けています。

民生委員児童委員協議会の重点活動

- ◇ 高齢者ひとり暮らし見守り事業の推進
- ◇ 相談援助の推進と心配ごと相談事業との連携
- ◇ 児童虐待防止に向けての取り組み など

## 2 中間市自治会連合会

平成24年10月1日現在、市内61自治会の自治会長により組織しています。

自治会とは、同じ地域に住む人々が、地域の発展や生活向上、親睦のために組織した団体です。

地域の課題を、個人や家庭だけでなく、地域に暮らすみんなで話し合い、解決していくことも、自治会の役割です。

安全・安心で住みよいまちにするために、積極的な地域活動を行っています。

自治会の活動

- ◇ 高齢者ひとり暮らし見守り事業の推進
- ◇ 社会福祉活動
- ◇ 環境美化・清掃活動
- ◇ 防犯・防災・交通安全活動
- ◇ 生涯学習・社会教育活動
- ◇ 文化・レクリエーション活動
- ◇ 青少年の健全育成活動
- ◇ 行政との連携・協力活動

### 3 中間市ボランティアセンター登録団体

中間市のボランティアセンターへの登録数は、ボランティア団体が44団体、NPO法人からの登録が6団体、個人登録が85名となっています。（平成24年4月30日現在）

#### <団体登録>

NO	団体	人数	主な活動内容
1	健声会	20	上演・演奏活動（民謡）
2	伝統芸道場なかま	14	上演・演奏活動（バナナの叩売り、南京玉すだれ）
3	ロゴス腹話術北九州支部	11	上演・演奏活動（腹話術）
4	マジッククラブ なかま	7	上演・演奏活動（手品）
5	ハーモニカ同好会	10	上演・演奏活動（ハーモニカ）
6	日本民踊舞踊さきの会	20	上演・演奏活動（民踊、舞踊）
7	piacevole	6	上演・演奏活動（ピアノ・エレクトーン）
8	クラウドナイン オブ ミュージック	3	上演・演奏活動（サクソ）
9	ハーモニック・パルとオカリナ青い鳥	6	上演・演奏活動（男声4部合唱、器楽演奏）
10	サンクス	4	上演・演奏活動（器楽演奏）
11	中遠ろうあ協会	25	手話
12	中間手話の会	24	手話
13	中間点字の会	13	点訳
14	なかま音訳の会	10	音声訳
15	SQUARE+1	14	サッカー
16	中間わくわくクラブ	9	知的障がい者のプロスポーツ観戦支援
17	中間市老人クラブ連合会 ふれあいの会	121	声かけ、話し相手
18	すみれの会	18	折り紙製作、施設訪問
19	中間市視覚障害者の会 「つばさの会」	50	福祉に関する啓発活動
20	たんぼぼの会（A）	13	交流活動（絵手紙製作）
21	たんぼぼの会（B）	24	交流活動（絵手紙製作）
22	大人の朝読（なかま新聞塾）	21	活字離れをなくす活動
23	音楽と朗読 ありえった	3	音楽と朗読
24	傾聴ボランティア ハミング	12	傾聴
25	でんしょばと	10	絵本の読み聞かせ、パネルシアター
26	中間西小 読み聞かせ「おはなし玉手箱」	10	絵本の読み聞かせ
27	絵日記～太陽の子	12	文章、絵日記指導
28	読み聞かせGr.YUME	5	絵本の読み聞かせ、ブラックパネルシアター、 エコアート作り
29	ほくほく夢ネット「つぼみ」	17	絵本の読み聞かせ
30	中間市子育て支援 キューピー	20	託児、子育てサポート、子育てサロン開設
31	ほくほく子育てサポート隊	30	子育てサポート
32	中間小学校読書ボランティア どんぶらこ	21	絵本の読み聞かせ、人形劇
33	南カナリーズ	7	絵本の読み聞かせ
34	おもちゃの病院	4	おもちゃの修理
35	おもちゃライブラリー「ポップ」	9	おもちゃ図書館

NO	団体	人数	主な活動内容
36	ほっとブックなかま	(※) 7	おはなし会
37	食生活改善推進会「緑の会」	56	食生活・栄養改善支援
38	看護師支援の会	6	看護師の再就職支援
39	千寿中間「つくし」	11	健康づくり
40	中間市EM普及会	29	EMを利用した環境保全
41	なかまの環境を良くする会	27	環境保全
42	遠賀川ボランティア 清掃の会	3	河川のクリーン活動
43	中間ほたる・メダカの会	23	ほたる・メダカを通じての環境保全
44	中間市を花いっぱいにする会	20	環境美化

※NO.36の人数は団体数

## &lt;NPO法人&gt;

NO	団体	人数	主な活動内容
1	こっとな倶楽部	6	男女共同参画に関する活動、結婚支援活動
2	みんなの家会 宅老所 ほのぼの	32	介護支援
3	さくら	9	介護支援
4	真浄メモリーサポート	9	生前契約
5	にじの会	32	障がい者の自立支援
6	ひかりのさと	11	デイサービス、学童保育

5

ワークショップの結果

(1) 底井野小学校区

①垣生自治会

[良いところ]

- 自治会の集まりがよい、自治会の活動が活発
- 自然が豊か、田んぼが多い。
- さくら館ができた、駅やお店が近い。

[悪いところ]

- 自治会の加入率が低い。
- 子どもが少ない。
- 交通の便が悪い。

[どのような自治会であれば良いか]

- 若者が自治会活動に参加を。
- 自治会に加入・参加してほしい。

[どのような中間市であれば良いか]

- 祭りが盛んなまち
- 若者の集うイベントが増えればいい。
- 活気がほしい。
- 明るい市

自然と歴史と人間味があふれる町 垣生

[誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために]

- 高齢者が元気であることがわかる印を玄関に掲げる。(自助・互助)
- 隣近所にお声かけ、付き合いが必要(自助・互助)
- 一人暮らしで、緊急連絡するところがある近所づきあい(共助)
- 隣近所の人で、老人の介助ができる。(共助)
- コミュニティバスなど必要な交通手段の確保(公助)
- 小・中学校で発行している不審者情報を自治会に流してほしい。(公助)

[中間市で災害・水害が発生した時]

- 近所同士の声かけの練習(自助・互助)
- 避難訓練をする。(自助・互助)
- 自主防災組織の編成(共助)
- 避難防災組織の設立及び訓練(共助)
- 災害時の危険箇所の把握(公助)
- 食料、衣類、毛布等の備蓄(公助)



②砂山自治会

**【良いところ】**

- 高齢者を大事にする。
- 地域としてまとまっている。
- 顔みしりが多い。
- 静かな町、自然が多い。

**【悪いところ】**

- 自治会における高齢者の発言力が大きい。
- 出ることが多く、高齢者に負担
- 子どもが少ない。
- 交通の便が悪い。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 夜道を安心して歩ける。
- 泥棒の心配がない。
- 自然が豊か、空気がきれい。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 話しやすい人が多い。
- 暴力団のいないまち
- 活気のあるまち

自然と愛に満ちた人情あふれる活力あるまち

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- 友だちをたくさんつくる。(自助・互助)
- 友だちとよく話をする。(自助・互助)
- コミュニティ交通網の充実(共助)
- 川西地区にスーパーを。(共助)
- クラブハウス(公民館)で自由に過ごせる環境とお世話していただけるボランティアの人がほしい。(共助)
- 交番・派出所の誘致(公助)
- 市立病院の充実(公助)
- 道路整備(公助)
- 子ども手当の充実(公助)
- 雇用の創出(公助)

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 近所同士で声をかけあい、たすけあう。(自助・互助)
- 隣近所の声かけ(自助・互助)
- 高齢者の安否確認(自助・互助)
- 自営消防団の活動(共助)
- 災害ボランティア復旧支援(共助)
- 正確な情報の伝達(公助)
- コミュニティ無線の精度を上げる。(公助)
- 市の広報車で危険水位を早めに知らせる。(公助)
- 高台の避難場所の確保(公助)

③中底井野自治会

【良いところ】

- 自治会加入者が100%の、自治会長を中心とした色々な行事が開催されています。
- 自治会入会者が多い。
- 地区の連絡が早い。

【悪いところ】

- 田舎で買い物不便
- 交通が不便
- 自治会員が固定化しているため、新しいアイデアが出にくい。

【どのような自治会であれば良いか】

- 浮洲池の周りに桜を植えてほしい。
- 垣生公園の桜をもっと増やしてほしい。
- PRできるようなイベント

【どのような中間市であれば良いか】

- 役所は市民（自治会）の意見を取り上げること
- 市民が中間市に住んで良かったと胸を張って言える中間市であってほしい。

緑の風が吹く郷里<sup>さと</sup>

【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】

- 隣近所の声かけを活発にする。（自助・互助）
- 自分の体が動く間は自分で物事を解決する。（自助・互助）
- 困った人がおられると手を差し伸べる。（自助・互助）
- 見守り隊活動の継続（共助）
- 廃品回収の回数増（共助）
- 警察署の設置（公助）
- 暴力団事務所の撤去（公助）
- 企業誘致（公助）
- 商業施設誘致（公助）
- バスの運行（公助）

【中間市で災害・水害が発生した時】

- 隣近所に声をかけて一緒に避難する。（自助・互助）
- 独自の連絡網の整備（自助・互助）
- 2～3日分の水を各戸で備蓄しておく。（自助・互助）
- 避難訓練を行う。（共助）
- 自治会での連絡体制の整備（共助）
- 自治会の連絡確認（共助）
- 自治会内、組単位の高齢者等の連絡体制（共助）
- 防災無線の設置場所を自治会と話し合って設置する。（公助）
- 自治会ごとの住民台帳を自治会長にはオープンにする。（公助）
- 市から自治会長へ正確な情報を早く。（公助）

④上底井野自治会

**【良いところ】**

- いろいろな行事を通して親睦が図られている。
- 人柄がよい。
- 比較的のどかで住みやすい。

**【悪いところ】**

- スーパーが少ない。お店が少ない。
- 老人が住みにくい。
- 自治会に関心がない。
- 自治会の役員になりたがらない。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 三世代の交流を図る行事を計画し、思いやりのある町内
- 独居高齢者への思いやりのある自治会

**【どのような中間市であれば良いか】**

- コミュニティバスがあったら良い。
- 市立図書館の蔵書を充実してほしい。
- 老人の生活がもっと楽になるといい。

一致団結底力！！

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- 挨拶を自分からしていく。(自助・互助)
- パトロールする。(自助・互助)
- 地区の行事に参加していく。(自助・互助)
- 見守り隊を増やす。(共助)
- 見守り時間の変更(共助)
- 通学安全協力員の増員(共助)
- さくら館の配達サービス(ボランティア含む)。(共助)
- 街灯の予算を増やす。(公助)
- 駐在所をつくる。(公助)
- 学童保育の期間延長(小学6年まで)。(公助)

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 声かけ(自助・互助)
- 積極的に救援にあたる。(自助・互助)
- 防災訓練(自助・互助)
- 土嚢袋の用意(自助・互助)
- 救護組織(共助)
- 救出活動のマニュアル情報(共助)
- 消防団の充実(共助)
- 自治会で交通整理班をつくる。(共助)
- 防災マップの充実(公助)
- 防災スピーカーの設置(公助)
- 避難経路の充実(公助)

⑤下大隈自治会

**【良いところ】**

- 困った時に近所にすぐに走っていける。
- 静かである。
- 緑が多い。
- 空気がきれい。

**【悪いところ】**

- 買い物が不便
- 銀行がない。
- 各組でまとまりの良い組と悪い組がある。
- 筑豊本線のガード下が危険

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 全所帯が組に入ってもらいたい。
- 公民館活動をもう少し簡素化してほしい。
- 川西に文化施設がほしい。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 垣生公園をもう少し整備しイベントを多く開き、人（若者）の集まる場所づくり
- 市立病院の待ち時間が長いので、改善を。

笑顔とあいさつの下大隈

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- 声かけをしても返ってこないときは、笑顔で会釈するだけでも良いと思う。（自助・互助）
- 近所のお年寄りを自分なりに見守る。（自助・互助）
- 通勤通学等、グループで挨拶運動を推進（共助）
- 見守りは組単位で行う。（または、2組合同）。（共助）
- 組織で見守るための情報公開（公助）
- 駐在所をつくる。（公助）
- 警察・役所の連携（公助）

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 身体の不自由な方をすばやく助ける。（自助・互助）
- 避難場所への道順を事前に自治会の方で決めておく。（共助）
- 女性消防隊の確立。（自治会単位で）自衛消防（共助）
- ニーズにあったボランティアの情報提示（共助）
- 災害時にラジオを各戸に配る。（公助）
- 防災設備があったとしても雨音で聞こえないときの対策（公助）
- 高所（マンション住居）の火災時の応援体制がどうなっているのかの周知（公助）

## (2) 中間東小学校区

### ①土手ノ内自治会

#### [良いところ]

- 年間行事（お盆、文化祭）は、例年継続している。
- 町内行事に参加する人達が多い。
- よくあいさつを交わすところ

#### [悪いところ]

- 高齢者のため、組長ができない。
- 次世代の役員候補が少ない。
- 行事参加が少ない。

#### [どのような自治会であれば良いか]

- 公民館利用の子育て支援ができれば良い。
- 町内に癒しの場がほしい。

#### [どのような中間市であれば良いか]

- コミュニティバスのようなものがあればよい。
- 交通の便が良い。
- 防犯灯が少ない。増設してほしい。
- 仕事があって若い人が帰ってきやすい市

## あいさつする町 土手ノ内

#### [誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために]

- 報道などを常にチェックして、速やかに行動（自助・互助）
- 犬のフンが多い。（自助・互助）
- 流してはいけないものは流さない。（自助・互助）
- パトロールを増やす。（共助）
- 地域でボランティアなどが協力するための指導者と施設（共助）
- 公民館でマナー講習会を開催する。（共助）
- 一時間一本、コミュニティバス開設（公助）
- 公園の草刈り等の整備、除草（公助）

#### [中間市で災害・水害が発生した時]

- 非常時は隣へは必ず知らせる。（自助・互助）
- 家族でも連絡の仕方、方法を話し合っておく。（自助・互助）
- 各自治会で定期的に訓練（共助）
- 自治会で組ごとに避難する。人員等は自治会が把握する。（共助）
- 自治会で避難ルート、マニュアル作成（共助）
- 防災無線の設置（公助）
- 自治会に指導に行ってもらおう。（公助）
- 避難マップの作成と配布（公助）

②新手自治会

**【良いところ】**

- 自治会のまとまりが良い。
- 比較的高台にあり、災害（水害）がない。
- 交通の便は比較的良好い。
- 市役所に近いために、利便性が良い。

**【悪いところ】**

- 組内の加入者が毎年減少している。（高齢化）。
- 高齢者を含む老人クラブの活動（健康を保つ）が全くされていない。
- 坂が多く、高齢化で困る。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 高齢者と子どもの交流が必要である。
- 隣同志が互いに心配し合う町であったら。
- 小さな子どもが安全に遊べる大きな公園

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 市内循環バスがほしい。
- 企業誘致（若者の職場）

愛の声かけ 新手

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- 自治会活動に進んで参加する。（自助・互助）
- 見守り隊の充実（昼・夜）。（自助・互助）
- 笑顔であいさつできる隣近所付き合い。相談員をつくる。（自助・互助）
- 買物難民の手助けタクシーの充実（共助）
- 公園内の樹木管理（素人では無理）（共助）
- 公共の行事に無関心の人が多い。関心を持たせる。（共助）
- 中間市に警察署を置き、防犯の充実を図る。（公助）
- 夜間の防犯灯の設置（公助）

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 市役所間の連絡網の決定と確認（自助・互助）
- 災害時の避難場所を全世帯に明示するとともに、家族全員がわかるようにする。（自助・互助）
- 最小限は各人で準備しておく。（自助・互助）
- 地域の連絡網の確立（共助）
- 高齢者の避難方法を考える（共助）
- 災害マニュアルを市が作成し、各地区で考える。（公助）
- 災害情報の伝達方法の充実を図る。自治会放送設備（公助）
- 避難場所の日頃からの設置看板等（公助）



③本町自治会

**【良いところ】**

- 見守り隊等のボランティアの参加、協力がある。
- 地域が道路など、きれいにしている。
- 昔からの人が多く安心。挨拶がよくできる。

**【悪いところ】**

- 自治会に入っていない方が多い。
- 町内でのいろんな行事に出席する人と欠席する人が決まっている。
- 子どもが少ない。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 自治会に参加される方が増加してほしい。
- お年寄りにやさしく、みんなが助けあっていく自治会になったらいい。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 子ども達が安心して遊べる場所。公園など広いところがあるとよい。
- 市立病院を充実してほしい。

みんなにやさしいまち 本町

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- 会う人に積極的に声かけする。(自助・互助)
- まず各隣組で連絡網を作る。(自助・互助)
- 一人暮らしが増えている。隣同士のつながりを良くする。そのためにも自治会をやめてはいけないと思う。(自助・互助)
- 民生委員の数を増やす。(共助)
- 老若男女みんなが集える催しなどしたら良いと思います。(共助)
- 一人暮らしの確認(公助)
- 隣組に入られていない方の把握をきちんとする。年齢など・・・(公助)

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 地域の連絡網の作成(自助・互助)
- 緊急の場合の病院の電話番号等、各家庭で分かるように、見えやすいところに貼っておく。(自助・互助)
- 避難場所を把握しておく。(自助・互助)
- 避難訓練の実施。年に1~2回くらい(共助)
- 危険な場所を把握しておく。(共助)
- 決まった時期に毎年訓練を行う。(公助)
- 市からの広報車。はっきり聞き取れるようにしてほしい。(公助)
- わかりやすい避難マップを。(公助)

④上蓮花寺自治会

**[良いところ]**

- 地に着いた人が多いので、仲が良い。情報の巡りが早い。
- 公共施設が近くて良い。
- 生活の利便性が良い(スーパー、金融機関等)。

**[悪いところ]**

- 少子高齢化に伴って、公民館活動がない。
- 閉鎖的な面がある。
- スーパーやコンビニができ、知らぬ人の行き来が増え不安

**[どのような自治会であれば良いか]**

- 地域活動の参加者が多い。
- 自治会内の組別の交流がないので、話し合いのできる場があったらよい。

**[どのような中間市であれば良いか]**

- 他地区に比べてイベントが少ない。
- 市立病院に腕の良い医者をひっぱり来てほしい。

心配りとマナーの町 上蓮花寺

**[誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために]**

- 近所の人との声かけを出来るだけ行う。(自助・互助)
- 何かあれば(災害)集まれる場所の確認(自助・互助)
- 年金生活だけの人のパトロールの実施(共助)
- 子ども会(中子連)だけ内の情報が多い。子ども会に入っていない子へも連絡を(小学校を通して)。(共助)
- 防犯カメラの設置(公助)
- パトカーのパトロール強化(公助)
- 環境美化の行政指導(公助)

**[中間市で災害・水害が発生した時]**

- 近所へ声をかける。(自助・互助)
- 家族で何かあった時に集まる場所を確認する。(自助・互助)
- 各戸で防災グッズを備えておく。(自助・互助)
- 手作りのハザードマップづくり。地域の人で、話し合いながら作ったもの(共助)
- 集合場所を明確に。(共助)
- ハザードマップを小さく区分する。(詳しく)。(公助)
- 災害発生時に使える連絡ツールがほしい(市との連絡用)。(公助)
- 3日間くらいの食事を準備しておく。(公助)



⑤扇ヶ浦一区自治会

**【良いところ】**

- 会員がよく参加してくれる。
- 自治会活動の行事に参加する人が多い。
- ボランティアの活動に理解がある。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 全員参加の自治会であればいい。
- 自治会に子どもの参加
- 公民館の位置が扇ヶ浦一区の中心近くになると良くなる

**【悪いところ】**

- 高齢化が進み、組長になるのをいやがる人が増えてきた。
- 敬老会での出席者が少ない。
- 公民館が狭い。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 市立病院の充実
- 安全な町にしたい。
- 大きな工場を誘致してほしい。

慈愛と絆を大切にする扇ヶ浦

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- お互い、進んで声かけをするようにする。(自助・互助)
- 高齢者宅については、特に隣同士の情報交換をする。(自助・互助)
- 年2回程度、70歳以上の方全員対象に話し合いの場を設けて、コミュニケーションを図る。(共助)
- 子ども、大人、高齢者が参加し、喜びと楽しい催しが必要である。(共助)
- 自治会に全員が入れるよう、市として取り組みをとってほしい。(公助)
- 高齢者に対する移動販売の実施(公助)

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 日頃近所同士で対策必要性を話合うことも大事(自助・互助)
- 動けない人、車イスの人など急いで知らせる。(自助・互助)
- 自治会として、毎年避難方法等、各組長さんに周知させる。(共助)
- 災害時、本人宅からの避難場所までの大きな目標と道順を赤印で見やすく。(共助)
- 市の対策本部で作っている防災マニュアルの開示(公助)
- 市職員による出前講座で地域住民に説明実施(公助)
- 火災とは違うサイレンの鳴らし方をする。(公助)

⑥松ヶ岡一区自治会

**【良いところ】**

- 盆踊りが盛大である。
- 水害がない。心配していない。
- 交通の便が良い。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 地域内を全員で見守る体制が欠けている。
- 更正保護の立場から、青少年の犯罪予防に力を入れ、細かいところに眼を向ける。

**【悪いところ】**

- 自治会の加入率が低い。50%を切っている。
- 子ども会の人数が少なく、行事ができない。
- 年齢層に開きがある(若い世代と高齢者世代)。
- 松ヶ岡の中まで循環バスが入ってこない。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 高齢者、障がいのある方が福祉サービスをもっと受けられるように。
- 災害時の避難場所をもっと細分化してほしい。

明るいあいさつ 声かけで みんなで支え合える 元気な 松ヶ岡一区

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- せめて自分の家の隣の人の生活(家族数など)だけでも知っておく。(自助・互助)
- 自分の自治会を知る、周知する。(自助・互助)
- 高齢者の見守りネットワークの利用(共助)
- 宅配弁当などを気軽に利用するよう、サービスの情報提供、啓発を行う。(共助)
- ガス、電気の使用量で安否を確認するなどのシステム(公助)
- コミュニティバスの充実(公助)

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 災害に対する危機意識を持つ。(自助・互助)
- 集合場所などの確認をしておく。(自助・互助)
- 非常食などの備蓄をする。(自助・互助)
- 誰が見てもわかりやすいマップの作成(公助)
- 救助隊(若い人)の育成(公助)
- 要支援者の情報開示(公助)
- 緊急時はサインを決め、サイレンで鳴らす。(公助)
- 訓練方法を市で検討する(時間帯、家族構成に依じて)。(公助)

⑦松ヶ岡二区自治会

**【良いところ】**

- 皆が協力的である。
- 朝夕の挨拶が良い。
- 交通の便が良い。

**【悪いところ】**

- 自治会を脱会する方がいる。
- 路上駐車が多い。
- 坂が多い。
- 公園の遊具が少ない。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 脱会者のない自治会であってほしいです。
- みんな仲良く和気あいあいであれば良い。又、そうならばよい。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- みんな仲良く、和気あいあいであればよい。

美化運動で いつもきれいな 松ヶ岡二区

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- 自治会に参加すること自体少ないので、もっといろいろな面で参加する。(自助・互助)
- 高齢者自身が心を開くことが大事(自助・互助)
- 役員の協力、団結(共助)
- 子どもなどが危険なこと、してはいけないことをした場合は注意をしてあげる。(共助)
- 自治会加入。行政の方から加入を進めていただく。(公助)
- 1時間に1回くらい、病院に行くためのバスがあれば良い。(公助)

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 家族で避難場所等を確認(自助・互助)
- 家庭で多少の防災グッズ(水、食料)を用意しておくこと(自助・互助)
- 防災避難訓練を実施計画し、実行してもらいたい。(共助)
- 危険を知らせる一斉放送の設備をしてもらいたい。(公助)
- きっと地震が起きたらパニックになると思うが、避難場所がもっと近くにあるといい。(公助)
- 食べ物、お風呂、トイレの準備をしてほしい。(公助)

⑧中尾自治会

**【良いところ】**

- 協力的（助け合いがある）
- 交通の便がよい。
- 坂が少ない。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 女性参加の自治会になれば。
- 高齢者の交流が盛んな自治会であれば。
- 現職及び OB の市職員、教師、公務員の参加の自治会

**【悪いところ】**

- 高齢者が多く、いろいろなことに参加者がいない。
- 古くからの住民と新しく入った人との交流が少ない。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 歴史のある中間市の PR が不足しているのを掘り起こしてほしい。
- 中間市へ転入したいと思われるような市にしたい。

笑顔と対話の中尾

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- 声かけをする。（自助・互助）
- 近所の状況把握（自助・互助）
- ネットワーク化（サロンを含む）。（共助）
- 自治会への加入者を増やす。（共助）
- 一人暮らしの内容について情報提供（公助）

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 防災、救護隊の活動者（中心に指示を出す人）を地区ごとに選ぶ。（自助・互助）
- 各自で平常時に準備しておく。ポイント集を参考に。（自助・互助）
- 近所の協力。（共助）
- 避難場所を周知させる。中尾は東小学校（共助）
- 立案等は住民説明を事前に行うこと（公助）
- 町内全域に放送網を作り、情報を伝える。（公助）
- 緊急避難場所の PR 不足がある。（公助）

### (3) 中間西小学校区

#### ①大辻町・七重自治会

##### 【良いところ】

- 町内一斉清掃をしていたら、大辻は色々な取り組みがあっていいねと言われた。
- 役員さんたちが腰が軽くよく動いてくれる。
- 昔から住んでいる方がとても親切

##### 【どのような自治会であれば良いか】

- 未就学児から高校生まで集える自治会
- 仲の良い近所づくり
- 何かあったら（例えば災害とか）協力し合えるまちづくり

##### 【悪いところ】

- 交通機関が不便
- 自治会の集まりがよくない。
- 子どもが少ない。

##### 【どのような中間市であれば良いか】

- 市内、市外から人が集まる商業施設
- 災害などの時、協力し合えるまち
- 石炭の街であったことを大切にできるまち
- 一人ひとりの人権が大切にされるまち

## ささえ愛の町 大辻・七重

##### 【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】

- 朝夕のあいさつ（自助・互助）
- 自治会に入って各種の行事に参加させる。（自助・互助）
- 町内清掃とかみんなで力を合わせてする行事をつくる。（自助・互助）
- 行政と市民と一緒に見守りを行うこと（共助）
- 自治会に入るように指導してほしい。（公助）
- 見守り隊の制度を見直してもらいたい。（公助）
- 中間駅行きのコミュニティバスを運行してほしい。（公助）
- 警察署に巡回をお願いする課、時間がとれれば見守り隊等お願いする。（公助）

##### 【中間市で災害・水害が発生した時】

- 向こう三軒両隣、近所の人と仲よし（自助・互助）
- 伝言ダイヤルの使用を家族で確認しておく。メールを使う。（自助・互助）
- 校区組単位（4～5軒）で集合する。100m以内。（共助）
- 公民館まで自力で避難できない人の対策（共助）
- 公民館単位でボランティアの方に支援物資をもってきてもらう。（共助）
- 出前事業。防災教室を開いて、みんなが参加できるようにする。（公助）
- 標示の看板をたてる。（公助）

②深坂自治会

**【良いところ】**

- 自治会を理解し、協力してもらっている。会費を納めない人が少なくなった。
- 2～3年前から老人と若い人の交流が出来てきた。

**【悪いところ】**

- 交通が不便（バスが少ない）
- 役員も高齢化し、活動が大変
- 子ども達が野球ができる大きな公園がない。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 全家庭が自治会に参加する。
- 公民館行事にみんなが積極的に参加してほしい。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 駐車場の整備を。

あいさつのできる深坂

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- 何でも話し合える町内にする。（自助・互助）
- 交通協力委員によって子ども達を守る。（自助・互助）
- ゴミ出しなどルールを守って出す。（自助・互助）
- 安全パトロールの実施（共助）
- 自治会の交流（共助）
- 夜の明かりを増やしてほしい。（公助）
- 警察のパトロール（公助）
- 広い遊び場の設置。野球ができるくらい。（公助）

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 難聴高齢者への連絡方法（自助・互助）
- 自分で避難場所を決めておく。（自助・互助）
- 校区で訓練をしている。（共助）
- 公民館まで自力で避難できない人の対策（共助）
- 町内全域で聞こえるスピーカーの設置（共助）
- 一人暮らしの高齢者の家に、緊急を知らせるランプをつける。（公助）
- 家の中まできちんと聞こえるサイレン（公助）
- 第一避難所が狭い。（公助）



③池田町自治会

**【良いところ】**

- 各部による年間行事が多い。
- 役員になった時は協力的だ。
- 明るい挨拶
- 交通も便利

**【悪いところ】**

- 生活マナーが悪い。
- ボランティアの参加者（協力者）が少ない。
- 中学生が学校の階段でたまっている。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 自治会役員の選出がスムーズにいったら良い。
- 全員が協力しあえるように（特に若い方が高齢の方に協力できるように）。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 遊具を1つの公園に集中してほしい。
- 買い物（近くにスーパー等があればいい。高齢者は困っている）
- 交通の便が少ない。最低でも1時間2回くらい。

人と仲良く生きる 安全・安心なまち 池田

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- 会った時は挨拶をする。（自助・互助）
- 組単位の清掃当番時、積極的に参加（自助・互助）
- 公共の乗り物で来られる人は公共の乗り物を使う。（自助・互助）
- 高齢者の安否確認ができる。相手のキーをお互いに預け合う。（共助）
- 公民館を自由に利用できるようにする。（共助）
- 定期的にパトロール。サイレンを鳴らして通るだけで効果抜群（公助）
- 少子化防止。行政が婚活企画（公助）
- 総合病院の充実（公助）

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 住民把握。災害の時に救出体制をつくる。動けない人を誰が面倒みるのか（各班でつくる）。中高生にお願いする。（自助・互助）
- 救急体制。看護師、医者等が何人いるか確認できれば良い。（自助・互助）
- 自治会ごとにボランティアを募集する。（共助）
- 連絡ルートは組織化する。（共助）
- 組単位で避難訓練を実施（共助）
- 一人住まいの高齢者（約100世帯）の情報がほしい。（公助）
- 防災無線を増やす（見直す）。（公助）

④弥生町自治会

**[良いところ]**

- 静かな町で住みやすい。
- 挨拶がよくできている。
- 小学校が近くて良い。

**[悪いところ]**

- 交通の便が悪い。
- バスの便が少なくなっている。
- 道路で犬のフンが処理されていない。

**[どのような自治会であれば良いか]**

- 町内に居住するすべての人が、自治会に入ってもらいたい。
- 自治会の交流の場が少なくなっているのので、もっと交流の場が増えればよいと思う。

**[どのような中間市であれば良いか]**

- 市内巡回のコミュニティバスが通行される。
- 福祉の充実
- 明るいまちづくり

元気な風をふかせるまち 弥生

**[誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために]**

- 挨拶が第一（自助・互助）
- 自分の住んでいる自治会長さんや民生委員さんの顔を覚える。（自助・互助）
- 自主組織を充実させる。（自助・互助）
- 回覧板をまわす時に声かけをする。（共助）
- 自治会への参加で人間関係を作る。（共助）
- 町内行事に参加する。（共助）
- 市の職員と市民の間をどう近づけるか。（公助）

**[中間市で災害・水害が発生した時]**

- 自身の防災時の準備（自助・互助）
- 要援護者の掌握（自助・互助）
- 各家庭に非常食や水を確保（自助・互助）
- 消防署による人工呼吸の講習会開催（自治会）（共助）
- 小学校の校内放送などを利用する。（共助）
- 町内の専門職の経験者を事前に調査（共助）
- 要援護者の情報開示をする。（公助）
- 放送設備をつくる。（公助）



⑤小田ヶ浦自治会

**【良いところ】**

- 月1回の清掃作業
- 子どもの人数が多い。
- 皆さん協力的

**【悪いところ】**

- 朝の掃除が面倒くさい。
- お店が少ない。
- 古い町なので道路まで木が多い。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 世代の交流があれば良い。
- 中学生のイベントがたくさん増えたらいい。
- 雑草が多すぎる。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 広い公園があったらいい。
- 中間駅前に 100 円パーキングを作ってほしい。または駐車場を広くしてほしい。
- 新しい学校にしてほしい。

みんなで育てよう！ 地域の話・和・輪・環

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- 「あいさつ」運動を心がける。子ども、大人ともに指導（自助・互助）
- 高齢、障がいのある方が参加できる行事を開催して、児童部に集合をかける。（自助・互助）
- 公民館を開放し、お茶でも飲みながら語り合う。（自助・互助）
- 一人暮らしの家がわかる体制にする（組内）。（共助）
- スーパーにお願いし、移動販売車等で困難な地域を廻る。（共助）
- 月1回の清掃を充実させる。（共助）
- 地域の役をしてくださる方への支援（公助）
- 福祉バスなどを利用して、高齢者、障がいのある方を運搬（公助）

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 緊急時に声掛けをする人との顔合わせをしておく。（自助・互助）
- 常に訓練をして、町内の人の顔を知る。（自助・互助）
- 公民館の開放（自助・互助）
- 全員の名簿がほしい（訓練の時のチェック）。（共助）
- 市全体、町内地域へ災害時の放送マイク（共助）
- アナウンススピーカー付きの車両（公助）
- 太陽光発電を設置（公民館）（公助）

#### (4) 中間小学校区

##### ①栄町・屋島・中町・昭和町自治会

###### 【良いところ】

- 地の人が多いので自治会役員の結束が良い。
- 盆踊りや山笠等、子ども達へ伝えようと続けている。
- 昔からの住民が多いので、お互い隣近所は顔見知りで仲が良い。

###### 【どのような自治会であれば良いか】

- 自治会に全員加入
- 高齢者が楽しく暮らせるようにしたい。

###### 【悪いところ】

- 高齢化で自治会全体のコミュニケーションの場が少ない。
- 中学生、高校生が屋島公園にたむろする。

###### 【どのような中間市であれば良いか】

- 病院、買物のため、交通の便を良くしてほしい。
- 医療と福祉の充実を望む。
- 暴力追放に力を入れてほしい。
- 若い人に住んでほしい。

### 活気のあるまちへ

###### 【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】

- 近隣とのコミュニケーション（自助・互助）
- 自治会。まず自分が参加し、町内の皆さんとの絆を深める。（自助・互助）
- 防犯組織の確立。組織化体制（共助）
- 自治会への参加の義務付け（公助）
- 周りを見ても、老人ばかり。空き地ばかりで今後は老人が安心して住めるように食事、買物に行けるようにしてほしい。（公助）
- 避難場所、避難地域の設定（公助）
- 店舗の誘致（公助）

###### 【中間市で災害・水害が発生した時】

- 一人暮らし高齢者に気をつけて早く避難。お互いに。（自助・互助）
- 正確な情報を常にテレビ、ラジオで情報を知るようにする。（自助・互助）
- 自治会加入の方はもちろん、未加入の方も自治会で全て把握できるようにする。（共助）
- 自治会で連絡網をつくる。（共助）
- 市による救助器具の使用法、AEDや人工呼吸等の講習（共助）
- 正しい情報を早く知らせてほしい。（公助）
- 防災マニュアルの作成（公助）
- 市は一人暮らしの方を把握する。（公助）

②片峯町自治会

【良いところ】

- 4組しかないので小さくまとまっている。
- 交通の便利が良い。
- 静かなところ

【悪いところ】

- 会員数が少ないので、行事ができない。
- 高齢化が進んでおり、町内行事がまとまらない。

【どのような自治会であれば良いか】

- 公民館の建て替えについてお願いしたい。崩壊が近い。
- できるだけ早く下水道整備をしてほしい。

【どのような中間市であれば良いか】

- 総合運動公園のある町
- 外灯整備（夜道が暗く不安）
- 犬のフン等のない町
- 緑が多い市

元気を出そう！！片峯

【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】

- 昔みたいに向こう三軒両隣みたいな付き合いをする。（自助・互助）
- 一人暮らしの見守りをする。（自助・互助）
- 児童公園。もっと利用しやすい環境、整備、支援（共助）
- 店舗の誘致（公助）
- 中鶴地区の暴力団事務所をなくす。（公助）
- 市立病院の充実（公助）
- ペットのマナー。悪質な者には罰則を課す。（公助）

【中間市で災害・水害が発生した時】

- 災害時の自分のすることを確認しておく。（自助・互助）
- 一人暮らしの方の避難援助（自助・互助）
- 各自避難場所の確認（自助・互助）
- 避難体制の確立（共助）
- 必要な連絡先を決める。（共助）
- モデルがあれば参考にして体制づくりをする。（公助）
- 市からの連絡網の確立（公助）
- スピーカー、サイレン等で警報を発信する（火災時と災害、水害時の使い分けをする）。（公助）
- 避難場所マップを作成する。（公助）

③中鶴一区自治会

**[良いところ]**

- 自治会の役員の方がよく真に誠意をもって接しておられる。
- 交通の便利が良い。
- 生活に必要なスーパー、病院などの便利の良さ

**[どのような自治会であれば良いか]**

- 自治会に協力して、進んで役を受け持つ人達（若い人）が増えてほしい。

**[悪いところ]**

- 高齢者が多く、若い人が少し少ない。
- 若い人が少ないので、昔のようにスポーツ大会等ができない。

**[どのような中間市であれば良いか]**

- 中間市はもっと祭りに力を。
- 昭和町の空屋、更地が多くなり、淋しい通りになっている。活性に力を入れてほしい。
- 人口増

住みよい 便利なまち

**[誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために]**

- 朝のあいさつと声かけ（自助・互助）
- 一人暮らしのところを通る時、意識して見て通る。（自助・互助）
- 乗合バスの運行に、チケットを発行する。（共助）
- 公民館を開校して、交流を深めるようにしたい。（共助）
- 自治会単位で負担して街灯を LED に変える。（共助）
- 市営住宅の建て替えについて、市役所に要望（公助）

**[中間市で災害・水害が発生した時]**

- ラジオ、テレビの予報に注意して、関心をもっている。（自助・互助）
- 飲料水、食料、トイレなどの備蓄（自助・互助）
- 防災体制を自治会単位で作る。（共助）
- 車両の確保（共助）
- 聞き取りやすい有線放送を各戸（全戸）に取り付けること（公助）
- 盛り土などを作って公園化してほしい。（公助）
- 高台がない。特に水害の時には困りものだ（盛り土など）。（公助）
- 水、トイレ、毛布の確保（公助）

④中鶴二丁目自治会

**【良いところ】**

- 自治会活動で月1回の掃除がある。
- 小さい子どもがよくあいさつをするようになった。
- 近くに大きなスーパー及びドラッグストアがあるので便利が良い。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 若い人が進んで自治会行事に参加してほしい。

**【悪いところ】**

- 近所付き合いがない。
- ゴミのマナーが悪い。
- 夜に暴走バイクの音が一年中間こえる。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 西鉄の大型バス運行よりも、中間市でマイクロバスを運行した方が良いと思います。
- 市職員が地域に入ってほしいです。
- 商店街を活性化してほしい。

あいさつがあれば 1日の笑顔のスタート 中鶴二丁目

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- 近所の人の声かけ（自助・互助）
- 下の階の高齢者の生ごみ出しをやってあげている。（自助・互助）
- 自治会で「声かけ運動」を推進する。（共助）
- 町内パトロールを行う(回数を増やす)。(共助)
- 自小中学校の懇談を、復帰を望む。（共助）
- コミュニティバスの増便（公助）
- 警察のパトロールを定期的に行ってほしい。（公助）
- ボランティア袋の配布を各自治体にもっと行ってほしい。（公助）

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 各組で災害時の避難指導者を置くと良いと思います。（自助・互助）
- 日頃からある程度の災害時の時の食料等を各自が揃えておく。（自助・互助）
- 自治会内に対策本部を設置し、指示を一本化する。（共助）
- 高齢者を屋上まであげるのを手伝う。（共助）
- 水害時の高台への避難場所はどこなのかわからない。（公助）
- 建物の種類、設置状況に合わせた避難マニュアルを作成してほしい。（公助）
- 災害時の物資量と確保場所を明確に教えてほしい。（公助）

⑤中鶴三区自治会

**【良いところ】**

- 民生委員さんの活動で一人暮らしの人達に目がよく行き届いています。
- いきいきが始まり、老人の方が楽しんで出席しておられる。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 新入居の人たちが自治会に入らない時、上手に入会を勧めるにはどうしたらよいか。アピールの方法が問題であるのか。
- 若い人が増える街であってほしい。

**【悪いところ】**

- 近くに商店がない。
- 外灯をもっと増やして下さい。
- 町内外の人の通行マナーが悪い。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 市民プールを作って下さい。
- 病院の充実
- 人口の増える市であってほしい。そのための対策を。

夕日と河の美しい町 中鶴三区

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- 公民館活動、区内の行事に出席しやすくするために、隣近所と声掛けあいをする。(自助・互助)
- 周辺の地域が活発になると、三区も元気になると思います。(共助)
- 堀川が綺麗になり、蛍の里が出来るとうれしい。(共助)
- 歩いて行ける場所にマーケットがほしい。(公助)
- パチンコ店の跡地(空店)を早く整理してほしい。(公助)
- 中鶴(市営住宅5階建)を綺麗に建て直してほしい。(公助)

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 水害の時必要な食料品をセットで準備する。災害の場合も。(自助・互助)
- 非常時の横のつながりを作っておく。(共助)
- 災害時のマニュアルブックを作ってほしい。(共助)
- 先日の大雨の時、市役所の放送がはっきりしなかったため、はっきり放送してもらいたい。(公助)
- 避難場所に決められる高所がない。(公助)
- 市役所で非常食がすぐ出してもらえるように準備してほしい。(公助)



◎浄花町自治会

**[良いところ]**

- チームワークが良いところ
- 文化活動がさかんである。
- 地域で子どもをよくみていると思う。

**[悪いところ]**

- 若い方の協力が少ない。
- 自治会未加入者あり。
- 公園に夜、少年達がいる。

**[どのような自治会であれば良いか]**

- 町内の全員が自治会に加入し、決まったことは全員守る。
- 笑顔とあいさつの町内

**[どのような中間市であれば良いか]**

- 乗合バスを小型に変えてもっと本数を増やしてほしい。
- 高齢者の住みよい町
- ゴミのポイ捨てのない町

笑顔でさわやかな風がふく 浄花町

**[誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために]**

- 向こう三軒両隣の復活（自助・互助）
- 自治会の事業に興味を持つこと。（自助・互助）
- 行事に自分から参加する。（自助・互助）
- 組内の人々が仲良く話し合っ、行事に参加するようにしたいです。（共助）
- 自分の組内の高齢者を正しく把握する（共助）
- 活発な自治会への助成金の上乗せ（公助）
- 定期的な交通（バス）がほしい。（公助）
- 道路の街灯を増やす。（公助）

**[中間市で災害・水害が発生した時]**

- まずはどこに行くべきかを知っておく。（自助・互助）
- 救命器具を必ず家に設置しておく。（自助・互助）
- 組内に入っていない人の把握（共助）
- 町内連絡網をつくる（安定的な）。（共助）
- 避難訓練の実施（共助）
- 各家庭に有線放送を設置（公助）
- 県住を避難場所に（屋上）。（公助）
- ハザードマップを作る。（公助）
- 非常食の斡旋をしてほしい。（公助）

⑦岩瀬西町一区・二区自治会

**[良いところ]**

- 自治会に 20 代～70 代の役員が参加している。
- 防犯・防災活動が活発である。

**[悪いところ]**

- 自治会役員の世代交代が難しい。
- 子ども会が消滅した。
- 通学路が狭く、車の通行が多く危険

**[どのような自治会であれば良いか]**

- 行事（自治会）にいろいろ工夫をこらしたことを行う（マンネリ化の防止）。
- 世代間交流が活発になる努力を。
- 憧れられる自治会であればと思う。

**[どのような中間市であれば良いか]**

- 生活道路の重点点検。計画的な長持ちする道路の整備計画と通知
- バス運行回数の充実
- 若い男女の交流の機会を設けてほしい。

心ふれあう みんなが集う いい岩瀬西町

**[誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために]**

- 気づいたことは話し合う。（自助・互助）
- 組の高齢者の健康状態の把握（自助・互助）
- 数少ない他人の子どもに関心をもつ。（自助・互助）
- 隣近所の付き合いの機会を増す。自治会参加（共助）
- 自治会の交流イベントの開催、広報の復活（共助）
- 自治会未加入者に対して会費を1～2年分市が負担、免除（公助）
- 雑草の草刈り（公助）
- 医療の充実（公助）

**[中間市で災害・水害が発生した時]**

- 水災害に被災した地域の事例の紹介。ビデオ、広報写真、DVD 等は自治会でも放映できる。危機感の見直し（共助）
- 災害時の模擬体験（共助）
- 避難場所は自治会で具体的に検討の上、ハザードマップを作成する。（共助）
- 遠賀川の水位の危険度を事前 PR する。（公助）
- 常に避難場所の確認ができること（公助）
- 堤防決壊防止として非破壊検査等の予防措置が不可欠（公助）
- ハザードマップの見直し（公助）
- 川の清掃（ゴミ、自転車、草など）を。（公助）



⑧御館町・鳥森自治会

**[良いところ]**

- 地の方が多く、和気あいあい
- 交通機関が便利
- 公園が点在する（屋根のない博物館等）。
- 緑が多い。

**[どのような自治会であれば良いか]**

- 若い役員さんが遠慮なくものを言える。
- 自治会同士のふれあいがほしい。
- 市役所職員の特命自治会役員任命

**[悪いところ]**

- 高齢者が多く、自治会を脱会する人（死亡を含めて）が多い。
- 通勤途中、ゴミを捨てていく人が多い。

**[どのような中間市であれば良いか]**

- 町内の公民館を市営化してほしい。
- 遠賀川を活用したカヌー教室の開催等
- 外灯設備の維持
- 中間市の歴史文化の紹介と市民への浸透

人が訪れる町 御館・鳥森

**[誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために]**

- 自治会内でも挨拶（自助・互助）
- 思いやり、助け合いの気持ち（自助・互助）
- 組の役職の中で、組長の順番関係で退会者が多い。高齢者の順番外す。（共助）
- 子ども祭り。小学生校區別対抗。やっちゃれ祭り（共助）
- 自治会に公助がない。資金が出ない。（公助）
- ハピネス便の別に交通便。コミュニティバス（公助）
- 河川敷の利用（夏祭り等）（公助）
- 公民館の市による管理体制（公助）

**[中間市で災害・水害が発生した時]**

- 自治会ごとの誘導體制の確立（自助・互助）
- 非常時持ち出し袋等の用意（自助・互助）
- 災害情報を知らせる優先順位を自治会で決め、行政は順位に従って情報を流す。（共助）
- 避難場所は小さく分けて自治会で決める。（共助）
- 情報の提供（公助）
- 中間市災害水害消防署のサイレン。市民に知らせる。（公助）
- 避難場所の標示又は標識（公助）

### (5) 中間北小学校区

#### ①岩瀬東町・下蓮花寺・自由ヶ丘自治会

##### [良いところ]

- 自治会の草刈りなどよく参加される。
- 自然が多く、騒音も少ない。
- 人とのふれあいがある。
- 公共施設（乗り物）が便利

##### [どのような自治会であれば良いか]

- 自治会の役員が同じなので、若い人に協力してほしい。
- 互いに支え合う自治会

##### [悪いところ]

- 犬のフンの放置が多い。
- 自治会に入らない人が多い。
- 若者が少ない。

##### [どのような中間市であれば良いか]

- 暴力団のいない市に。
- 活力のある町づくり
- 予算を削減せず、活動費の増額をする中間市

緑が輝くまち 下蓮花寺、住みよいまち 自由ヶ丘、  
みんな心かよわせる 岩瀬東町

##### [誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために]

- ふるさとみまわり隊により安全なまちづくりを進める。(自助・互助)
- 一人暮らし高齢者に対する思いやり(自助・互助)
- 定期的な見守り。チェック項目作成(自助・互助)
- コミュニティバス(公助)
- 東町11組への道幅が狭い。(公助)
- 道路、田んぼにゴミを捨てている。時々拾っているが、ゴミ袋を支給してほしい。(公助)
- 地域では土地があまりないため、駐車場のない家が多く、若い人が住みにくいところである。広場を少し開放してもらえたら暮らしやすくなる。(公助)

##### [中間市で災害・水害が発生した時]

- 防災教育と訓練の実施(共助)
- 自治会、隣組で高齢者の名簿作成と確認(共助)
- 地域の人に避難所の徹底をする。(共助)
- 自治会内の住民情報(公助)
- 個人情報厳しく、災害時には一人暮らしの高齢者や障がいのある方を掌握ができない。(公助)
- 最終場所の地図配布(公助)
- 必需品の準備(装備、食料、水)。(公助)

②岩瀬北町自治会

**【良いところ】**

- 資源回収ができています。
- 少人数ではあるが、自治会のため奉仕してくれる人達がいる。
- 子どもの数が増えている。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 自治会への加入者が増えてほしい。
- 気がねなくつきあえる町
- 歩いて市役所に行けるように歩道、自転車専用道路を。

**【悪いところ】**

- 交通量が増えている。対策不十分
- 災害放送が届かない。
- 雨の時の排水ができず、よく水が溜まる。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- ハピネスなかまのバスが市内どこでも停まるようになってほしい。
- 町そのものに活気が出る方法を、市でもたくさん提案してほしい。

元気な風 やさしい風がふくまち いわせ北町

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- 自治会の活動に協力的になる。(自助・互助)
- ごみの出し方、分別など自分でできることは自分できちんとする。(自助・互助)
- ゴミステーション管理、資源回収に協力して取り組むことをへて、協力経験を蓄積する。(共助)
- 子ども110番の役割の再認識、見直し(共助)
- 公民館を地域活動の拠点として整備する。(共助)
- 民生委員に住民の個人情報を提供する。(公助)
- 道路冠水対策(公助)
- 地域住民の意見を取り入れたまちづくりをする。(公助)

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 近所の方を確認する。(自助・互助)
- 昔の水害の話聞いておく。北町でも床上浸水したこともあるらしい。(自助・互助)
- 水害の他、災害別にシミュレーションをすること(共助)
- 組ごとに避難場所に避難する前の集合場所を確保(共助)
- まちかどサイレン。サイレン付きハンドマイクを各組に備える。(公助)
- 中8組裏の岩山に中学校への道をつけておく(岩瀬緑地公園として整備)。(公助)
- 想定外の雨が多くて冠水していると市は言うが、もっと根本的な見直しが必要ではないか。(公助)

③岩瀬南町自治会

[良いところ]

- 自治会の大きな行事に参加者が多い。
- 行事に対して役員に積極性がある。
- 思いやりがある。

[どのような自治会であれば良いか]

- 全ての家族が自治会加入している町内
- いろんな行事に子ども達がみんな参加できる町内
- 住みよい、きれいな、楽しみのある未来の自治会

[悪いところ]

- 何度回覧を回しても、特に犬のふんの処理が守られない。
- 自治会の組長になると辞めるという人が多い。

[どのような中間市であれば良いか]

- コミュニティバスを走らせてほしい。
- もっと色々なイベントを考えてほしい。
- 市外から観光に来られるような町に。

思いやりのある 優しい町 岩瀬南町

[誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために]

- 孤立死の予防（自助・互助）
- 見守り、声かけ（自助・互助）
- 無関心の方の掘り起こし（共助）
- 自治会への参加を促す。（共助）
- 買物代行、買物支援（共助）
- ハピネスバスで、各地域に駐車場を作って欲しい。（公助）
- 警察署（公助）
- 病院（公助）

[中間市で災害・水害が発生した時]

- 場所の確認、たすけあい（自助・互助）
- 避難場所の認識をもつ。（自助・互助）
- 非常食、買い置き（自助・互助）
- コミュニケーション（共助）
- 防犯パトロール強化（共助）
- 市の職員のボランティア活用（公助）
- 防災チェックに対しての徹底（公助）
- 名簿を民生委員に。（公助）
- 認知症高齢者、知的障がい者専用の避難所をつくる。（公助）

④高見・中牟田・白天自治会

**[良いところ]**

- 敬老会に自治会役員さんの協力で楽しく出席。
- 役員がまとまっている。
- ざっくばらんで気持ちが良い人が多い。

**[悪いところ]**

- 市民体育祭、スポーツフェスタ等に子どもが少なくなっていて参加できない。
- 高齢化率の高い地域の孤独死
- 空家が多い。

**[どのような自治会であれば良いか]**

- 自治会長の研修会等を行い、意識の高揚を図り、自治会組織の充実を高めたい。

**[どのような中間市であれば良いか]**

- 老人施設を多く作ってほしい。
- コミュニティバスは行政ではむずかしいのでは。校区でコミュニティバスを立ち上げた方が早期実現すると思う。

広げよう 思いやりの 和（わ）（なごみ）

**[誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために]**

- いきいきサロンの設置（自助・互助）
- 移動スーパーの活用が必要（自助・互助）
- 災害時の避難通路の確認と確保（自助・互助）
- 一人暮らしの老人のお宅に通話手段はできないか。（公助）
- 市内に交番が少ない。中央公民館、ハーモニーホール、コンビニ、体育館、市立病院他あるので、交番が必要では。（公助）
- 地域行事に小中学校などの協力が必要（公助）
- まちづくりに行政が協力してほしい。（公助）

**[中間市で災害・水害が発生した時]**

- 災害に対する意識を持つ。（自助・互助）
- 避難所の設定を全箇所徹底する。（自助・互助）
- まずは自分で備えておく。（自助・互助）
- 防災マップを見やすくする。（共助）
- 公民館に防災グッズを備える。（共助）
- 救命救急の講習を受けておく。（公助）
- 災害時の正しい情報がわかりにくい。（公助）
- 下水が整備されていない。（公助）
- 市職員の災害時の意識が低い。（公助）

⑤曙町・大根土自治会

**[良いところ]**

- 毎月の公園清掃に多くの方が参加しているの  
できれいになっている。
- 町全体は静かで住みやすい。
- 病院が近いし、スーパーも近い。

**[どのような自治会であれば良いか]**

- 全戸が自治会に入れる状況を作らなければ。
- 昔風の「向こう三軒両隣」的な近所づきあいが  
できる環境づくりを。
- 老人の住みやすい町に。

**[悪いところ]**

- メイン通りの駐車マナーが悪い。
- まとまりが悪い。
- 小学生以上から高校生と交流がほとんどない。
- 曙町内の外灯が全体的に暗い。

**[どのような中間市であれば良いか]**

- 地域の意見を聞いてくれる窓口があると良い。
- ゴミ袋を安くしてほしい。
- 市民が安心して生活ができるように。

声をかけよう みんなの笑顔で

**[誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられ  
るまちにするために]**

- 声かけ、組長の協力（自助・互助）
- 日頃から隣近所との声かけができる雰囲気づ  
くり（ご本人、自治会）。（自助・互助）
- 民生委員の活動レベルアップ。行政のバックア  
ップ。個人情報との関わりで動きづらいのが現状  
（共助）
- 代理での買物制度の導入を！（共助）
- パトロール重視の警察もしくは、これに近い人  
員の確保（公助）
- 自転車道を作ってほしい。（公助）

**[中間市で災害・水害が発生した時]**

- 各種災害に対しての日頃からの訓練実施を。  
（自助・互助）
- 遠い避難所より近くのところを考えておく。  
（自助・互助）
- 高齢者、障がいのある方の日常把握と連携組織  
づくり（自助・互助）
- 今回のような研修会を地域ごと、自治会ごと、  
さらにできるなら組レベルごとに関く。（共助）
- 放送設備（公助）



## (6) 中間南小学校区

### ①太賀・鍋山自治会

#### [良いところ]

- 行事が各種ある。
- 自治会加入率が高い。
- 町内行事を通して人の和が育っている。
- 子どもとのふれあい大会もある。

#### [どのような自治会であれば良いか]

- 自治会加入率 100%
- 高齢者にやさしい自治会
- 高齢者の買物が楽にできる。

#### [悪いところ]

- 役員の成り手が少ない（老人クラブ）。
- 参加者が限定されている。
- 一人暮らしの人があまり外に出てこない。

#### [どのような中間市であれば良いか]

- 南区は坂が多い！！太賀からは小学校まで1時間！！
- 他の市と中間市の違いが分からない。

思いやる心のまち 太賀、老人・子どもに優しいまち 鍋山

#### [誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために]

- 子どものあいさつ（自助・互助）
- 隣人同士気軽に話せること（自助・互助）
- ボランティア活動への参加を促す。（自助・互助）
- ふれあいサロンの活動充実（共助）
- 全体行事を数多く開催する。（共助）
- 一人住まい高齢者宅とのネットワーク通報装置（公助）
- 通報装置の設置、運営を市へ要請する。（公助）
- 公民館利用、サークル活動への参加呼びかけ（公助）
- 何をどこに申し込めば解決できるのかの表示（公助）

#### [中間市で災害・水害が発生した時]

- 公民館の開錠担当を決めておく。（共助）
- 情報が把握できるようにラジオ・テレビを準備する。（自助・互助）
- 常備品は確保しているか。（自助・互助）
- 避難場所徹底、避難誘導（共助）
- 連絡網の作成（共助）
- 要援護者（要移送者）の確認（共助）
- 避難マニュアルを作成する。（公助）
- 生活習慣病等の医薬品を補充してもらう。（公助）

②朝霧自治会

**[良いところ]**

- 自治会員の皆さんは協調性がある。
- 環境美化が進んでいると感じる。
- 公民館活動が活発

**[どのような自治会であれば良いか]**

- もっと若い人が関心をもつようなテーマづくり。
- 行事参加の促進
- 交通対策。交通の便をよくする。

**[悪いところ]**

- 交通の便が悪い。
- 年齢層によって、自治会への関心度にばらつきがある。
- 坂道が多く、高齢者には住みにくい。

**[どのような中間市であれば良いか]**

- 高齢者の交通手段確保
- 市立病院の整備
- 空家対策を考える。

みんなで創ろう あなたの朝霧

**[誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために]**

- 各組で一年に数回の集会をする。(自助・互助)
- 自治会行事等にみんなが参加する工夫(自助・互助)
- 買い物等の助け合い(持ちつ持たれつ)。(自助・互助)
- 中間市自治会の横の連携。(共助)
- 全コミュニティレストラン、喫茶。地域で運営(共助)
- ラジオ体操のようなことをする。(共助)
- 移動販売車の導入(公助)
- コミュニティバスの運用(公助)
- 保健施設を増やしてほしい。(公助)
- 往診制度の確立(公助)

**[中間市で災害・水害が発生した時]**

- 災害本部への連絡者を決めておく。(共助)
- 行政の指導助言を得て、避難マニュアルを作成する。(共助)
- 連絡網の作成(共助)
- 日ごろの避難訓練の必要性(共助)
- 連絡網の作成(共助)
- 要援護者(要移送者)の確認(共助)
- 学童の教育(公助)
- 高齢者の移送具(公助)
- 避難場所を増やす。(公助)



③通谷一丁目・二区自治会

**【良いところ】**

- 新聞等を提出し(資源回収)自治会の運営資金としている。
- 公住民の協力性がある。
- 治安が良い。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- どなたでも自治会役員になれる心でいてほしい。
- 色々と話し合えることが継続できれば良い。

**【悪いところ】**

- 犬のフンの放置
- スーパーが少ない。
- 坂が多く老人には住みにくいところ
- 子どもが少なくなってきた。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 他市町との市民交流
- 治安を良くしてほしい。
- 働く場の確保

人情あふれる通谷

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- たすけあえる環境をつくる。(自助・互助)
- ひとり暮らし高齢者の見守り(自助・互助)
- 街灯が切れているなど気がついたことを連絡する。(自助・互助)
- 老人介助の連携(共助)
- 生活用品の配達等の充実(共助)
- パトロールの強化(共助)
- 生活道路の改善(公助)
- 坂道への対応(公助)
- 防犯カメラの設置を増やす。(公助)
- 街灯をつける設置場所(公助)
- 医療関係の充実(公助)

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 災害情報(ラジオ、テレビ)、組内の声かけ(自助・互助)
- 避難訓練をしておく。(自助・互助)
- 災害時への備え(食料など)。(自助・互助)
- 地域での有線網(共助)
- 介助が必要な人たちもすぐに行けるように避難場所を増やしてほしい。(共助)
- 直路にいける避難経路図を。また、看板を設置する。(公助)
- 放送を何度か繰り返してほしい。(公助)
- 災害の現状をリアルタイムに伝える。(公助)

④通谷三区・四区自治会

**【良いところ】**

- 三大多行事（盆踊り、敬老会、文化祭）への参加者が多い。
- 自治会の加入者が90%以上
- 通りがかりにあいさつをよくする。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 皆が協力しあう自治会
- 行事参加者が多い町内
- 全員が子どもや年寄りの見守りであってほしい。

**【悪いところ】**

- バスが少ない。
- 坂道が多くて買物が不便である。
- 高齢者が多い。
- 公民館の場所が隅の方で不便

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 中間市でコミュニティバスを運行するとよい。
- 市民が5万近くいるのに警察署のない中間市に不満

みんなで楽しく活力のある元気な自治会（通谷三区）

未来に元気な通谷四区

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- あいさつ、声かけ（自助・互助）
- ふるさとみまわり隊に自発的参加（自助・互助）
- ひきこもらないで、なるべく玄関から出るようにする。（自助・互助）
- 体調の悪い方に買い物をしてあげる。（自助・互助）
- 買い物、配達システムの促進（共助）
- サロンの充実（共助）
- 公民館を利用して色々な部活をする。（共助）
- 子どもの学校、登下校の見守り隊をつくる。（共助）
- 介護を充実していくことが必要（公助）
- コミュニティバス、病院・買い物（公助）
- 民生委員の数を増やす（公助）
- 学校の道にガードレールを作ってほしい。（公助）

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 役員の日ごろの話し合い（自助・互助）
- 机上訓練の実施（自助・互助）
- 支援者の把握（自助・互助）
- 家庭でも飲料水、避難袋、ろうそくなどの準備をする。（自助・互助）
- ボランティアの受け皿の設置（共助）
- ハザードマップ作り（共助）
- 校区間の被害状況を把握できるシステムづくり（共助）
- 自治会内で情報伝達のマニュアルづくり（共助）
- 災害時の責任者を明確にしておく。（公助）
- 管内放送の充実（公助）
- 情報伝達のためのマニュアル作成（公助）
- 避難場所の物資の用意（公助）

⑤桜台・中央町・星ヶ丘自治会

**【良いところ】**

- 自治会行事が盛んである(盆踊り、もちつき)。
- 桜とツツジがきれい。
- 挨拶をわりあいされる。
- 交通の便が良い。

**【どのような自治会であれば良いか】**

- 若い人達が町内の事に関心を持ってほしい。
- 世代に関係なく交流できる自治会
- 思いやりのある自治会

**【悪いところ】**

- 住民の意見が集約できない。
- イベントへの参加者が特定される。
- スーパーがない。
- 公民館がない(常に他設備を借用する)。

**【どのような中間市であれば良いか】**

- 年配の方が多くなっているのに、バスの運営とか近くにお店などあったらと思う。
- 税金等の見直しで住みやすく。

元気であいさつのできる自治会

**【誰もが住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちにするために】**

- 気軽に声を掛け合って相談しあう。(自助・互助)
- ごみ収集の日、必ず後片付けと挨拶(自助・互助)
- 高齢者の確認とフォロー(自助・互助)
- ボランティアによる御用聞き(自助・互助)
- 老人クラブの活性化(共助)
- 野菜、鮮魚店などの協力で移動販売の促進(共助)
- 老人クラブと子ども会の交流(共助)
- 行政による宅配の補助(公助)
- コミュニティバスの早期実現(公助)
- 地域の団結力を高める取り組み(公助)

**【中間市で災害・水害が発生した時】**

- 災害時に被災者支援ができる人を、あらかじめ募集して把握しておく。(自助・互助)
- 防災マップを作る。(自助・互助)
- 最寄りの避難場所を自治会内で決めておく。(自助・互助)
- 組織づくりを早急に実施。行政の説明会を。(共助)
- 防災連絡網の整備(共助)
- ハザードマップの確認、再配布(公助)
- FM波を使った専用受信機の設置(公助)
- 避難場所への矢印の明示(公助)

